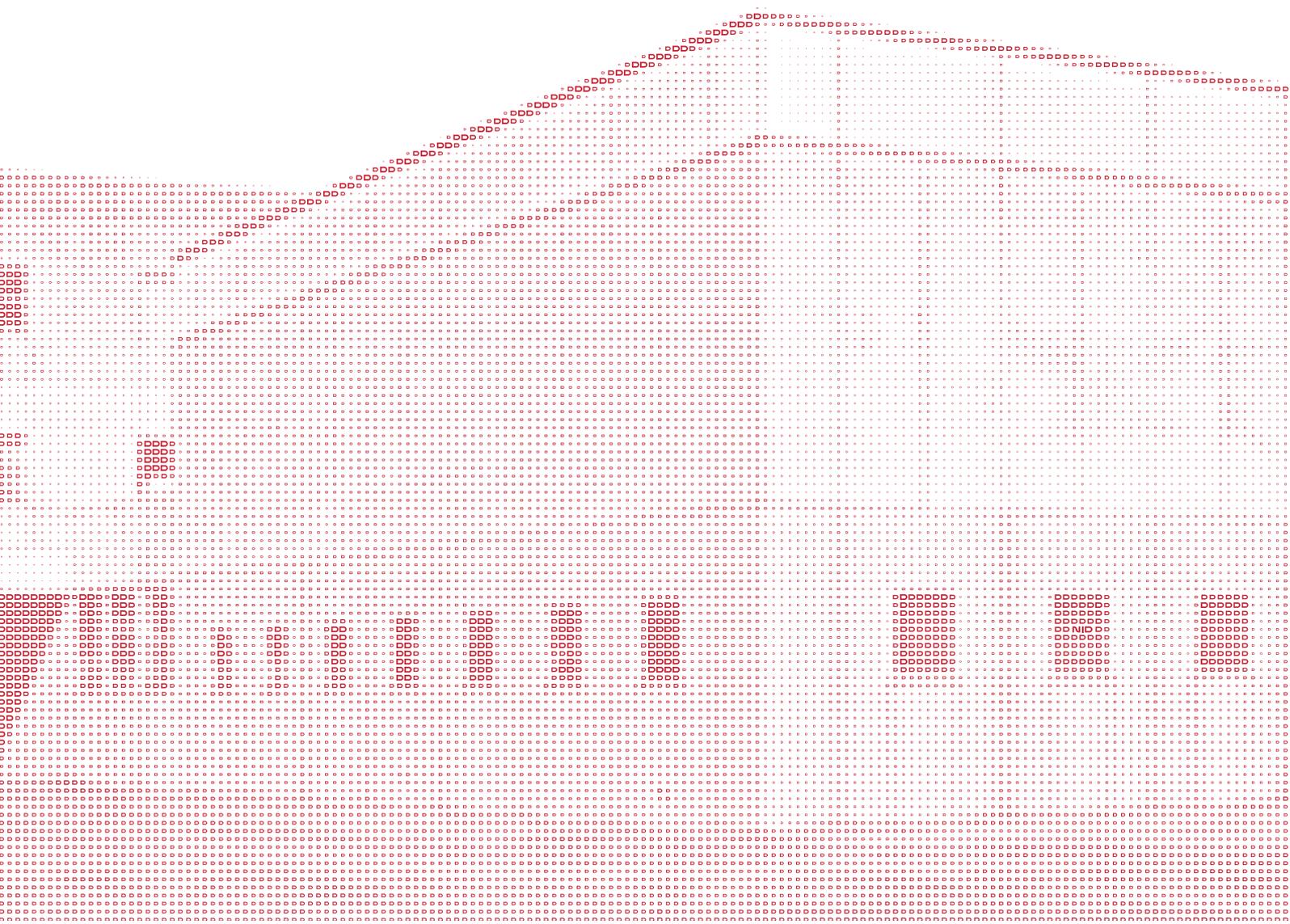


長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design
Guide to Liberal Learning in Graduate School

大学院履修ガイド

2018



大学院履修ガイド
目次

1	大学院設置の趣旨	1
2	研究領域の構成	3
3	単位の取得	4
4	学年・学期	4
5	授業	5
6	取得資格	6
7	履修の手引き	7
8	授業科目及び担当教員（平成28・29年度入学者）	16
9	授業科目及び担当教員（平成30年度以降入学者）	17
10	修了要件と学位授与プロセス	18
11	授業科目の内容（平成28・29年度入学者）	23
12	授業科目の内容（平成30年度以降入学者）	70
13	韓国東西大学・漢陽大学交換留学生の募集について	93
14	韓国東西大学複数学位取得留学生の募集について	94
15	長岡造形大学大学院学位規程	96
16	長岡造形大学大学院修士の学位に関する長岡造形大学大学院学位規程施行細則	100
17	長岡造形大学大学院博士の学位に関する長岡造形大学大学院学位規程施行細則	105

未来創造型実践大学院は、修士課程及び博士（後期）課程設置時の理念や目的を踏襲しつつ、理論と実践の両面において自らの専門分野の深奥をきわめるとともに、総合的な視野に立ちデザインを捉え、新たな価値を創造するための能力を修得する新しいコンセプトをもつ大学院である。

その特徴としては、社会の動向に即応した講義・演習科目により各領域の高い専門性と新たな価値を創造する能力の養成に力点を置くカリキュラム編成にある。当該カリキュラムでは、実プロジェクトを通して問題発見・解決を実践するPBL型演習科目、将来のキャリアパスに視野を広げ、社会に適応し自ら開拓できる力を身につけるソーシャルスキル科目を設置し、デザインにより新たな未来の創造に寄与することを目指している。また、ものごとの仕組みやシステムをも対象とするイノベーションデザイン領域を修士課程に新たに設け、時代が求めるイノベーターの養成に挑戦する。

大学院の目的	本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめるとともに、新たな価値を創造するための卓越した能力を培い、もって文化の進展に寄与することを目的とする。
修士課程の人材養成等 教育研究上の目的	修士課程は、造形分野における研究能力及び専門性を要する職業等に必要新たな価値を創造するための能力を備えた人材を育成することを目的とする。
博士（後期）課程の人材 養成等教育研究上の目的	博士（後期）課程は、造形分野に関する研究者として自立して研究活動を行う基礎作りを進め、優れた研究能力及び新たな価値を創造するための能力並びに基本となる豊かな学識を備えた有為な人材を育成することを目的とする。
教育の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 創造力の育成 造形教育による専門能力の深化に立脚し、理論と応用を踏まえ、新たな価値を創造するための能力を身につける。 2 統合力の育成 実社会との接点を持ち、異なる人・モノ・仕組みを統合し、新たな変革を生み出す統合力を身につける。 3 問題解決力の育成 問題解決のための多様な思考・手法に基づき、新たな答えを創造する力を身につける。
学位授与方針 (ディプロマポリシー)	<p>修士課程</p> <p>長岡造形大学大学院造形研究科造形専攻修士課程においては、以下の条件を満たしたものに對し、「修士（造形）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自らの研究領域において、高度な専門能力を修得していること 2 研究に際し、理論と実践の両面から探求していること 3 高い倫理性を備え、社会における自己の責任を自覚していること 4 社会貢献活動や研究成果の発表に意欲的に取り組んでいること 5 広く社会において、問題解決を伴う新たな価値を創造する能力を修得していること 6 所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること

博士（後期）課程

長岡造形大学大学院造形研究科造形専攻博士（後期）課程においては、以下の条件を満たしたのに対し、「博士（造形）」の学位を授与する。

- 1 自らの研究領域において、高度な専門性と独創的な研究テーマを確立していること
- 2 社会との連携に意欲的に取り組み、社会貢献に挑戦していること
- 3 研究領域において、後進を指導・育成できる素養を有していること
- 4 研究成果の発表において高い成果を上げていること
- 5 事象の本質を深く探求し、新たな価値を創造できる能力を有していること
- 6 所定の年限在学し、所定の単位を修得するとともに要件を満たし、博士論文の審査及び最終試験に合格すること

教育課程の編成方針 (カリキュラムポリシー)

修士課程

長岡造形大学大学院造形研究科造形専攻修士課程は、造形における高度な知識・技法の修得に立脚し、社会が求める新たな価値を生み出し、地域から世界まで幅広く貢献できる人間を養成するため、以下のとおり未来創造型実践カリキュラムを編成する。

- 1 広い視野に立ち専門分野の応用力を発揮するとともに、地域・社会の問題解決及び新たな価値創造を実践するPBL型演習科目を設置する。
- 2 将来の見通しを持ち、社会での適応力及び自ら歩み出す能力を修得するソーシャルスキル科目を設置する。
- 3 地域・社会を発表の場と捉え、積極的な演習及び研究の成果発表に取り組む。

博士（後期）課程

長岡造形大学大学院造形研究科造形専攻博士（後期）課程は、デザインに関する研究者として自立するための優れた研究能力及びデザインの総合的な理解を深めるため、以下のとおり未来創造型実践カリキュラムを編成し高度な研究に取り組む。

- 1 PBL型演習科目を通して、専門家の観点から地域・社会の問題解決及び新たな価値創造を実践する。
- 2 国際的な視野に立ち、外国語による表現や発表を積極的に行う。
- 3 造形理論の実習を主体に、多角的見地からデザイン研究を行う。

長岡造形大学で取り扱う 「イノベーション」の定義

人間的豊かさの源となるさまざまなモノやコトを対象に、デザインプロセスを通じて、問題やニーズの本質をとらえた新しい価値を創造することにより、生活や文化や産業に際立ったよい変化をもたらすこと

2

研究領域の構成

造形研究科 造形専攻

修士課程

平成28・29年度入学者

環境文化財学	建造物、遺跡、集落町並みなどの環境文化財に関して、その保存修復・修景の実践的方法論とその応用について探求する。
建築学	建築計画の方法論を研究し、建築の持つ社会性や芸術性を踏まえて、建築空間の設計とその実践的なプロセスを探求する。
空間計画学	広域圏から地区にいたる様々な空間スケールを対象として、都市計画、地域計画、防災計画、ランドスケープ計画に関する論理的、実践的方法論について探求する。
視覚デザイン	多様な情報メディアにおける視覚伝達の技術を学ぶとともに、人間社会における視覚コミュニケーションの本質を探求する。
美術・工芸	絵画・彫刻を中心とする美術領域及び、金属・繊維・ガラスなどを主材料とする工芸領域の素材、造形手法、創作表現の可能性について実践的に探求する。
プロダクトデザイン	人間の生活に関わる道具としてのプロダクト製品の企画開発から使用、廃棄までの全プロセスを踏まえて、デザインの側面からの論理的、実践的方法論について探求する。

平成30年度以降入学者

プロダクトデザイン	人間の生活に関わる道具としてのプロダクト製品の企画開発から使用、廃棄までの全プロセスを踏まえて、デザインの側面からの論理的、実践的方法論について探求する。
視覚デザイン	多様な情報メディアにおける視覚伝達の技術を学ぶとともに、人間社会における視覚コミュニケーションの本質を探求する。
美術・工芸	金属・ガラスなどを主材料とする工芸領域及び、絵画・彫刻を中心とする美術領域の素材、造形手法、創作表現の可能性について実践的に探求する。
建築・環境デザイン	建築計画、都市計画、地域計画、防災計画、ランドスケープ計画、環境文化財保存に及ぶ幅広い視点に立ち、実践的方法論とその応用について探求する。
イノベーションデザイン	デザイン思考に立脚し、イノベーションを構想・実現するための実践的手法を探求する。

博士(後期)課程

造形理論	プロダクトデザイン、視覚デザイン、美術・工芸、建築・環境デザイン、イノベーションデザインのそれぞれの専門分野を切り口として、人間を中心軸においた造形理論を構築することを旨とする。
------	---

3

単位の取得

大学院における教育課程の学習は、単位制によって行われ、すべての授業科目に一定の単位数が定められています。

単位数の計算 本学では、授業の方法や形態によって、原則として次のような基準で単位数が算定されています。

講義	1 授業時間(90分)×15回をもって2単位とする
演習	1 授業時間(90分)×15回をもって2単位とする
実習	1 授業時間(90分)×15回をもって1単位とする

※本学の授業は、通年科目30回、前期科目15回、後期科目15回で構成しています。

※単位数が2倍になると、授業回数も比例し2倍になります。

(例 演習4単位 = 1 授業時間×30回)

※1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として定められています。45時間の学修には、大学での授業時間のほかに、授業外に学生が自主的に行う自主学習(予習・復習等)時間も含まれています。

単位の認定 授業科目を履修し、各科目で定められている成績評価基準により合格した場合に単位が与えられます。

4

学年・学期

学年 4月1日 - 3月31日

学期 前期・後期に分かれています。

前期	4月1日——9月30日
後期	10月1日——3月31日

※後期授業は大学院学則第8条に則り、9月下旬より開始します。

※平成30年度以降入学者は、基礎科目群を第1クォーターから第4クォーターに分割(それぞれ期を2分)して運用します。

授業時間 授業は1時限90分で行われ、授業時間は次のとおりです。

時限	授業時間
1時限	9:00-10:30
2時限	10:40-12:10
3時限	13:00-14:30
4時限	14:40-16:10
5時限	16:20-17:50

授業時間割 毎年度当初に授業時間割を配付します。

集中講義 教員の都合等により、集中して授業を行う場合があります。

休講 災害、天候、その他の理由による臨時の休講や教員の都合による特定の授業科目の休講を行うことがあります。

補講 教員の都合による休講に対しては、その学期末の補講期間に補講を行うことがあります。

授業の実施、休講、補講、試験等、修学に関する学務課からの連絡は、学生用ポータルサイト“パレット”により行いますので、見落とさないように注意してください。
また、公共交通機関が運休、遅延した際の対応は、キャンパスガイドを参照してください。

欠席 欠席には次のような種類があります。届出が必要な場合もありますので注意してください。

公欠（出席扱いとなる欠席）

忌引（決められた親族に限る）、天災、学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症が理由で欠席する場合、公欠届を提出することにより、原則として出席扱いとなります。届出時には、下記の添付書類が必要となります。

- ・忌引……会葬礼状等

忌引きによる公欠を認める期間は、死亡した日または通夜の日から起算して、連続した下記日数（非授業日含む）の範囲内となります。

死亡した者	忌引日数
父 母	7日
祖 父 母	3日
兄 弟 姉 妹	3日
おじ又はおば	1日

（上記以外は、学務課に確認してください。）

- ・天災……自治体発行の証明書等
- ・学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症……保健所・医療機関等発行の証明書

この公欠届により、事務局から、認められた期間の授業の担当教員に公欠理由を伝えませんが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、補習や課題等の実施については各授業の担当教員が判断します。

公欠以外

（2週間未満の欠席）

各担当教員に直接欠席理由を伝え、補習・課題等の指示を受けてください。書類による届け出の必要はありません。

（2週間以上の欠席）

欠席届を提出してください。疾病やけがによる場合は医師の診断書が必要になります。

欠席届の提出により、事務局から、欠席期間の授業の担当教員に理由を伝えませんが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、出席点の取扱いや補習、課題等の実施については、欠席の理由により各授業の担当教員が判断します。

※どの場合の欠席についても、補習・課題等の指示については、学生本人が直接担当教員より受けてください。また、試験日に病気や災害などの正当な理由で欠席する場合は、追試験を受験できる可能性があります。詳しくは、「7-5 試験」（13ページ）を参照して下さい。

**学芸員資格
審査認定受験資格**

大学院修士課程又は博士（後期）課程を修了した者は、文部科学省が実施する学芸員資格審査認定の受験資格が取得できます。審査認定とは、学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有しているかの審査（具体的には、受験者の博物館に関する「学識」及び「業績」について書類審査）を行い、この審査に合格した者に学芸員となる資格を認定（「合格証書」を授与）するものです。

原則2年以上の学芸員補の職の経験があることが受験資格です。

**建築士試験における
大学院在籍期間の
実務経験認定について**

本学修士課程で開講するインターンシップ科目及びインターンシップ関連科目の単位を修得することにより、本学大学院の在籍期間が建築士受験資格要件である実務経験として認められます。これらの科目は博士（後期）課程の学生も履修でき、建築士受験資格要件の実務経験として認められます。

○実務経験認定要件

- ①インターンシップ科目 4単位以上
 - ②インターンシップ関連科目（講義科目） 8単位以下
 - ③インターンシップ関連科目（演習科目） 8単位以下
- 実務経験2年の認定 ①～③の合計が30単位以上
実務経験1年の認定 ①～③の合計が15単位以上

○インターンシップ科目

平成28・29年度入学者

科目名	単位数
インターンシップⅠ	4
インターンシップⅡ	4
インターンシップⅢ	4
インターンシップⅣ	4
インターンシップⅤ	6

平成30年度以降入学者

科目名	単位数
建築士インターンシップA	4
建築士インターンシップB	6
建築士インターンシップC	4
建築士インターンシップD	4
建築士インターンシップE	4

○インターンシップ関連科目（講義科目）

平成28・29年度入学者

科目名	単位数
環境文化財学概論A	2
環境文化財学概論B	2
建築学概論A	2
建築学概論B	2
建築学概論C	2
空間計画学概論A	2
空間計画学概論B	2

平成30年度以降入学者

科目名	単位数
サステイナブル環境論	1
文化財建造物とデザイン	1
建築物と空間の安全	2
文化財建造物活用論	2
ランドスケープ・アーキテクチャ論	2
建築設計論	2

○インターンシップ関連科目（演習科目）

平成28・29年度入学者

科目名	単位数
環境文化財学特別演習	4
建築学特別演習A	4
建築学特別演習B	4
空間計画学特別演習	4

平成30年度以降入学者

科目名	単位数
建築・環境デザイン研究	4

7-1 履修登録の流れ

大学院の教育は、学生がそれぞれの目的に基づき、主体的に学ぶことを基本としています。授業を受けるためには、学生自身で履修登録を行う必要があります。履修登録の手続きをしないと授業を受けることができません。履修登録および履修登録内容の確認は、本履修ガイドをよく読み、所定の期間内に自己の責任において行ってください。

7-2 履修登録の時期

履修登録は年2回、4月および9月に行います。

4月…【全員が行います】1年間の履修計画を立て当該年度に履修する全ての通年、前期、後期科目の登録を行います。

9月…【希望者だけ行います】後期科目を変更する場合にのみ行います。前期の成績に応じて、履修科目の取消や追加ができます。

7-3 履修登録の流れ

4月履修登録

【1年間の履修計画を立てる】

本履修ガイド、時間割を見て、研究指導教員と相談し、各自1年間の履修計画を立ててください。

【履修登録を行う】

・所定の期間中にパレットの「履修登録」機能より各自履修登録を行ってください。

【履修登録内容の確認を行う】

・パレットに表示される“学生時間割表”で確認します。
・必ず全員が履修登録内容の確認を行ってください。

正しく履修登録
されていた場合

登録内容に誤りが
あった場合

【履修登録内容の修正】

・所定の期間中に学務課まで申し出てください。

履修登録完了です。以降、前期・通年科目の履修登録を変更できません。

9月履修登録

【後期の履修計画を見直す】

前期成績通知表を確認し、後期の履修計画を見直してください。

後期履修科目を
追加または削除
したい場合

後期履修科目の
変更がない場合

9月履修登録は不要です。

【履修登録を行う】

・所定の期間中にパレットの「履修登録」機能より各自履修登録を行ってください。

【履修登録内容の確認を行う】

・パレットに表示される“学生時間割表”で確認します。
・9月履修登録を行った学生は必ず履修登録内容の確認を行ってください。

登録内容に誤りが
あった場合

【履修登録内容の修正】

・所定の期間中に学務課まで申し出てください。

履修登録完了です。以降、後期科目の履修登録を
変更できません。

7-4 パレットによる履修登録の方法

1. 履修登録受付期間に実施すること

〔前期〕

①上部メニューより「履修登録」をクリックします。



②科目を登録します。予め記入した履修計画表や時間割を確認しながら登録しましょう。

登録する科目の曜日・時限の **選択** ボタンをクリックします。

※登録した単位数の合計は画面右上に表示されます。



別画面が出ますので、登録する科目にチェックをつけ、**確定** ボタンをクリックします。



③登録した科目が表示されますので、同様にして1科目ずつ登録します。

登録を取り消したい場合は、**削除** ボタンをクリックしてください。

※パレットの画面は、上段が前期、下段が後期になっています。

※後期科目の履修登録を忘れないように注意してください。

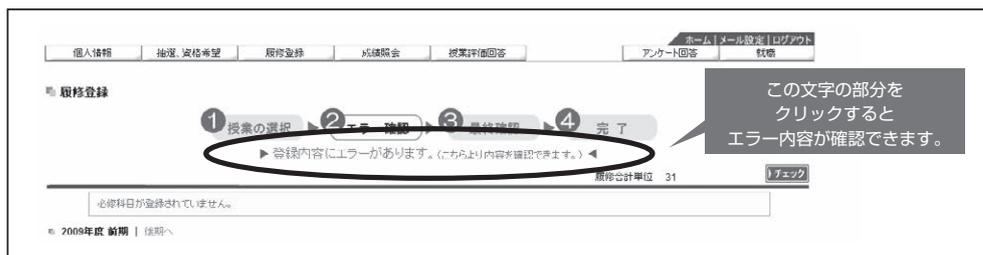


④すべての科目の登録が終了しましたら、登録画面の右上にある「**チェック**」ボタンをクリックします。

「チェックを開始してよろしいですか」との表示が出ましたら、「OK」をクリックします。

※登録を途中で中断する場合は、「**チェック**」ボタンをクリックしておく、後でこの続きから登録することができます。

登録内容にエラーがある場合、「登録内容にエラーがあります」というメッセージが出ます。



エラー内容が別画面で表示されますので確認し、エラーメッセージを参考に、登録の修正を行います。

※履修登録画面には、正しく登録された科目の背景はグレー、エラーとなった科目はピンク色で表示がでます。

※エラーが消えない場合、理由が分からない場合は学務課まで相談に来てください。エラーが全て消えるまで修正を行い、再度「**チェック**」ボタンを押してエラーがないかチェックします。

授業コード	科目名	単位	メッセージ
0000	必修科目 英語		2 修得済科目を履修しています。
0001	必修科目 英語		2 修得済科目を履修しています。
0002	必修科目 英語		2 修得済科目を履修しています。
0003	必修科目 英語		2 修得済科目を履修しています。

※ 制限エラー
制限エラーはありません。

【参考：エラーチェック時のメッセージ】

エラーメッセージの一例	原因	対応
必修科目が登録されていません。	必修科目が登録されていない、または登録が不足しています。	不足している必修科目を登録してください。
修得済科目を履修しています。	既に単位を修得した科目は履修登録できません。	選択した科目を削除してください。
同一時限に複数の授業を履修しています。	同一の時限には1つの科目しか履修登録できません。	登録しない科目を削除してください。

⑤すべてのエラーが消えると、最終確認画面となりますので、「**確定**」ボタンをクリックし、登録を完了してください。

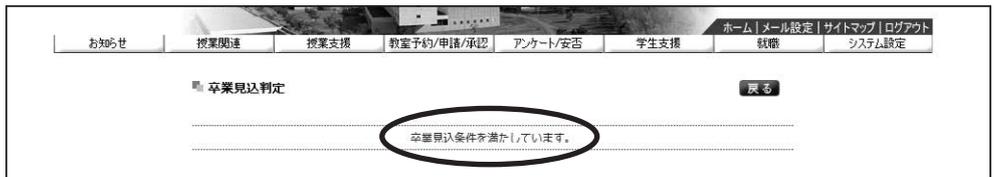
※登録画面に戻りたい場合は、「**授業の選択へ戻る**」ボタンをクリックしてください。



⑥次に、2年生は「卒業見込判定」をするため、「成績関連」→「卒業見込判定」をクリックします。



ここで「卒業条件を満たしています」という表示が出ていれば登録完了です。
 ※要件を満たしていない場合は、要件を満たすよう履修登録を見直してください。



●履修登録のやり直しについて

- ・履修登録期間中は、一度登録を完了していたとしても、修正が可能です。また、途中で登録画面に戻りたい場合は、**授業の選択へ戻る** ボタンをクリックしてください。
- ・登録を変更した場合には、必ず **チェック** ボタンおよび **確定** ボタンをクリックしてください。

※この操作を行わない場合、登録の変更が反映されませんので注意してください。

〔後期〕

①上部メニューより「履修登録」をクリックします。

後期の「履修登録」画面が表示され、すでに前期に登録した科目が表示されます。

②前期に履修登録した内容に変更がある場合には、登録の追加や削除を行ってください。

【科目を追加したい場合】

追加したい科目の曜日・時限の欄で **選択** をクリックし、追加したい科目にチェックをつけ、**確定** をクリックしてください。

※追加操作後、履修登録画面に、追加した科目が表示されているか確認してください。



【登録済の科目を削除したい場合】

削除したい科目の曜日・時限の欄で **削除** をクリックしてください。

※追加操作後、履修登録画面に、追加した科目が表示されているか確認してください。

※必修科目は削除しないように注意してください。

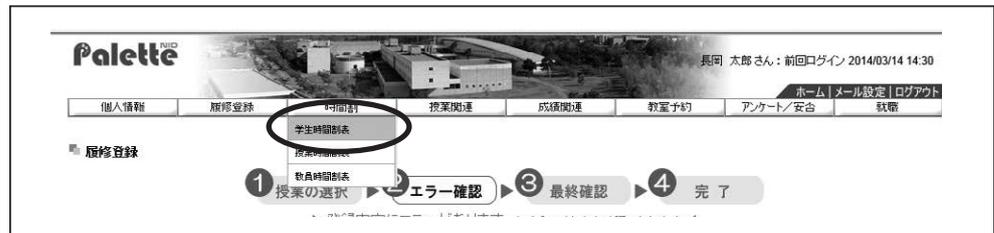
●以降、(1)履修登録受付期間に実施すること〔前期〕④～⑥の操作を行ってください。

2. 履修登録受付期間終了後に実施すること（前期・後期共通）

履修登録受付期間終了後、入力した科目がきちんと履修登録されたかどうかについては、以下の手順によりパレット上で必ず学生時間割表を確認してください。

※学生時間割表の確認は、予め決められた期間内に実施してください。確認期間から遅れて申し出た場合には対応できませんので、各自の責任で行ってください。

①上部メニューより「時間割」→「学生時間割表」をクリックします。



②万一、登録内容に誤りがあった場合は、学生時間割表の画面を印刷し、赤で修正を入れて、期限までに学務課に提出してください。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	017 環境情報学特論 【小川 総一郎】		012 デザイン文化論 【津村 泰範】	041 建築学特別演習B 【川口 とし子】 振替	
				041 建築学特別演習B 【川口 とし子】 振替	
	023 空間計画学特論 A 【栗辺 誠介】	011 アザイン特論 【栗辺 誠介】 振替			
		011 デザイン特論 【栗辺 誠介】 振替			

7-5 再履修と継続履修

再履修 再履修とは、不合格となった授業科目を次年度以降に再び履修することをいいます。再履修する場合には、改めて履修登録が必要です。

継続履修 継続履修とは、通年科目の前期授業を履修した後、休学・留学期間をはさみ、所定の手続きを経て次年度以降の後期に同一科目を履修した場合、通年で履修したとみなすことをいいます。

(例)

4月	9月	3月
「A科目」前期履修	休学	

次年度

4月	9月	3月
休学	「A科目」後期履修	

※ただし、開講する授業科目、担当教員、授業内容などの変更により、継続履修できない場合もあります。

7-6 試験

試験の種類 試験には、定期試験、追試験、再試験があります。

定期試験 定期試験は、原則として前期・7月、後期・1月の最終授業日に実施されます。ただし、担当教員が必要と認めたときは、随時に試験が実施され、この試験をもって定期試験に代えることがあります。定期試験のための試験時間割は特に組まず、担当教員の判断のもとに行われます。

追試験 病気や災害、交通機関の遅延、忌引などの正当な理由により、定期試験（随時に実施される試験を含む）を受けられなかった者は、当該試験日を含む3日以内（ただし事務局非業務日を含めない）に学務課に連絡し指示を受けてください。あわせて、定期試験終了後1週間以内に、その理由を証明する書類を添えた追試験受験願を学務課に提出し、担当教員の許可があった場合に、追試験を受けることができます。追試験の受験にあたっては、受験料（1科目2,000円）が必要です。欠席理由とそれを証明するための提出書類は次のとおりです。

欠席理由	提出書類
病気	医師の診断書または学校感染症に該当する場合、学校感染症治癒証明書
交通機関の遅延	当該交通機関の発行する遅延証明書
交通事故	事故証明書
親族の死亡・危篤	保護者や保証人の証明書またはこれに準ずるもの
就職試験	受験票の写しまたは受験先証明書
天災その他の災害	罹災証明書
その他止むを得ない理由	理由書

再試験 修了学年終了時に修了要件単位を満たさなかった者のうち、下記の全ての条件を満たした場合、特別に再試験の受験が認められます。

- ・特別研究が合格していること
- ・修了要件に不足している単位数が1科目分であること
- ・再試験対象科目の担当教員が、再試験の受験を認めていること

なお、再試験対象科目は本学開講科目で当該学期及び前学期に履修登録した科目のうち1科目に限ることとします。再試験の受験にあたっては、受験料（2,000円）が必要です。

受験資格 (1) 学費を納入していること。
(2) 履修登録をしていて、授業に出席していること。
※なお、出席不良や学習意欲に欠けるなどの理由で、担当教員が受験を認めない場合があります。

受験上の注意 (1) 試験を受ける際は、学生証を机の上に提示してください。
(2) 試験において不正行為を行うと、大学院学則第40条に基づいて懲戒処分を受けるとともに、履修上の処罰も課せられます。
(3) その他、試験場では、試験監督者の指示に従ってください。

7-7 成績評価

成績の評価は、担当教員の授業方針、評価方法によって異なりますが、試験、レポート・作品提出、授業出席の状況、その他に基づいて行われます。

「11 授業科目の内容」に、個々の授業科目について「学生に対する成績評価基準」として、その詳細が記載されています。

判定	評価	評点	評価基準
合格	A	100点～80点	授業の達成目標を十分に達成した
	B	79点～70点	授業の達成目標を概ね達成した
	C	69点～60点	授業の達成目標を最低限達成した
不合格	D	59点以下	授業の達成目標を達成できなかった

A・B・Cの評価を得た者を合格とし、単位を授与します。

成績通知 成績の通知は、前期は9月上旬に、後期は2月下旬に成績通知表を交付することにより行います。またパレットにおいても成績を確認することができます。

7-8 成績評価に対する異議申立て

シラバス等により学生に周知している達成目標及び成績評価の方法に照らして明らかに成績が誤りであると思う場合は、学務部長に対し異議を申立てることができます。

次の要領で手続きを行ってください。

手続き方法等

- (1) 異議申立期間は、当該科目の成績開示日から3日以内（日曜日、土曜日及び祝祭日は含めない）です。
- (2) 「成績評価についての異議申立書」は学務課教務係にて配付します。所要事項を記入し、添付書類とともに期限内に学務課教務係へ提出してください。担当教員への直接の異議申立ては認めません。
- (3) 異議申立書を受理した日から原則として2週間以内に、当該異議申立の結果を文書で回答します。
- (4) 成績評価に対する異議申立て期間等に関する詳細については、各学期の試験・補講期間前にパレットに掲示します。

7-9 既修得単位の認定

入学前の既修得単位の認定

大学院において教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に国内外の他の大学院において履修し、修得した単位を、本大学院に入学した後、10単位を限度として、本大学院において修得した単位とみなすことができます。

〔大学院学則第29条〕

入学前に修得した単位を有し、かつ認定を希望する者は、入学年度の4月中に、修得単位を示す成績証明書等の資料を添え、既修得単位認定願を学務課に提出してください。

7-10

他の大学院での学修

本大学院において教育上有益と認めるときは、国内外の他の大学院との協議に基づき、当該他大学院における授業科目の履修をすることができます。これにより、履修した授業科目における修得単位については、研究科委員会の議を経て、10単位を限度として本大学院において修得した単位とみなすことができます。

〔大学院学則第27条〕

なお、長岡技術科学大学及び新潟工科大学と単位互換協定を締結し、両大学大学院の授業科目を履修することができます。履修に際しての入学金、授業料等は免除され、取得した単位は学則の規定範囲内で本大学院における履修とみなします。

留学

外国の大学院に留学することを志願する者は、学長の許可を得て、留学することができます。

〔大学院学則第34条〕

本大学院では韓国の東西大学および漢陽大学と交流協定を締結しており、交換留学生を募集しています。（「13 韓国東西大学・漢陽大学交換留学生の募集について」参照）また東西大学とは複数学位協定を結んで留学生を募集しています。（「14 韓国東西大学複数学位取得留学生の募集について」参照）。

その他の大学と交流協定を締結し、交換留学者を募集する場合には、都度、お知らせします。

8

授業科目及び担当教員（平成28・29年度入学者）

8-1 修士課程における授業科目及び担当教員

区分	科目名	単位数	必修 選択	2年次		担当教員名	建築士 関連科目
				前期	後期		
基礎科目群	デザイン特論	# 2	選択6単位 以上				
	デザイン文化論	# 2					
	インターフェイス論	2			●	*尾田	
	環境計画特論	# 2					
	人間行動学特論	2		●		*中平	
	造形材料学特論	# 2					
	環境情報学特論	# 2					
専門科目群	環境文化財学特論 A	2	選択2単位 以上	●		津村・◎平山	◇
	環境文化財学特論 B	2			●	津村・◎平山	◇
	建築学特論 A	2			●	白鳥・◎山下	◇
	建築学特論 B	# 2					◇
	建築学特論 C	# 2					◇
	空間計画学特論 A	2		●		小川(総)・菅原・◎渡辺	◇
	空間計画学特論 B	2			●	小川(総)・菅原・◎渡辺	◇
	視覚デザイン特論	2		●		阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本	
	美術・工芸特論 A	# 2					
	美術・工芸特論 B	2		●		石原・遠藤・岡谷・◎小林・*赤塚・*笠原・ *小林(兄)・*富井	
	プロダクトデザイン特論	# 2					
	環境文化財学特別演習	4			●	津村・◎平山	◇
	建築学特別演習 A	4			●	江尻・白鳥・◎山下	◇
	建築学特別演習 B	4			●	川口・◎森	◇
	空間計画学特別演習	4			●	小川(総)・菅原・◎渡辺	◇
	視覚デザイン特別演習 I	4			●	阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本	
	視覚デザイン特別演習 II	4		選択4単位 以上	●	阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本	
	美術・工芸特別演習 I	4			●	石原・遠藤・岡谷・菅野・菊池・小林・鈴木・手銭・中村・ 長谷川(克)・馬場	
	美術・工芸特別演習 II	4			●	石原・遠藤・岡谷・菅野・菊池・小林・鈴木・手銭・中村・ 長谷川(克)・馬場	
	プロダクトデザイン特別演習 I	4			●	池永・金澤・金山・◎齋藤・境野・土田・増田	
プロダクトデザイン特別演習 II	4		●	池永・金澤・金山・◎齋藤・境野・土田・増田			
特別プロジェクト演習	2		●	研究指導教員・研究指導補助教員			
特別研究	12	必修	●	研究指導教員			
インターンシップ科目	インターンシップ I	4	自由選択科目	●			◆
	インターンシップ II	4		●			◆
	インターンシップ III	4		●		小川(総)・江尻・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・ 森・山下・渡辺	◆
	インターンシップ IV	4		●			◆
	インターンシップ V	4		●			◆

#平成30年度は開講しない

8-2 博士（後期）課程

科目名	単位数	必修 選択	1年次		2年次		3年次		担当教員名
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
造形理論	8	必修	●		●		●		天野・板垣・遠藤・小松・鈴木・長瀬・長谷川(克)・ 長谷川(博)・馬場・平山・真壁・松本・増田・御法川・ 山下・渡辺
造形理論研究指導			●		●		●		遠藤・小松・馬場・平山・真壁・渡辺

注1 = インターンシップ科目は環境文化財学、建築学、空間計画学領域の学生のみ履修可能

注2 = ◆は建築士試験における実務経験認定に係るインターンシップ科目、◇はインターンシップ関連科目

注3 = 建築士受験関連科目（◇または◆の記載がある科目）は博士（後期）課程学生も自由選択科目として履修登録が可能。ただし、インターンシップ
関連科目（◇の記載のある科目）については、修士課程で開講している場合においてのみ博士（後期）課程学生は履修することができる。

注4 = *は非常勤講師

9

授業科目及び担当教員（平成30年度以降入学者）

9-1 修士課程における授業科目及び担当教員

区分	科目名	単位数	必修 選択	1年次				2年次				担当教員名	建築士 関連科目	
				前期		後期		前期		後期				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目群	デザイン特論	1	必修2単位	●								板垣・小松・齋藤・長谷川(克)・長谷川(博)・山下・◎渡辺・*松本		
	イノベーションデザイン特論	1			●								板垣	
	美学	1	選択2単位 それを超えるものは自由選択	●								小松		
	デザインと法務	1		●									◎渡辺・*本多	
	形と素材	1			●								◎*久保・*寺内	
	構想発想法論	1			●								板垣	
	サステナブル環境論	1		●									◎渡辺・*飯野(由)	◇
	インターフェイス論	1			●								◎金山・徳久	
	デジタルテクノロジー	1		●									徳久・土田・真壁・◎増田・*堺	
	文化財建造物とデザイン	1		●									津村・◎平山	◇
専門科目群	社会とアート	2	選択4単位 それを超えるものは自由選択	●								◎小松・*宮田		
	地域と工芸デザイン	2		●									◎小松・*木田・*鞍田・*吉田	
	建築物と空間の安全	2		●									津村	◇
	文化財建造物活用論	2		●									津村・◎平山・*金出	◇
	ランドスケープ・アーキテクチャ論	2		●									小川(総)	◇
	建築設計論	2		●									江尻・◎山下・*飯野(由)	◇
	クリエイティブディレクション	2		●									◎山本・*嶋田・*角田	
	プロトタイプング演習	2		●									金山・真壁・◎増田	
	フィールド分析演習	2		●									板垣・◎金山・*中島	
	プロジェクト・マネジメントワークショップ	2		●									◎板垣・齋藤・渡辺	
プロジェクト	地域特別プロジェクト演習Ⅰ	4	必修	●								専任教員		
	地域特別プロジェクト演習Ⅱ	4	自由選択					●						
インターナルスキル	実務実習	4	選択4単位 それを超えるものは自由選択	●				●				専任教員		
	起業演習	4		●				●					渡辺・*栗井	
	建築士インターンシップA	4		●				●					江尻・小川(総)・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	◇
	建築士インターンシップB	6		●				●					江尻・小川(総)・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	◇
	プロダクトデザイン研究	4		●									池永・金澤・金山・◎齋藤・境野・土田・真壁・増田	
領域科目群	視覚デザイン研究	4	選択4単位 それを超えるものは自由選択	●								阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本		
	美術・工芸研究	4		●									石原・市川・遠藤・岡谷・菅野・菊池・小林・小松・鈴木・竹田・手銭・中村・長谷川(克)・馬場	
	建築・環境デザイン研究	4		●									江尻・小川(総)・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	◇
	イノベーションデザイン研究	4		●									池田・池永・板垣・岡谷・金山・吉川・齋藤・土田・津村・中村・渡辺	
	特別研究	10		必修						●			研究指導教員	
インターンシップ	建築士インターンシップC	4	自由選択	●				●				江尻・小川(総)・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	◆	
	建築士インターンシップD	4		●				●				江尻・小川(総)・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	◆	
	建築士インターンシップE	4		●				●				江尻・小川(総)・川口・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	◆	

9-2 博士（後期）課程

科目名	単位数	必修 選択	1年次		2年次		3年次		担当教員名
			前	後	前	後	前	後	
特別プロジェクト研究演習※	2	必修	●		●		●		天野・板垣・遠藤・小松・鈴木・長瀬・長谷川(克)・長谷川(博)・馬場・平山・真壁・増田・松本・御法川・山下・渡辺
造形理論	8	必修	●		●		●		天野・板垣・遠藤・小松・鈴木・長瀬・長谷川(克)・長谷川(博)・馬場・平山・真壁・増田・松本・御法川・山下・渡辺
造形理論研究指導			●		●		●		遠藤・小松・馬場・平山・真壁・渡辺

注1 インターンシップ科目は建築・環境デザイン領域の学生のみ履修可能

注2 ◆は建築士試験における実務経験認定に係るインターンシップ科目、◇はインターンシップ関連科目

注3 建築士受験関連科目（◇または◆の記載がある科目）は博士（後期）課程学生も自由選択科目として履修登録が可能。ただし、インターンシップ関連科目（◇の記載のある科目）については、修士課程で開講している場合においてのみ博士（後期）課程学生は履修することができる。

注4 *は非常勤講師

注5 ※社会人入学試験により入学した社会人学生は、実プロジェクトの経験があるものとみなす場合、履修を免除する。

10-1 修士課程修了要件

以下のすべてを満たした場合、修士課程修了となり修士（造形）の学位を取得することができます。

■平成28・29年度入学者

- ・本大学院修士課程に2年以上在学すること。
- ・本大学院修士課程の授業科目について、「基礎科目群」から6単位以上、「専門科目群」のうち講義系科目から2単位以上、演習系科目から4単位以上、特別研究12単位以上を履修し、合計30単位以上の単位を修得すること。
- ・修士論文または特定の課題についての研究成果を提出し、審査及び試験に合格すること。

■平成30年度入学者

- ・本大学院修士課程に2年以上在学すること。
- ・本大学院修士課程の授業科目について、「基礎科目群」から必修2単位、選択2単位以上、「専門科目群」から選択4単位以上、「プロジェクト科目群」から必修4単位、「ソーシヤルスキル科目群」から選択4単位以上、「領域科目群」から選択4単位以上、特別研究10単位を履修し、合計30単位以上を修得すること。
- ・修士論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、審査及び試験に合格すること。

※特定の課題についての研究の成果を提出する場合、研究副論文の提出が必要となります。

学位の授与プロセス

■平成28・29年度入学者

年次	月	事項	備考
2年次	4月	中間発表(公開)	
	10月	予備申請	「学位授与予備申請書」を学務課に提出
	11月	学位審査委員決定	研究科委員会にて学位審査委員決定
	1月	修士論文、特定の課題についての研究の成果 提出締切	指導教員に以下を提出 修士論文の場合 (1) 修士論文 (2) 学位授与申請書(所定書式) 1部 (3) 論文要旨(A4版2,000字程度、和文) 3部 特定の課題についての研究の成果の場合 (1) 作品一式 (2) 学位授与申請書(所定書式) 1部 (3) 作品説明小論文(A4版、和文) 正1部、副2部 (4) 保存用写真資料(A4版) 3部
	1月下旬	審査、修士論文等発表会(公開)	
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した修士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	3月	修士学位記授与式	

■平成30年度入学者

年次	月	事 項	備 考
1年次	2月	領域科目群成果発表	修士論文等発表会と同時開催
2年次	6月	中間発表(公開)	
	10月	予備申請	「学位授与予備申請書」を学務課に提出
	11月	学位審査委員決定	研究科委員会にて学位審査委員決定
	1月	修士論文、特定の課題についての研究の成果 提出締切	指導教員に以下を提出 修士論文の場合 (1) 修士論文 (2) 学位授与申請書(論文) 1部 (3) 論文要旨 (A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文) 各3部 特定の課題についての研究の成果の場合 (1) 作品一式 (2) 学位授与申請書(特定の課題についての研究) 1部 (3) 研究副論文 (A4版20,000字程度、和文) 正1部、副2部 (4) 研究副論文要旨 (A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文) 各3部 (5) 保存用写真資料 (A4版) 3部
	1月下旬	審査、修士論文等発表会(公開)	
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した修士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	3月	修士学位記授与式	

審査基準

修士論文等の審査の評価は、以下の審査基準に基づき行います。

修士論文	特定課題研究(研究副論文を含む)
(1) テーマ設定の適切性	(1) テーマ設定の適切性
(2) 論旨の一貫性	(2) 技術的表現力
(3) 文章表現、論理構成	(3) 独創性、新規性
(4) 独創性、新規性	(4) 研究に対する探求度
(5) 研究に対する探求度	(5) 完成度
(6) 完成度	(6) 研究副論文に関する文章表現、論理構成
(7) 形式的要件	(7) 形式的要件

指導体制

研究指導は、主担当となる研究指導教員が行います。

研究内容に応じて、任意で「副担当」として論文作成指導能力を有する研究指導教員から指導を受けることができます。

10-2 博士（後期）課程修了要件

以下のすべてを満たした場合、博士（後期）課程修了となり博士（造形）の学位を取得することができます。

■平成28・29年度入学者

- ・本大学院博士（後期）課程に所定の年限以上在学すること。
- ・本大学院博士（後期）課程の授業科目を8単位以上修得すること。
- ・研究指導を受けた上、博士論文についての審査及び試験に合格すること。

■平成30年度以降入学者

- ・本大学院博士（後期）課程に所定の年限以上在学すること。
- ・本大学院博士（後期）課程の授業科目を10単位以上修得すること。
- ・研究指導を受けた上、博士論文についての審査及び試験に合格すること。

博士の学位授与プロセス

■平成28・29年度入学者

年次	月	事項	備考	
1年次	10月	中間発表(公開)	博士論文の提出までに学会等で審査付投稿論文を公表 (2編以上、採択が決定されているものを含む、単著または筆頭著者であること)	
2年次	10月	中間発表(公開)		
	3月	予備申請		学務課に以下を提出 ・学位授与予備申請書 ・博士論文中間報告書
3年次	4月	中間発表(公開) ※修士2年と同時開催		研究科委員会にて審査委員承認
	9月	審査委員決定		論文(草稿)に関する発表 ※事前に審査委員による確認を行う
	10月中旬	学内発表会 (研究科教員)		指導教員に以下を提出 ・学位授与申請書(所定書式)1部 ・博士論文(A4版、和文または英文)正本1部、副本4部 ・博士論文要旨(A4 2,000字程度の和文及びA4版3枚程度の英文)各5部 ・論文目録及び別刷 各5部 ・履歴書
	11月中旬	論文の提出		審査委員による口頭試問、論文審査 最終試験等
	12~1月	論文審査・最終試験		
	2月	博士論文発表会 (公開)		主査は審査委員会が作成した博士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出 研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	2月中旬	審査結果の報告		主査は審査委員会が作成した博士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決	
	3月	学位記授与式		

博士の学位授与プロセス

■平成30年度以降入学者

年次	月	事 項	備 考
1年次	10月	中間発表(公開)	博士論文の提出までに学会等で審査付投稿論文を発表(2編以上、採択が決定されているものを含む、単著または筆頭著者であること)
2年次	10月	中間発表(公開)	
	3月	予備申請	学務課に以下を提出 ・学位授与予備申請書 ・博士論文中間報告書
3年次	4月	中間発表	修士2年と同時
	9月	審査委員決定	研究科委員会にて審査委員承認
	10月中旬	学内発表会(研究科教員)	論文(草稿)に関する発表 ※事前に審査委員による確認を行う
			作品制作の場合、以下の要件(いずれも満たすこと)に替えることができる。 ・審査付投稿論文を1編以上学会等に発表していること ・全国的あるいは国際的規模の展覧会、コンクール等に作品を出展し、2回以上の受賞歴を有し、またはそれに準ずる成果を挙げていること
	11月中旬	論文の提出	指導教員に以下を提出 (1) 学位授与申請書(課程博士)1部 (2) 博士論文(A4版、和文又は英文)正本1部、副本4部 (3) 博士論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版3枚程度の英文)各5部 (4) 論文目録及び別刷 各5部 (5) 履歴書 5部
	12~1月	論文審査・最終試験	審査委員による口頭諮問、論文審査最終試験等
	2月	博士論文発表会(公開)	
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した博士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決	
3月	博士学位記授与式		

審査基準

博士論文の審査の評価は、以下の審査基準に基づき行います。

博士論文(研究作品を要しない場合)	博士論文(研究作品を要する場合)
(1) テーマ設定の適切性	(1) テーマ設定の適切性
(2) 分析力	(2) 技術的表現力
(3) 論旨の一貫性	(3) 論旨の一貫性
(4) 文章表現、論理構成	(4) 文章表現、論理構成
(5) 独創性、新規性	(5) 独創性、新規性
(6) 研究の成熟度	(6) 研究の成熟度
(7) 考察力	(7) 考察力
(8) 有用性	(8) 有用性
(9) 完成度	(9) 完成度
(10) 形式的要件	(10) 形式的要件

指導体制

研究指導は、主担当となる研究指導教員が行います。

研究内容に応じて、任意で「副担当」として論文作成指導能力を有する研究指導教員から指導を受けることができます。

在学期間の短縮

大学院学則第37条第3項の規定に基づき、博士（後期）課程において「特に優れた研究業績を上げた者」は研究科委員会の議を経て、在学期間を短縮することができます。

この場合、特に優れた研究業績を上げた者についての適用要件は以下のとおりです。

- (1) 研究を進める中でその研究が飛躍的に進行し完成した場合
- (2) 論文提出要件を満たし、かつ国際的に高い評価を受けた場合
- (3) 博士（後期）課程において所定の単位を取得していること

－修士課程－

(1)基礎科目群

インターフェイス論

人間行動学特論

造形材料学特論

環境情報学特論

(2)専門科目群

環境文化財学特論 A

環境文化財学特論 B

建築学特論 A

空間計画学特論 A

空間計画学特論 B

視覚デザイン特論

美術・工芸特論 B

環境文化財学特別演習

建築学特別演習 A

建築学特別演習 B

空間計画学特別演習

視覚デザイン特別演習 I

視覚デザイン特別演習 II

美術・工芸特別演習 I

美術・工芸特別演習 II

プロダクトデザイン特別演習 I

プロダクトデザイン特別演習 II

特別プロジェクト演習

(3)特別研究

(4)インターンシップ科目

インターンシップ I

インターンシップ II

インターンシップ III

インターンシップ IV

インターンシップ V

－博士（後期）課程－

造形理論

造形理論研究指導

インターフェイス論

尾田雅文

後期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

機器と利用者の関係について、人間の側面と技術的側面の両面に基づく基礎的考え方および利用者インターフェイスの設計方法、評価方法について扱う。さらには、先進的インターフェイスの例として、3次元ユーザインターフェイス、バーチャルリアリティ、拡張現実感、コンピュータ援用協調作業の応用と関連基礎技術についても扱う。

達成目標

インターフェイスの構成が学際的であり、多様な知見に基づく成果であることを理解する。たとえば、理性や感性を満足することは当然のこととして、背景には物理心理学的な検討・考察によって、最適化が成されていることを理解する。

授業計画

- 1 インターフェイス論概要
- 2 視覚器官の構造と知覚
- 3 聴覚器官の構造と知覚
- 4 肢体障害とインターフェイス (1)
- 5 肢体障害とインターフェイス (2)
- 6 ヒューマンファクター (1)
- 7 ヒューマンファクター (2)

- 8 信頼性設計
- 9 ユニバーサルデザインの考え方 (1)
- 10 ユニバーサルデザインの考え方 (2)
- 11 ユーザビリティ評価の目的と方法
- 12 ユーザビリティ評価指標の開発
- 13 ユーザビリティ評価の事例
- 14 インターフェイスの展開 (1)
- 15 インターフェイスの展開 (2)

成績評価基準

●授業態度・意欲 : 30%

●課題レポートの内容評価 : 70%

なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を付与できません。

テキスト

●講義資料を配付する

参考書・参考資料等

「福祉工学」 依田光正・他 理工図書 2,800円

3Dプリンター×テーラーメイド医療 実践股関節手術 中田克也・他 金芳堂 9,800円

人間行動学特論

中平勝子

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

人が持つ感覚器官のうち、視覚と認知の關係に着目する。人が視覚から得られる情報からどのような過程を経て認知行動に移るかを、文献による学習、および実際の調査を経て定量的に認識する。また、特にユーザインターフェースや、絵画・文字などによる情報提示と人の行動に関する最近の事例を通して、人の行動に関する新しい知見を得る。

達成目標

- 1) 人が視覚情報からどのように認知処理を行っているかについて説明することができる
- 2) 人の視線データを統計的、あるいは時系列に分析することができる
- 3) 1) 2) をもとに、人の認知プロセスを理解できる

授業計画

以下を基本とし、履修者の専門分野分布を加味しながら2. および5. 以降は適宜変更します。

- 1 インタラクティブシステムデザインの基礎学習 (5回程度)
配布資料を基に、インタラクティブシステムデザインの基礎知識を学習する。講義・演習によって展開する。
- 2 視線情報、認知処理に関する文献輪講 (3-4回程度)
視線情報や認知処理に関する知識を文献輪講によって得る。
- 3 視線データの分析手法の実習 (1-2回程度)
実際の例をもとに視線データの分析手法について実習を行い、のちに行う実験から得られるデータ分析に備える。
- 4 視線データ計測を行うための機器操作学習 (1回程度)
実験を行う上に必要な簡易視線データ計測機器の活用法について学ぶ。

- 5 体験実習 (2回程度)

ここまで学んだ内容をもとに、実際に視線データ計測もしくはインターフェース関係の体験実験を行い、得られたデータの分析を行う。

- 6 体験実習分析結果の発表 (1回程度)

成績評価基準

授業時に課す演習提出・輪講担当の内容 (50%)、体験実験分析・結果発表の内容 (50%) で行う。

テキスト

随時必要なものをファイルで渡す。授業時に提示する資料を確実に入手し、予習することが望ましい。

参考書・参考資料等

以下の参考資料から必要な部分を紹介いたします。

インタラクティブシステムデザイン (W.M. ニューマン、M.G. ラミング著、北島宗雄他翻訳)、ピアソンエデュケーション、1999/12。現在絶版となっており、中古でなければ入手できないため、価格には変動がある。

続・インタフェースデザインの心理学——ウェブやアプリに新たな視点をもたらす+100の指針

(Susan Weinschenk 著、武舎 広幸、武舎 るみ、阿部 和也 訳)、オライリー、2016/8。

履修希望者への要望・事前準備

人の特性を知るための実験は根気の必要な実験を伴います。粘り強く取り組みましょう。また、授業の構成を把握していないと最後の実験に取り組むことが難しいので、毎時の学習内容は確実に押さえてください。

環境文化財学特論 A

◎平山育男、津村泰範

授業の概要及びテーマ

環境文化財学の領域における専門的で必ず必要となる知識・情報の修得に努めます。

建造物の保存修復計画（津村）

建造物、集落町並みの保存修復（平山）

達成目標

建造物、記念物、集落、町並みなど環境文化財（不動産文化財）の価値評価に関する基礎理論、方法論及びその国際関係を学びます。併せて「もの」を観る確かな目を養うことを目標とします。

授業計画

それぞれの課題について、以下のような方法で授業をすすめていきます。

[建造物の保存修復の計画]

事業としておこなわれる建造物保存修復の流れと構成を理解し、保存の歴史にそった修復事例から人や組織の役割とその意義を学び、今日の保存修復のあり方を考えます。

- 1) 修復事業の取り組み
- 2) 修復における調査
- 3) 設計と監理
- 4) 施工
- 5) 記録の作成
- 6) まとめ
- 7) 講評

前期

講義

2単位

[建造物、集落町並みの保存修復]

受講者の修士研究に関する物件についての修理工事報告書、町並み調査の報告書、関係資料などの読解を通じ、調査に関する基礎的な方法、理論を修得するとともに現状における問題点を明らかにしていきます。

なお、これまでに扱った文献、資料の主なもの以下の通りです。

『匠明』社記集、殿屋集など

授業の進め方は以下の通りです。

- 8) 歴史的建造物関連資料の収集・説明
- 9) 歴史的建造物関連資料の読解
- 10) 歴史的建造物関連資料の読解
- 11) 歴史的建造物関連資料の読解・解説
- 12) 歴史的建造物関連資料の考察
- 13) 歴史的建造物関連資料の考察
- 14) 歴史的建造物関連資料の図化・翻刻化
- 15) まとめ

成績評価基準

受講態度 20%、課題提出 80%

参考書・参考資料等

文化財保護法（六法全書）

履修希望者への要望・事前準備

授業は修士研究を進める上で、基礎的な素養と方法を取得するものです。主体的な取り組みを望みます。

環境文化財学特論 B

◎平山育男、津村泰範

授業の概要及びテーマ

環境文化財学の領域における専門的で必ず必要となる知識・情報の修得に努めます。

・建造物の保存修復技術（津村）

・建造物、集落町並みの周辺環境（平山）

達成目標

建造物、記念物、集落、町並みなど環境文化財（不動産文化財）の価値評価に関する技術の基礎を学ぶ。理論を実践する強い意志を養うことを目的とします。

授業計画

それぞれの課題について、以下のような方法で授業を進めていきます。

[建造物の保存修復の技術]：津村

建造物修復の実際を4項目の要件に整理し、多様に展開する最新の修復事例などから考え方と方法を学ぶことによって保存修復の理念・理論を研鑽します。

- 1) 破損部分の修理
- 2) 基本となる方針の検討
- 3) 維持・保存の措置
- 4) ~5) 活用にとりなう設備・施設の設置
- 6) まとめ
- 7) 講評

後期

講義

2単位

[建造物、集落町並み、周辺環境]：平山

実際に建造物、集落町並みなどを保存する場合、建物の修復、や周辺環境との調和は不可欠である。町並みはどのような構成物から成り立っているのか、それをどのように継承するのかなど、実践的に追求して行きます。授業では実際の町並みを対象として実踏調査を踏まえて、各自の提案をうける。

- 8) 現地の町並み／建築の解説
- 9) 現地における町並み／建築の調査
- 10) 現地における町並み／建築の調査
- 11) 町並み／建築調査の検討
- 12) 発表資料の検討
- 13) 発表資料の検討
- 14) まとめ
- 15) 発表・講評

成績評価基準

演習への取り組み姿勢 20%、課題提出 80%

テキスト

橋本市 橋本市の町と町家 平成 14 (2002). 3

履修希望者への要望・事前準備

本授業は保存修復の実践的な取り組みです。保存への熱い情熱で臨んで頂きたい。

建築学特論 A

◎山下秀之、白鳥洋子

通年
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

【山下秀之】

時代を切り開く建築ができる上で、必ず革新的な発想が欠かせないが、本講義では「発想のメカニズム」をテーマに、下記の2つの事例をとりあげる。「発想のメカニズム」とは、人が革新的物事を生み出す際の思考プロセスである。いずれも、山下がその実務に深く関わったプロジェクトであり、発想から設計・建設にいたるまで、広範に緻密に、実務的に解説する。革新的な発想から生まれた一本の線も、実務においては、形となり、力学となり、空間となり、費用となり、責任となる。いつ誰がどのようにして設計を詰め、建設まで至ったのかを知ることは、ひるがえって履修者の実務経験の糧となる。

【白鳥洋子】

本講義では、都市理論との関連を踏まえて建築理論の展開を学び、それを建築実務に生かす方法を探る。建築理論は都市文化の中で醸成され、発展してきた。建築を都市の中に埋め込むという実務の場においては、具体的な技術の問題や地域性に対して、いかに応答するかというローカリティを重要視した設計のあり方が問われてくる。同時に、地域の歴史性に対する深い知識と洞察力、現状の社会や環境に対しての社会的意識（公共というものの概念）なくして、建築設計や都市計画の発展はあり得ない。大きなテーマは「都市と建築」である。その間に人間がどのように関与し、どのように空間が社会と関わり合いを持つのかに肉薄する。

達成目標

【山下秀之】

建築設計の実務の場において、革新的な発想を実現する力を身につけること。

【白鳥洋子】

歴史的に醸成された建築理論を学び、その延長上に明日への建築を描けること。

授業計画

【山下秀之】

通年授業の内8コマを担当する。

- 1～4. 世界で稀なオールガラス構造体における発想・デザイン・建設について（ラファエロ・ヴィニオリ&渡辺邦夫）
- 5～8. 歴史的世界建築となった横浜客船ターミナルについて（Aザエラ・ポロ&FMサビ）

【白鳥洋子】

通年授業の内7コマを担当する。

1. 建築設計－パリの現代建築
2. 建築設計－フランスの近代建築
3. 建築設計－18、19世紀の建築
4. 都市設計－パリの都市建設と設計理論（1）
－フランス革命以前
5. 都市設計－パリの都市建設と設計理論（2）
－フランス革命期
6. 都市設計－パリの都市建設と設計理論（3）
－フランス革命以後
7. まとめ

成績評価基準

【山下秀之】

「自身の修士研究における発想と設計」について論じる期末レポート100%

【白鳥洋子】

期末レポート100%

*最終成績は、両者の平均点

テキスト

【山下秀之】

GA JAPAN 誌掲載の論考「発想のメカニズム」（山下が執筆し連載された）

【白鳥洋子】

授業時に配付する資料

参考書・参考資料等

【山下秀之】 多数、適宜

履修希望者への要望・事前準備

大学院生は専門職としての第一歩を踏み出しているのだから、社会から求められる存在としての自覚をもって研究に打ち込んでほしい。持続可能な環境を獲得するためには、確かな歴史的認識と社会性をもって、しかも新時代を切り開くような提案をできるよう、精進してもらいたい。

空間計画学特論 A

◎渡辺誠介、小川総一郎、菅原 浩

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

空間計画とデザインの制度、技術、実践、と課題を考察し、聴講生各自のテーマに置き換えて考察を深める。アプローチ分野はランドスケープデザイン、都市計画、まちづくり、防災計画、復興計画、地域振興、集落活性化および再編などである。

達成目標

複合的の各分野の先端を学び、自分の研究テーマへ応用することができる

授業計画

[渡辺パート]

テーマ：地方中小都市の活性化の考察

1. 少子高齢化と地方の経済に関する考察

参考文献：「老いていくアジア」大泉啓一郎著 中公新書
2007年

2. コンパクトシティの考え方

参考文献：「日本版コンパクトシティー地域循環型都市の構築」鈴木浩著 学陽書房 2007年

3. 地方都市再生の処方箋

参考文献：「中心市街地の創造力」宗田好史著 学芸出版
2007年

4. 出席者のテーマと組み合わせて考察発表

[小川パート]

テーマ：各受講者が取り組んでいる研究テーマに沿って、その対象地および周辺のランドスケープとどのように関連していくか、景観的調和や環境保全といった側面から検討し、その可能性を探究する。

1. 景観・環境保全の手法と活動事例についての講義とディスカッション

2. 各自の研究テーマに沿った景観・環境保全手法についての提案とディスカッション

3. 永続的な、景観・環境保全の手法、活動計画の提案とディスカッション

[菅原パート]

テーマ：空間計画学としては型破りではあろうが、空間デザインをする人は「場所のエネルギー」に敏感な人であってほしいと考える。ここではそのための基本知識の学習および実習を行う。

1. 場所のエネルギーとは何か
2. 場所と象徴性
3. 場所のエネルギーを感じる実習

成績評価基準

各パート課題 100%

テキスト

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

理論と事例を常に念頭に置きながら、空間的に人間と自然と歴史と社会を含むステークホルダーを調和させるデザインをどのように実現させるか(べきか)、常に考察する態度を望む。

空間計画学特論 B

後期
講義
2 単位

◎渡辺誠介、小川総一郎、菅原 浩

授業の概要及びテーマ

空間計画学特論 A を概論的なものだとすると、B はさらに具体的な制度、技術、事例考察となる。

達成目標

複合的の各分野の先端を学び、自分の研究テーマへ応用することができる

授業計画

[渡辺パート]

テーマ：まちづくりの制度と実践の考察

地域活性化センター編 「実践まちづくり読本」平成 20 年

第 4 章 地域再生と景観デザイン

第 5 章 まちづくり制度に見る住民参加の新しい形の輪読を通して、自分の地域の現状について考察する。

1. 授業主旨
2. 第 4 章 サマリー発表
3. 第 5 章 サマリー発表
4. 景観デザイン、住民参加についての自分の地域の現状考察

[小川パート]

テーマ：各受講者が取り組んでいる研究テーマの中で、エコロジカルな環境や空間をどのように取り入れることができるか、対象としている土地の特性を考慮した上で検討しモデルプランを立案する。

1. エコロジカルな環境事例の講義とディスカッション
2. 各自の研究テーマに沿ったエコロジカルな環境や空間の提案とディスカッション
3. エコロジカル環境のモデルプランの発表とディスカッション

[菅原パート]

テーマ：空間計画学としては型破りではあろうが、空間デザインをする人は「場所のエネルギー」に敏感な人であってほしいと考える。ここではそのための基本知識の学習および実習を行う。テーマとしては空間計画学特論 A と同じであるが、すでに A を受講した人に対しては、より進んだ内容で行う。

1. 場所のエネルギーとは何か
2. 場所と象徴性
3. 場所のエネルギーを感じる実習

成績評価基準

各パート課題 100%

テキスト

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

理論と事例を常に念頭に置きながら、空間的に人間と自然と歴史と社会を含むステークホルダーを調和させるデザインをどのように実現させるか(べきか)、常に考察する態度を望む。

視覚デザイン特論

長瀬公彦

前期

講義

2単位

授業の概要及びテーマ

グラフィックデザインとアートは、存在目的が違いながらも常に刺激を与え合い、お互いを進化させて来た。本授業では、グラフィックデザインが出現した19世紀から現代に至るまでの国内外のデザイナーやイラストレーター、ファインアーティストの作品と活動を主なテーマとし、作品や創作活動の背景ならびに社会的背景なども視野に入れ、グラフィックデザイン、アートを読み解き論ずる。

達成目標

グラフィックデザインやアートに関する知識を深めることにより、今後の制作活動における方向性決定の一助とすることが目的である。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 初期のグラフィックデザインとアート
- 03 ダダイズムとシュルレアリスム
- 04 戦後のグラフィックデザインとアート
- 05 ポップカルチャーとポップアート
- 06 1960年代以降の日本とそのデザイン
- 07 ネオエクスプレッショニズムの出現と日本のイラストレーション
- 08 1980年代以降の日本の広告、グラフィックデザイン
- 09 現代のグラフィックデザインとアート1

- 10 現代のグラフィックデザインとアート2
- 11 現代のグラフィックデザインとアート3
- 12 レポート出題
- 13 レポートチェック
- 14 レポートのチェック
- 15 レポート提出、まとめ

成績評価基準

レポート60%、授業の受講態度・意欲40%。

テキスト

適宜プリントを配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示する。また、授業の中でテーマに関連する様々な資料は用意する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

単に視覚デザインのみに関して論ずるのではなく、むしろそれ以外の事柄、例えば芸術、文化、社会情勢など、内容は多岐に及ぶ。よってあらゆる事に強い好奇心を持った学生の受講を望む。

視覚デザイン特論

金 峰洙

前期

講義

2単位

授業の概要及びテーマ

文様は人間だけが持つ意味のある象徴的な思考の表現物である。文様は最も原始的な意図の表現から始まり、今日においてはすべての芸術の中で最も一般的に現れる装飾芸術に発展した。本講義では、長く伝承されて来た様々な地域の文様を今日の観点から分析し、過去の地域文化や哲学などを理解することを目指している。

達成目標

- ・伝統的なグラフィックデザインの理解を深める。
- ・ヨーロッパ地域との比較分析を通じて日本の伝統文様の特徴を把握する。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 東アジアの文様（抽象文様）
- 03 東アジアの文様（動物文様）
- 04 東アジアの文様（植物文様）
- 05 東アジアの文様（自然現象文様）
- 06 東アジアの文様（人造物文様）

- 07 東アジアの文様（その他の文様）
- 08 ヨーロッパの文様（抽象文様）
- 09 ヨーロッパの文様（動物文様）
- 10 ヨーロッパの文様（植物文様）
- 11 ヨーロッパの文様（自然現象文様）
- 12 ヨーロッパの文様（人造物文様）
- 13 ヨーロッパの文様（その他の文様）
- 14 東アジアとヨーロッパの文様の比較分析
- 15 レポートの講評、まとめ

成績評価基準

レポート60%、受講態度40%

テキスト

適宜プリントを配付

履修希望者への要望・事前準備

授業に対する予習と復習を毎回忠実に行ってください。

視覚デザイン特論

徳久達彦

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

インタラクティブなコンテンツであれば人とコンテンツを利用できるようにする仕掛けが必要です。そのコンテンツの利用の際に必要な基本的な考え方を学び、様々なデジタルデバイスが登場している現代から未来に向け新しいコンテンツ制作でも対応できる有効なインターフェイスについて考察します。

達成目標

インタラクティブなコンテンツを制作する際に必要な知識を身につける。
コンテンツの利用に対する問題点を発見できるようになる。
様々なエンドユーザーの存在を知る。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 事例研究
- 03 調査・課題
- 04 発表・講評
- 05 事例研究
- 06 UX1

- 07 UX2
- 08 UI
- 09 ユーザビリティ 1
- 10 ユーザビリティ 2
- 11 ユニバーサルデザイン・アクセシビリティ
- 12 インプットデバイス
- 13 事例研究
- 14 調査・課題
- 15 発表・講評

成績評価基準

課題 30%、発表 30%、発言 30%、意欲 10%

テキスト

必要に応じて配付します。

履修希望者への要望・事前準備

様々な事例や課題やユーザーに対して考察します。
独りよがりのクリエイティブにならない為に他人に対して興味を持ってください。

視覚デザイン特論

長谷川博紀

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

ヴィジュアルアートの社会的意義を時代的変遷と流行から捉え直す。ヴィジュアルアーツは時代とともに大きな変化を遂げている。それは社会からの要請である。社会の変化をいち早く察知し新たな表現の提案を行ってきたヴィジュアルアーツの過去・現在・未来を展望する。

達成目標

- ・授業内容に即した文献等にあたり調査を入念に行い課題に反映できる。
- ・課題レポートの指示を正確に読み取りイラストレーションの社会的意義を具体例を挙げて説明できる。

授業計画

- 01 オリエンテーション ヴィジュアルアーツとは何か
- 02 ヴィジュアルアーツの役割
- 03 ヴィジュアルアーツの歴史
- 04 世界のヴィジュアルアーツ 1
- 05 世界のヴィジュアルアーツ 2
- 06 世界のヴィジュアルアーツ 3
- 07 世界のヴィジュアルアーツ 4
- 08 日本のヴィジュアルアーツ 1

- 09 日本のヴィジュアルアーツ 2
- 10 日本のヴィジュアルアーツ 3
- 11 日本のヴィジュアルアーツ 4
- 12 ヴィジュアルアーツの可能性 1
- 13 ヴィジュアルアーツの可能性 2
- 14 ヴィジュアルアーツの可能性 3
- 15 まとめ

成績評価基準

- ・課題レポート 70%、授業参加態度・制作姿勢 30%
- ・課題レポート提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備すること。遅刻厳禁、課題提出日厳守。授業計画は履修者の人数や専攻を考慮し、受講生と相談の上で若干の変更を行うことがある。

視覚デザイン特論

松本明彦

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

写真展、写真集などの具体例を通して、その写真家を分析し論じる。また写真の歴史を振り返り、そのジャンル、潮流、技法、表現について、分析し論じる。

達成目標

分析結果を参考に、自分自身の作品制作のテーマ、コンセプトを強固なものにする。

そしてその成果を元に作品制作をする。

授業計画

- 1 写真家1の分析
- 2 写真家1について発表
- 3 写真家2の分析
- 4 写真家2について発表
- 5 写真家3の分析
- 6 写真家3について発表
- 7 写真家4の分析
- 8 写真家4について発表
- 9 写真家5の分析

- 10 写真家5について発表
- 11 写真の歴史aについて分析
- 12 写真の歴史aについて発表
- 13 写真の歴史bについて分析
- 14 写真の歴史bについて発表
- 15 まとめ

成績評価基準

課題 60%
出席と積極性など授業態度 40%

履修希望者への要望・事前準備

各授業、分析のみならず、その結果を学生自ら発表してもらいます。自分自身の分析結果、考えを、しっかりと論じられるように。

視覚デザイン特論

ヨールグ ビューラ

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

本授業では「シネマティック ランゲージ」という題名で映画のデザインとその内容を伝えるために必要な映像表現の手法を研究します。特に視覚的なストーリーテリングを強調して、シネマの歴史の優れた映像を検討しながら自分の作品制作にとって大切なヒントと道具になるようにします。

達成目標

1. 映像作品の分析方法を習得できる：スペースの表現手法やカメラワーク、編集技法、などの映像的なストーリーテリングに対して必要なエレメントを検討する（講義/議論の形）。
2. 講義の進行と平行し、内容ごとに1つのシーンを発展、実際に映像を制作する（自作の形）。

授業計画

- 1 ガイダンス、テキスト（教科書）の紹介、授業の流れについて
- 2 スペース1：フレームのレイアウトと進行方向
- 3 スペース2：フレーム内のシェーブ
- 4 スペース3：ロケーション（撮影現場）
- 5 カメラワーク1：カメラ位置/ショットサイズ
- 6 カメラワーク2：カメラの動き
- 7 カメラワーク3：レンズ
- 8 ライティング技術（現場の照明）
- 9 小道具と大道具

- 10 編集1：モンタージュ、コンティニューイテーター
- 11 編集2：トランジション
- 12 編集3：時間
- 13 サウンド1：音楽
- 14 サウンド2：効果音、ナレーション
- 15 まとめ、作品上映会

成績評価基準

受講姿勢と課題映像作品での評価（受講姿勢 30%、提出作品 70%）。
出席率2/3を下回る場合は単位を与えません。提出課題作品は「作品上映会」の際、評価されます。

テキスト

Jennifer Van Sijll, Cinematic Storytelling, Studio City, 2005; ¥2,350

参考書・参考資料等

Joseph V. Mascelli, The Five C's of Cinematography, Beverly Hills, 1965
Steven D. Katz, Film Directing Shot by Shot, Studio City, 1991

履修希望者への要望・事前準備

好奇心。特に英語のテキストと課題作品への努力。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

視覚デザイン特論

山本 敦

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

ブランディング・デザインは、大企業だけではなく中小企業や地域にこそ必要なコミュニケーション活動である。企業や商品の本質を探り、独自の世界観を創り上げることは情報過多の現代には必要不可欠な要素といえる。ブランディングの歴史的な背景を学びながら、企業の事例を取り上げ、その表現方法、コミュニケーション領域などを分析し論じる。

達成目標

ブランディングの背景・知識を説明できる
企業のブランディングについて分析ができる
分析した事例について発表できる
顧客の接点となるコミュニケーションツールを提案できる

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 ブランディングの歴史
- 3 ブランド要素1
- 4 ブランド要素2
- 5 顧客との接点1

- 6 顧客との接点2
- 7 ブランディング事例1
- 8 ブランディング事例2
- 9 ブランディング事例3
- 10 ブランディング事例4
- 11 ブランディング分析1
- 12 ブランディング分析2
- 13 ブランディング分析3
- 14 ブランディング分析4
- 15 まとめ

成績評価基準

レポート 60%、授業の受講態度・意欲 40%

テキスト

適宜プリントを配布

履修希望者への要望・事前準備

自分自身で考え、行動すること。机上ではなく、さまざまな情報と現場を見に行く行動的で好奇心を持った学生を望む。

視覚デザイン特論

阿部充夫

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

書籍、ポスター、テキストを用い、写真家の技法コンセプトについて学び、広告デザイン、写真を分析する。

達成目標

広告写真の成り立ちをふまえ、作品に応用していく。
カメラを自由自在に使いこなし、表現をすること

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2～5 広告写真家分析
- 6 カメラ：しくみ
- 7 カメラ：レンズ
- 8 カメラ：フィルムの色再現
- 9 カメラ：デジタルの色再現1
- 10 カメラ：デジタルの色再現2
- 11 眼の色の見え方
- 12 撮影光源
- 13 環境光
- 14 デジタル処理1

- 15 まとめ

成績評価基準

課題 60%
授業態度 40%

テキスト

必要に応じ決定

参考書・参考資料等

[RGB ワークフローガイド 2007] 社団法人日本広告写真家協会
[眼・色・光] 社団法人日本印刷技術協会
[日本の広告写真 100 年史] 講談社
[早崎治広告写真術] 河出書房新社

履修希望者への要望・事前準備

授業ごとに自分の考えをまとめ発表してもらいます。
積極的に学んでほしい。

視覚デザイン特論

天野 誠

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

エディトリアルデザインの現場で求められる専門的な知識の習得を目的とします。指定の専門書を教科書として、解説していきます。

達成目標

- ◆デザインの「型」を知ることができる。
- ◆ルールの中にもアイデアがあることを知ることができる。
- ◆エディトリアルデザインに必要な専門知識を学ぶことができる。
- ◆実社会で活かせる知識を習得することができる。

授業計画

- 1回目：ガイダンス
- 2回目：文字を知る1
- 3回目：文字を知る2
- 4回目：文字を組む1
- 5回目：文字を組む2
- 6回目：ページの設計1
- 7回目：ページの設計2
- 8回目：レイアウトをする1
- 9回目：レイアウトをする2
- 10回目：組版ルール1
- 11回目：組版ルール2

- 12回目：書体について
- 13回目：製本について
- 14回目：用紙について
- 15回目：まとめ

成績評価基準

提出課題の作品に対する評価を20%とし、授業態度に対する評価を残りの80%とします。

テキスト

『デザイン解体新書』 工藤強勝 ワークスコーポレーション
2,571円(税込)

参考書・参考資料等

『デザイン解体新書』 工藤強勝 ワークスコーポレーション
2,571円(税込)
『デザイナーをめざす人の装丁・ブックデザイン』 Mdn コーポレーション 2,808円(税込)

履修希望者への要望・事前準備

エディトリアルデザインを本気で研究したい学生に受講してもらいます。参考書の『デザイン解体新書』に従って進めるので、各自用意してください。

視覚デザイン特論

吉川賢一郎

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

参考資料をもとに、1950年代から現代に至るまでの日本のアートディレクションを検証・分析し論じることによって、現代の日本のアートディレクションを知る。また、各自がテーマを設定し、そのテーマに沿って「私のアートディレクション100」を決定し、発表する。

達成目標

アートディレクションの観点から、多くの広告デザインに触れる機会を設けることで、自分自身のデザインの引き出しを増やすことができる。また、引き出しが増えることによって、アートディレクションの表現の幅を広げることができる。

授業計画

- (01) ガイダンス
- (02) 1950年代の広告デザイン(アートディレクション)
- (03) 1960年代の広告デザイン(アートディレクション)
- (04) 1970年代の広告デザイン(アートディレクション)
- (05) 1980年代の広告デザイン(アートディレクション)
- (06) 1990年代の広告デザイン(アートディレクション)
- (07) まとめ
- (08) 2000年～2003年の広告デザイン(アートディレクション)
- (09) 2004年～2007年の広告デザイン(アートディレクション)
- (10) 2008年～2012年の広告デザイン(アートディレクション)
- (11) まとめ
- (12) 「私のアートディレクション100」テーマの設定
- (13) チェック

- (14) チェック
- (15) 発表

成績評価基準

提出作品、授業参加姿勢を以下の項目により総合的に判断し評価します。

- ・課題を理解した上で自分の考えを持つことができるか。
- ・自分の考えを軸とし、深く掘り下げて調査・分析できるかどうか。
- ・調査・分析の結果を丁寧にまとめて発表することができるか。

テキスト

適宜プリントを配付します

参考書・参考資料等

日本の広告美術、JAGDA年鑑、ADC年鑑、TDC年鑑、TCC年鑑、ACC年鑑
ADVERTISING HISTORY I 1950～1990、ADVERTISING HISTORY II 1991～1995、60年代のグラフィズム(印刷博物館)

用具

筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

問題意識を持ち、積極的な参加を望みます。

視覚デザイン特論

真壁 友

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

この授業ではメディアアートやデバイスアートの作家の作品を取り上げ、そのコンセプトから作品に使われている技術的な側面を理解することを目的とする。さらにそこから発展して現代のテクノロジーを組み合わせた発展について考える。この授業では作品、作家を取り上げその分析を行う。またその取り上げた作品からの発展を考え作品制作に取り組む。

達成目標

その作品を生み出した時代背景からその作品の立ち位置を自分なりに理解し

そこで使われている技術の概要を理解する

それらの技術の応用として作品制作へと展開する

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2～4 調査
- 5～9 アイデアチェック
- 10～14 制作
- 15 プレゼンテーション

成績評価基準

レポート：30%

作品：70%

履修希望者への要望・事前準備

この演習ではメディアアートという分野について取り扱いま
す。しかしメディアアートは歴史も浅い分野です。他の分野
から多くの影響を受け生まれてきたジャンルです。他分野の
作品についても積極的に見たり調査をしてください。

視覚デザイン特論

池田光宏

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

近年、アートプロジェクトはアーティストやデザイナーはもちろ
ん、多業種異分野の人や組織が領域横断的に関わり、地域
との共創的な連携によって展開されている。そんなアート
プロジェクトの成り立ちから現在までを分析し、論じる。
また、その中で視覚デザインが担う役割や可能性についての
ディスカッションを行う。

達成目標

アートプロジェクトの歴史と文脈を理解し、実践的な制作に
取り組むために役立つ専門知識を習得できる。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ミュンスターズカルプチャープロジェクト
- 3 越後妻有トリエンナーレと日本型アートプロジェクト
- 4 多様化するコミュニティーベースプロジェクト1
- 5 多様化するコミュニティーベースプロジェクト2
- 6 ネットワークのハブとしてのオルタナティブスペース1
- 7 ネットワークのハブとしてのオルタナティブスペース2
- 8 公共空間のコミッションワーク
- 9 クリエイターによるワークショップ
- 10 プロジェクトのアートディレクション

- 11 多様な作品研究
- 12 レポート課題出題
- 13 チェック
- 14 チェック
- 15 発表

成績評価基準

レポート課題 60%

授業参加態度 40%

テキスト

適宜プリント配付

参考書・参考資料等

越後妻有トリエンナーレ展覧会カタログ（現代企画室）

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業に関連すると思われる事柄については各自で事前にリ
サーチしてみるなど、積極的な受講が望ましい。

視覚デザイン特論

山田博行

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

映像作品などの分析を通して、その作品性、製作手法及びテーマ性を展開し分析する。

そして自ら設定した映像作品についてレポートにて論じてもらう。

達成目標

◆映像作品を分析することによって、テーマ、コンセプト、手法など映像の背景に存在する奥行きを理解する。

◆自身の創作活動や映像制作に対してより広い視野と構造を持てるようになること。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 映像作品1の分析
- 3 映像作品1について発表
- 4 映像作品2の分析
- 5 映像作品2について発表
- 6 映像作品3の分析
- 7 映像作品3について発表

- 8 映像作品4の分析
- 9 映像作品4について発表
- 10 映像作品5の分析
- 11 映像作品5について発表
- 12 レポートテーマ設定
- 13 チェック
- 14 チェック
- 15 発表 まとめ

成績評価基準

授業参加態度 40%、レポート 60%

テキスト

授業のガイダンスにて適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

対話的な討議を通して、積極的な分析と探求の姿勢を期待する。

視覚デザイン特論

御法川哲郎

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

イラストレーション・グラフィック表現について、資料を見ながら理解を深める。

達成目標

イラストレーション・グラフィック表現について、歴史・役割・技法を理解する。

- 01 ガイダンス
- 02 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで1
- 03 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで2
- 04 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで3
- 05 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで4
- 06 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで5
- 07 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで6
- 08 イラストレーション・グラフィックデザイン表現のこれまで7
- 09 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン表現1
- 10 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン表現2
- 11 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン

- 表現3
- 12 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン表現4
- 13 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン表現5
- 14 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン表現6
- 15 ポスターにおけるイラストレーション・グラフィックデザイン表現7

成績評価基準

授業態度 80%、レポート 20%

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

美術・工芸特論 B

◎小林花子、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦夫、赤塚祐二、笠原 出、小林晃一、冨井大裕

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

今日の美術は、作品の価値観、表現活動、表現方法の横断化など、多岐にわたり変貌を続けている。

本授業では、西洋美術史、絵画、彫刻等を専門領域とするそれぞれの教員の視点から、近代・現代美術に焦点をあて、作家とその作品、活動等について講義を行う。そして、作家研究、研究発表などを通じてプレゼンテーション能力を養う。その結果、独自研究についても考察を深めることを目的とする。

達成目標

近代・現代美術における作家と作品等の知識の修得と作家研究、研究発表などを通じたプレゼンテーション能力の向上。

授業計画

- 01～05 テーマ：近代・現代美術1／作家研究、研究発表
06～10 テーマ：近代・現代美術2／作家研究、研究発表
11～15 テーマ：近代・現代美術3／作家研究、研究発表

成績評価基準

レポート等提出物内容 60%、出席・受講姿勢 40%

参考書・参考資料等

授業時に随時配付する。

履修希望者への要望・事前準備

各作家の活動について、事前に資料収集や実際の作品を鑑賞するなどの準備をしてから受講することが望ましい。各自の実際の活動に生かせるよう、作家との対話を積極的に行って欲しい。

環境文化財学特別演習

◎平山育男、津村泰範

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

環境文化財（不動産文化財）の調査、修復、修景、設計のプロセスについて実践的に経験する。以下の各テーマにより、文化財保存の実際を演習として体感する。併せて、インターンシップに向けた準備を行う。

- ・歴史的な建物の保存修復と活用（津村）
- ・集落町並み保存、調査、保存計画策定（平山）

達成目標

文化財保存を実践的に学び、その過程を習得する。

授業計画

- ・歴史的な建物の保存修復と活用は、建物の価値を再評価して高め、保存状態をより良く整える機会となる。事例の研究や現場の見学・体験を通し、調査、設計、監理、記録作成、活用計画など、事業として成り立っている保存修復の方法や過程を理解するとともに、専門家の備えるべき理論と技術の基礎を身につける。（木村）
 - ・集落町並み保存、調査、保存計画策定について、集落や町並みの中に入って、住民と接しながら体験・演習する。集落町並み保存の技術面のみでなく、社会的な側面や環境に関することを現場を通して学ぶ。（平山）
 - ・授業は以下の予定で実施する
- 01 全体説明、計画の設定
 - 02 計画の進め方を検討
 - 03 現地準備
 - 04 現地状況の分析、計画の策定
 - 05 現地調査
 - 06 現地調査

- 07 成果の整理と分析
- 08 中間発表
- 09 現地調査
- 10 事例研究、成果の整理と分析
- 11 事例研究、成果の整理と分析
- 12 成果の整理と分析
- 13 成果のまとめ
- 14 現地報告
- 15 最終発表・講評

成績評価基準

演習への受講態度 50%、演習をふまえた小課題の提出と発表 50%とする。

テキスト

授業内容に応じて適宜作成して配付する。

参考書・参考資料等

文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料
<http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html>
橋本市 橋本市の町と町家 平成 14 (2002). 3

履修希望者への要望・事前準備

本演習は、環境文化財学特論と各人の修士研究の橋渡しをすると同時に、文化財保存により社会に参加することの足掛りを作るための演習である。机上の空論に終わらず、社会の現実を体感してもらいたい。

建築学特別演習 A

◎山下秀之、江尻憲泰、白鳥洋子

授業の概要及びテーマ

まず、履修者とともに演習の内容を検討する。テーマは、履修者の大学院修士研究に関連すべきであるとするが、演習を通して、設計実務の知識と技術が向上することを条件とする。所属する研究室の各教員と密接にセッションをしながら、建築や環境デザインの設計図書としてまとめ上げていく。各教員が担当する領域は、以下のとおり。実務経験豊富な教員の指導により、インターンシップで修得した建築実務の内容及び手法を、さらに有用なものにする。条件を満たすのであれば、設計競技案の制作でもよいこととする。

達成目標

各教員が掲げる授業計画に沿いながら、履修者が自らの建築コンセプトに基づき、提案と設計を自らがまとめていけるようになること。その際、環境的、科学的、技術的といったキーワードを具現化することが重要となる。

授業計画

履修者自らが立案する授業計画の1例として、以下を掲げる。

- 01 テーマ選定、演習の進め方についての全体的セッション
 - 02, 05 コンセプト・調査分析・既設研究との関連
 - 03, 06 デザインディベロップメント
 - 04, 07 構造システムについてディベロップメント
 - 08 中間発表および以後の検討
 - 09 環境および社会の活性化検討
 - 10, 12, 14 里山環境における意匠検討
 - 11, 13 新工法・新素材による構造検討
 - 15 最終成果物の評価と修士研究における位置づけ
- 各教員の指導内容は、以下のとおりである。

通年

演習

4単位

〔山下秀之〕

コンセプトを建築意匠化する方法として、ダイナミックシステムの科学研究における有機的で再帰的な運動や、カオスの状態や、生物学的発生学的な多様性を理解してもらい、非線形幾何学の線を引きしていくことを指導する。ディテールの設計までを演習の範囲とする。

〔江尻憲泰〕

どんなに小さな建築でも、そこにはエンジニアリングを要し、多くの人々の協働作業が必要となる。しかし今、各職種では、分業化ではなく分断化が進んでいる。どのような分野に進もうとも広い視野でものを眺めることできなければならない。構造技術（構造設計）という視点を通して、建築全般を考える。

〔白鳥洋子〕

都市や地域の文脈を読むことや建築の歴史的ダイナミズムを概観すること、同時代の芸術的潮流を理解することは魅力的な建築の創造へと繋がっている。歴史的観点を持ちながら建築、都市、芸術の関係性の見識を深め、論考を行い、そこから建築を展開するように設計を行う。

成績評価基準

成果物によって評価する。

参考書・参考資料等

多数、適宜

履修希望者への要望・事前準備

演習を進めるにあたり最も重要であるのは、履修者各人の問題意識と修士課程におけるオリジナルな研究主題である。各履修者の建築学研究は、同時代の社会や精神に立脚するのみならず、次の時代を期待させる内容であるべきと考える。

建築学特別演習 B

◎森 望、川口とし子

授業の概要及びテーマ

履修者の特異性を、多くのディスカッションを重ねることで見つけ出し、修士研究に深く関わる演習とする。問題解決よりも問題提議に力を注ぎ自らの課題を掲げ、専門領域の追求を行う。

達成目標

デザイン上における独立した価値観の構成を最終目標とする。時代の感性は存在するが迷わされることなく、独自の視点で空間造形理論を構築する。環境形成型循環社会を視野に入れ、言論・思想・政治・宗教・文化・文明を読み取った上でデザインを構築する力を身につけ、履修者とともに演習の内容を検討する。またそのために多くのディスカッションを要する。テーマは履修者の大学院修士課程に関連したものを自ら用意し、教員と共に構築する。アウトプットとしては外部の設計競技に参加することも可能とする。

授業計画

- (1) 授業概要 第1課題出題
- (2) テーマ決定
- (3) エスキス
- (4) エスキス
- (5) スタディ模型制作
- (6) プレゼンテーション準備
- (7) 第1課題 発表・講評 第2課題出題
- (8) テーマ決定
- (9) エスキス
- (10) エスキス
- (11) エスキス
- (12) エスキス

前期

演習

4単位

(13) スタディ模型制作

(14) プレゼンテーション準備

(15) 第2課題 発表・講評

- 1、問題解決方法論よりも問題提議を中心に行う。
- 2、テーマを独自の観点から調査・分析を行う。
- 3、手法・戦略の開発から造形理論構築。
- 4、設計・デザイン・提案
- 5、創作的なプレゼンテーションを目指す。

成績評価基準

テーマから構築された作品性を重要視し成果品主義的な評価は行わず、そのプロセスを重要視する。

作品提出（平面図・立面図・展開図・断面図・天井伏図・素材パネル・模型・CG等）

第1課題 50パーセント

第2課題 50パーセント

デザイン論法に独自性があることが望ましい。

テキスト

日々進化し続けるデザインを読み取りながら、課題にあわせたテキスト、参考書を適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

時代の感性は確かに存在する。しかしながらその感性に惑わされることなく、調査・分析・手法・戦略の研究開発に精進してほしい。環境形成型循環社会を視野に入れ独立した価値観を形成しつつ、挑発的・予測不能・不規則を果敢に取り入れ実社会では提案できないものの構築も目指してほしい。

空間計画学特別演習

◎渡辺誠介、小川総一郎、菅原 浩

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

外部等からの依頼や、指導教官が必要と考えた特別プロジェクトおよび研究に対して、履修者各自の修士研究テーマと連携を図りながら、実践的空間計画を行うことで特別演習とする。

達成目標

実践的プロジェクトでの空間計画、デザインワークの完成が完成できる。

授業計画

1. オリエンテーションとテーマおよびプロジェクト設定
2. プロジェクト推進計画作り
3. 調査1
4. 調査2
5. 調査3
6. 調査4
7. コンセプト、エスキス1
8. コンセプト、エスキス2
9. 中間発表

10. デザインワーク1
11. デザインワーク2
12. デザインワーク3
13. デザインワーク4
14. デザインワーク5
15. 最終発表

成績評価基準

受講態度および中間発表と最終発表の成果で総合的に評価

テキスト

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

理論と事例を常に念頭に置きながら、空間的に人間と自然と歴史と社会を含むステークホルダーを調和させるデザインをどのように実現させるか(べきか)、常に考察する態度を望む。

視覚デザイン特別演習 I

長瀬公彦

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

昨今の視覚デザインの分野において、グラフィックデザイン、特にカレンダーやリーフレット、グリーティングカードなど、小型グラフィックと言われるものの中にはユニークなものが多く出現し、目を引かれるものが増えた。この演習では、そのようなカレンダーやグリーティングカード、または絵本なども含めたグラフィック作品の制作を行い、その中でも特にイラストレーションを用いた作品制作を中心に演習を行う。学部における制作に比べ、より高度な表現技法の考察と実践を重んじ、アイデアの具体化とオリジナルな表現技法の探求を目指す。

達成目標

単に作品の完成度を高めるに留まらず、オリジナリティの探求を目指し、各々の研究にこの演習での成果を生かすことが目標である。

授業計画

- 01 授業ガイダンス 課題説明
- 02 テーマ設定
- 03 リサーチの報告と検証
- 04 リサーチの報告と検証
- 05 ラフデザインのチェック
- 06 ラフデザインのチェック
- 07 制作
- 08 制作
- 09 進捗状況チェック

- 10 制作
- 11 制作
- 12 制作
- 13 講評
- 14 制作
- 15 講評および提出

成績評価基準

授業の受講態度40%、課題60%。ただし、全授業数の1/3以上欠席があった場合は、成績評価の対象とはしない。

テキスト

適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。また、授業の中でテーマに関連する様々な資料は用意する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

単なる制作だけに留まらず、グラフィック作品の制作に強い好奇心と意欲を持って臨み、例えこの演習内容が専門分野でなくとも、自らの研究に生かすような姿勢を期待する。

視覚デザイン特別演習 I

金 峯 洸

通年
演習
4 単位

授業の概要及びテーマ

日本の家紋と家印、ヨーロッパの紋章などを理解し、創作紋を制作する。

達成目標

- ・日本の伝統的なグラフィックデザインの良さや特徴を理解する。
- ・地域文化を資源として再意識し、活用する力を身につける。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 レクチャー、第1 課題の出題
- 03 制作チェック
- 04 制作チェック
- 05 課題提出、講評
- 06 レクチャー、第2 課題の出題
- 07 制作チェック
- 08 制作チェック
- 09 課題提出、講評
- 10 レクチャー、第3 課題の出題

- 11 制作チェック
- 12 制作チェック
- 13 制作チェック
- 14 課題提出、講評
- 15 まとめ

成績評価基準

制作物 60%、受講態度 40%

テキスト

適宜プリントを配付

履修希望者への要望・事前準備

授業に対する予習と復習を毎回忠実に行ってください。

視覚デザイン特別演習 I

徳久達彦

通年
演習
4 単位

授業の概要及びテーマ

デジタルコンテンツを取り巻く環境は日々変化しています。技術の発達により従来は専門職の領域であったデジタルコンテンツの構築も開発環境の簡易化により大きく敷居が下がっています。Web ページにおいては簡単に多くのページを制作できることにより、利用してほしい運営側の意図と利用したいユーザーを結ぶ戦略が従来以上に求められています。ここでは、演習を通してサービスの担当者としてデジタルコンテンツサービスの目的を達成する基礎的能力を身につけます。

達成目標

デジタルコンテンツサービスがビジネスにもたらす付加価値を理解し、実行プランにまで落としこむ力を養う。現状の把握、解析能力を高める。企画立案、デザインを使った改善策の提案ができるようになる。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 調査～プランニング
- 03 調査～プランニング
- 04 アイデア
- 05 全体構成設計

- 06 インターフェイス設計
- 07 中間発表
- 08 中間発表
- 09 討議
- 10 制作
- 11 制作
- 12 制作
- 13 プレゼンテーション準備
- 14 プレゼンテーション準備
- 15 プレゼンテーション

成績評価基準

企画アイデア 30%、デザイン 30%、プレゼンテーション 30%、意欲 10%

テキスト

必要に応じて配付します。

履修希望者への要望・事前準備

運営についても意識した上での制作を行います。長期的な想像力をもってください。

視覚デザイン特別演習 I

長谷川博紀

通年
演習
4 単位

授業の概要及びテーマ

ヴィジュアルアートについて指導していく。幅広い表現方法を追求する。必要に応じてアイデアのチェック・表現技法・表現素材の技術等アドバイスをを行う。

達成目標

- ・授業内容に即した文献等にあたり調査を入念に行い課題制作に反映できる。
- ・課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 第1 課題の出題
- 03 アイデアチェック
- 04 制作
- 05 講評
- 06 第1 課題の提出、第2 課題の出題
- 07 アイデアチェック
- 08 制作
- 09 講評
- 10 第2 課題の提出、第3 課題の出題

- 11 アイデアチェック
- 12 制作
- 13 講評
- 14 提出
- 15 総合講評

成績評価基準

- ・提出課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30%
- ・課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備すること。遅刻厳禁、課題提出日厳守。授業計画は履修者の人数や専攻を考慮し、受講生と相談の上で若干の変更を行うことがある。

視覚デザイン特別演習 I

松本明彦

通年
演習
4 単位

授業の概要及びテーマ

写真を用いたアート表現で、自分自身のテーマを見出し、作品制作をする。

達成目標

視覚デザイン特別演習 II につなげ、写真集の制作あるいは展覧会の開催など、発表をする。

授業計画

- 1 コンセプトメイキング
- 2 制作
- 3 制作
- 4 制作
- 5 中間チェック、講評
- 6 制作
- 7 制作
- 8 制作
- 9 中間チェック、講評
- 10 制作
- 11 制作

- 12 中間チェック、講評
- 13 制作
- 14 制作
- 15 講評

成績評価基準

課題 60%
出席と積極性など授業態度 40%

履修希望者への要望・事前準備

作品制作に没頭して下さい。制作のアドバイス、技術的な援助等は惜しみません。

視覚デザイン特別演習 I

ヨールグ ビューラ

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

この演習では長岡ケーブルテレビの学生番組に出す複数の短編レポートを製作します。また同時に一年間を通して一つの長いプロジェクトを展開します。それぞれのドキュメンタリー作品にはしっかりとしたりサーチや社会との直接の関係が必要です。特に構造的な視点やオリジナリティを評価します。仕上がった作品をコンペティションにエントリーすることを必須とします。

達成目標

選んだテーマに関して、育ってきた社会と自分のスタンスを反映させドキュメンタリー形式の映像を製作できる。ジャーナリズムの基本を習得できる。

授業計画

1. ドキュメンタリー映像の検討
2. プロジェクトテーマを調べる
3. ドキュメンタリー映像の撮影技術、特にインタビュー技術
4. 編集

成績評価基準

受講姿勢と課題映像作品での評価（受講姿勢 30%、提出作品 70%）。

テキスト

授業中、プロジェクトのテーマに合わせてリストを配付します。

履修希望者への要望・事前準備

社会関係に興味があり映像や情報デザイン制作に積極的な姿勢の学生を望みます。

視覚デザイン特別演習 I

山本 敦

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

架空の企業の商品を想定し、その商品のパッケージデザインを中心としたブランディングを実践する。商品およびターゲットを分析し、最適なパッケージデザインを創作する。また、その商品を広告するためのポスター、POP、WEBなどのコミュニケーションツールの創作も行う。

達成目標

商品の制作にあたり、市場やターゲットの調査・分析を行なうことができる

コンセプトに基づいて、パッケージや必要なプロモーションツールを提案することができる

顧客のココロを動かすアイデアの具現化と良質なクリエイティブ表現ができる

授業計画

- 1 ガイダンス／課題説明
- 2 調査と分析
- 3 調査と分析
- 4 コンセプト／ターゲット設定
- 5 パッケージデザイン制作

- 6 パッケージデザイン制作
- 7 パッケージデザイン制作
- 8 その他のツールの検討
- 9 制作
- 10 制作
- 11 制作
- 12 制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 講評

成績評価基準

作品 80%、授業の受講態度・意欲 20%

テキスト

必要に応じて指示

履修希望者への要望・事前準備

パッケージを中心としたさまざまなコミュニケーションツールを自ら考え、統一したブランディング・デザインを創り上げる意欲ある姿勢を期待する。

視覚デザイン特別演習 I

阿部充夫

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

デザインの中でも画像はいろいろなところで使用されています。表現の場は紙媒体だけでなく多種多様化してきました。この演習では、広告制作やテーマを決めて作品製作をおこないます。指導の中でアプリケーションソフトの技術的なことも指導する。

達成目標

自分なりの表現、個性を大事にし、作品製作を行い自分の物にしてほしい。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2～4 アイデアチェック
- 5～8 製作
- 9 中間チェック
- 10～14 製作
- 15 講評

成績評価基準

課題 60%
出席と授業態度 40%

テキスト

必要に応じ決定

参考書・参考資料等

玉ちゃんのライティング話 [玄光社]

履修希望者への要望・事前準備

新しい分野の写真にチャレンジしてください。疑問に思うことは必ず質問すること。

視覚デザイン特別演習 I

天野 誠

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

既存の物語やテーマなどを、本を構成する情報として、外装から中身（本文ページ）をすべて設計することで、扱う情報に一番ふさわしい「かたち」とは何かについて研究する。

達成目標

- ◆専門的な書籍設計の知識と技術を習得することができる。
- ◆より創作的な本の「かたち」について追求し、実験することができる。

授業計画

- 1回目：ガイダンス
- 2回目：『かたち誕生』解説
- 3回目：題材の分析報告とデザインコンセプトの発表
- 4回目：本文フォーマットデザインの発表1
- 5回目：本文フォーマットデザインの発表2
- 6回目：図版のディレクション発表1
- 7回目：図版のディレクション発表2
- 8回目：レイアウトのチェック1
- 9回目：レイアウトのチェック2
- 10回目：レイアウトのチェック3
- 11回目：製本と外装のアイデア発表
- 12回目：外装のアイデア発表1
- 13回目：外装のアイデア発表2
- 14回目：試作品の発表

15回目：講評

成績評価基準

提出課題の作品に対する評価を80%とし、授業態度に対する評価を残りの20%とする。

テキスト

必要に応じて指示します。

参考書・参考資料等

『編集デザインの教科書』日経BP社
『デザイン解体新書』ワークスコーポレーション
『デザイナーをめざす人の装丁・ブックデザイン』Mdn コーポレーション
『文字の組方ルールブック[タテ組編]』日本エディタースクール
『文字の組方ルールブック[ヨコ組編]』日本エディタースクール
『文字組版入門』日本エディタースクール
『印刷発注のための紙の資料』日本エディタースクール

履修希望者への要望・事前準備

エディトリアルデザインを本気で研究したい学生に受講してもらいたい。また他の分野についても積極的に研究し、社会との関わりを持って研究すること。

視覚デザイン特別演習 I

吉川賢一郎

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

日本「JAPAN」をテーマにポスター（シリーズ作品）を行い、指導していく。現代の日本の社会をさまざまな観点から調査・分析する。テーマをどう伝えていくか、どのように表していくかを明確にし、本質を見極めたビジュアルアイデアと高い表現力で「JAPAN」を表現して欲しい。

達成目標

制作過程において、様々な観点から徹底した調査と分析することで、領域を超えた作品研究と表現研究を行い、作品制作に反映させることができる。また、現代の日本の社会を把握し、グラフィックデザインによって表現することができる。

授業計画

- (01) ガイダンス／課題説明
- (02) 調査と分析
- (03) 調査と分析
- (04) アイデアチェック
- (05) アイデアチェック
- (06) 制作
- (07) 制作
- (08) 制作
- (09) 中間講評
- (10) 制作
- (11) 制作

- (12) 制作
- (13) 制作
- (14) 講評
- (15) 最終講評（シリーズ作品）

成績評価基準

提出作品、授業参加姿勢を以下の項目により総合的に判断し評価します。

- ・課題を理解した上で自分の考えを持つことができるか。
- ・自分の考えを軸とし、深く掘り下げて調査・分析できるかどうか。
- ・調査・分析の結果をまとめ、アイデアを考えられているか。
- ・アイデアからヴィジュアル表現への展開が来ているか。
- ・丁寧な仕上げをしているか。

テキスト

必要に応じて指示します。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示します。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は、ビジュアルデザインをもっと深く追究したいと考え、また、授業以外でも表現方法の研究を継続して行える学生の履修を望みます。

視覚デザイン特別演習 I

真壁 友

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

近年のデジタル機材を使ったデザイン・アート作品は加速度的に広がり様々な可能性を見せ、アニメーションやDTPでは当たり前の様にコンピュータが使用されている。この演習ではデジタル技術を活用し様々なアプローチでメディアアート、デジタルアート作品を作る事を目的とする。そして、そしてその作品をプロモーションするための仕組みの一部としてWebサイト作成にも取り組む。

達成目標

テーマを決め、そのテーマに従った作品作成を行う。その作品のプロモーションのためwebを中心とした展開を行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2～4 アイデアチェック
- 5～9 制作
- 10～11 webについて
- 12～14 制作

- 15 プレゼンテーション

成績評価基準

- アイデア：40%
- 作品の仕上げの品質：30%
- webを含むプロモーション：30%

テキスト

演習の中で紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

作品を1つ作るだけで満足するのではなくシリーズとして展開していけるように希望します。

視覚デザイン特別演習 I

池田光宏

通年

演習

4 単位

授業の概要及びテーマ

視覚デザインの視座から学内の指定したスペースに設置する仮設のインスタレーションを制作する。アウトプットの形式（グラフィック、映像、写真、イラストレーション、立体、など）は問わないが、いかなる作品も制作プロセスを重視し、プロポーザルからドキュメンテーションまでを実践的に演習する。

達成目標

プロジェクトのプランニングからプレゼンテーション、制作、設置、アーカイブまでの基本的な一連の表現方法を習得。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 発想トレーニング 1
- 3 発想トレーニング 2
- 4 フィールドワーク
- 5 コンセプトメイクとドローイング制作
- 6 プロポーザル制作
- 7 プレゼンテーション、講評
- 8 制作
- 9 制作
- 10 制作
- 11 制作
- 12 プレゼンテーション、講評

13 ドキュメンテーション制作

14 ドキュメンテーション制作

15 最終講評

成績評価基準

提出課題 60%

授業参加態度 40%

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

越後妻有トリエンナーレ展覧会カタログ（現代企画室）

スーパーグラフィックス（BNN 新社）

TACTILE（Die Gestalten Verlag, Berlin）など、適宜指示します。

用具

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

自ら行動し、積極的な受講が望ましい。

スケジュールの自己管理が必要不可欠。

作品は応用が可能であればコンペなどに応募する。

視覚デザイン特別演習 I

山田博行

通年

演習

4 単位

授業の概要及びテーマ

自らのビジョンと表現を明確にして制作に望むために私たちの身近に存在する映像をそれぞれ分析し、また撮影技術や機材の特性を研究する。

映像表現に関わる要素を理解しショートフィルム作品の製作を行う。

達成目標

映像に関わる様々な要素を理解した上での作品内容の分析が行えるようになること。

高いレベルでの目的に沿ったショートフィルム製作へのアプローチをする。

授業計画

1. ガイダンス
2. Vimeo での映像作品分析
3. 広告としての映像作品分析
4. 記録としての映像作品分析
5. レポート出題
6. レポートチェックおよび制作企画
7. 撮影機材についての分析
8. ライティングについての分析
9. 編集についての分析
10. 音楽についての分析
11. 製作・チェック

12. 製作・チェック

13. 製作・チェック

14. 製作・チェック

15. 発表

成績評価基準

授業への出席 20%、作品制作 50%、レポート提出 30%とします。成績評価の前提条件として出席率が 3/4 を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

必要に応じて決定します。

参考書・参考資料等

映像の原則 富野由悠季 株式会社キネマ旬報社刊 1,800 円

映画監督術 SHOT BY SHOT スティーブン・D・キャッツ

フィルムアート社 3,200 円

filmmaker's eye 株式会社ボーンデジタル刊 3,200 円

デジタル映像制作ガイドブック ワークスコーポレーション

刊 4,800 円

履修希望者への要望・事前準備

研究者、制作者としての積極性と自主性をもって臨むこと。

対話型の授業を主体とする。

視覚デザイン特別演習Ⅰ

御法川哲郎

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

自らのイラストレーション・グラフィック表現を獲得するため、研究・制作を行う。

達成目標

自らのイラストレーション・グラフィック表現のルーツを理解し、独自の表現を獲得する。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作1
- 03 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作2
- 04 チェック
- 05 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作3
- 06 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作4
- 07 チェック
- 08 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作5
- 09 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作6
- 10 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作7
- 11 チェック

- 12 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作8
- 13 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作9
- 14 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作10
- 15 チェック

成績評価基準

研究・制作の成果物 70%、授業態度 30%

履修希望者への要望・事前準備

自らのイラストレーション・グラフィック表現を追求したい人は履修してください。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

長瀬公彦

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

20世紀初期に始まった現代グラフィックデザインの歴史は、1世紀以上を経て表現や領域が急激に変化し、日常生活の中で触れるグラフィックデザインは以前にも増して華やかかつ幅広くなった。また、これまでは他の分野として考えられていたものがその垣根を越え、広告、グラフィックデザインの領域に包括されている。そこで今演習では、視覚デザイン特別演習Ⅰでの実際的な作品制作を踏まえ、グラフィックデザインの今後の新たな表現やアイデアを産むべく、より革新的でオリジナリティ溢れる作品制作を行う。

達成目標

オリジナリティの探求は勿論であるが、単にそれだけでは留まらず、作品の存在感と完成度を高めることを目指すことは言うまでもない。また特別演習Ⅰと同様に、この成果を各々の研究に生かし、この作品を積極的に社会にアプローチすることが目標である。

授業計画

- 01 授業ガイダンス 課題説明
- 02 テーマ設定
- 03 リサーチの報告と検証
- 04 リサーチの報告と検証
- 05 ラフデザインのチェック
- 06 ラフデザインのチェック
- 07 制作
- 08 制作

- 09 進捗状況チェック
- 10 制作
- 11 制作
- 12 制作
- 13 講評
- 14 制作
- 15 講評および提出

成績評価基準

授業の受講態度 40%、課題 60%。ただし、全授業数の1/3以上欠席があった場合は、成績評価の対象とはしない。

テキスト

適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。また、授業の中でテーマに関連する様々な資料は用意する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

単なる制作だけに留まらず、グラフィック作品の制作に強い好奇心と意欲を持って臨み、例えこの演習内容が専門分野でなくとも、自らの研究に生かすような姿勢を期待する。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

金 峰洙

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

和文化を継承する地域の老舗に対してCI、商品のパッケージなどをリデザインする。

達成目標

- ・日本の伝統的なグラフィックデザインの良さや特徴を理解する。
- ・地域文化を資源として再意識し、活用する力を身につける。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 レクチャー、課題の出題
- 03 現場見学（当該老舗）
- 04 制作チェック
- 05 制作チェック
- 06 制作チェック
- 07 制作チェック
- 08 制作チェック
- 09 中間報告（当該老舗）
- 10 制作チェック

- 11 制作チェック
- 12 制作チェック
- 13 制作チェック
- 14 課題提出、講評（構内展示）
- 15 まとめ

成績評価基準

制作物 60%、受講態度 40%

テキスト

適宜プリントを配付

履修希望者への要望・事前準備

授業に対する予習と復習を毎回忠実に行ってください。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

徳久達彦

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

新規事業へつながるデジタルコンテンツ企画を制作します。課題に対してのクリエイティブでの解決方法を考え言語化およびビジュアル化を行います。また、クリエイティブだけでなくプレゼンテーション能力を向上させる内容でもあります。特別演習Ⅰでは現状のビジネスに従ってクリエイティブの力で課題を解決。特別演習Ⅱでは新規ビジネスとしてクリエイティブの力で課題の解決を目指します。

達成目標

説得力の高い企画を作成できるようになること。世界に存在する課題を、Web とクリエイティブの力で解決できるようになること。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 事例研究
- 03 課題の発見・ネタ出し
- 04 調査～プランニング
- 05 調査～プランニング
- 06 成長戦略

- 07 プロモーション戦略
- 08 資金計画
- 09 討議
- 10 中間発表
- 11 討議
- 12 制作
- 13 プレゼンテーション準備
- 14 プレゼンテーション準備
- 15 プレゼンテーション

成績評価基準

企画アイデア 30%、デザイン 30%、プレゼンテーション 30%、意欲 10%

テキスト

必要に応じて配付します。

履修希望者への要望・事前準備

説得力のある企画を制作する為のロジカルな思考を必要とします。課題解決の為のクリエイティブで新しい企画を立案してください。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

長谷川博紀

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

ヴィジュアルアーツの実践について指導していく。単なる自己表現ではない知の扉としてのヴィジュアルアーツの目的と意義を追求する。媒体特性を考慮したアイデアの抽出方法や様々な表現方法を学ぶ。必要に応じてアイデアのチェック・表現技法・表現素材・アプリケーションソフトの技術等のアドバイスをを行う。

達成目標

- ・授業内容に即した文献等にあたり調査を入念に行い課題制作に反映できる。
- ・課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 第1課題の出題
- 03 アイデアチェック
- 04 制作
- 05 講評
- 06 第1課題の提出、第2課題の出題
- 07 アイデアチェック
- 08 制作

- 09 講評
- 10 第2課題の提出、第3課題の出題
- 11 アイデアチェック
- 12 制作
- 13 講評
- 14 提出
- 15 総合講評

成績評価基準

- ・提出課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30%
- ・課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備すること。遅刻厳禁、課題提出日厳守。授業計画は履修者の人数や専攻を考慮し、受講生と相談の上で若干の変更を行うことがある。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

松本明彦

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

写真を用いたアート表現で、自分自身のテーマを見出し、作品制作をする。視覚デザイン特別演習Ⅰで学んだことを元に、さらに深く追求し、作品をブラッシュアップさせ完成度を高める。

達成目標

追求したテーマの作品を、写真集の制作、あるいは展覧会の開催などで発表をする。

授業計画

- 1 コンセプトメイキング
- 2 制作
- 3 制作
- 4 制作
- 5 中間チェック、講評
- 6 制作
- 7 制作
- 8 制作
- 9 中間チェック、講評

- 10 制作
- 11 制作
- 12 中間チェック、講評
- 13 制作
- 14 制作
- 15 講評

成績評価基準

- 課題 60%
- 出席と積極性など授業態度 40%

履修希望者への要望・事前準備

作品制作に没頭して下さい。制作のアドバイス、技術的な援助等は惜しみません。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

通年
演習
4単位

ヨールグ ビューラ

授業の概要及びテーマ

ストーリーが伝わる視覚作品を発展させます:絵本、アニメーション、ショートフィルム、インタラクティブな作品など。まず、脚本の段階で実の有るストーリーを創造します。次いでテーマに合わせた技術の研究、特に表現のオリジナリティを重視します。仕上がった作品をコンペティションにエントリーすることが必須です。プロジェクトによって絵本の祭典や映画祭、等の見学も企画します。

達成目標

視覚的なストーリーテリングを習得できる。

授業計画

1. ストーリーの構成
2. プロジェクトテーマの調査
3. 制作の技術
4. 作品の表現

成績評価基準

受講姿勢と課題映像作品での評価（受講姿勢 20%、提出作品 80%）。

テキスト

授業中、プロジェクトのテーマと技術に合わせてリストを配付します。

履修希望者への要望・事前準備

視覚ストーリーテリングに興味があり、制作に積極的な姿勢の学生を望みます。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

通年
演習
4単位

山本 敦

授業の概要及びテーマ

実際の県内の企業を選定し、その企業と顧客との接点を洗い出し、最適なブランディング・デザインを創作する。企業の業界の現状や課題などを分析し、ふさわしいコンセプト、クリエイティブ表現を検討する。

達成目標

- ・実際の企業とのヒアリング・現場調査などを行い、その会社の現状をしっかりと調査・分析を行うことができる
- ・その企業の課題を捉え、コンセプトを創り上げる能力を身につけることができる。
- ・企業の本質を捉えたトータルなブランディング・デザインを探究し、実践することができる

授業計画

- 1 ガイダンス／課題説明
- 2 調査と分析
- 3 調査と分析
- 4 コンセプト／ターゲット設定
- 5 シンボルマーク制作
- 6 シンボルマーク制作

- 7 シンボルマーク制作
- 8 中間プレゼンテーション
- 9 制作
- 10 制作
- 11 制作
- 12 制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 企業プレゼンテーション

成績評価基準

作品 80%、授業の受講態度・意欲 20%

テキスト

必要に応じて指示

履修希望者への要望・事前準備

実際の企業の課題が何かを探るにはヒアリングの能力が重要である。顧客のためのデザインとは何か、実践で得ることは大きい。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

阿部充夫

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

画像はデザイン、アート様々いろいろなところにあふれています。視覚デザイン特別演習Ⅰで学んだことを踏まえ、集大成としてフィルム、デジタルにとらわれず、自身が決めたテーマに沿って、画像を用いた広告制作や作品製作をおこないます。指導の中でアプリケーションソフトの技術的なことも指導します。

達成目標

自分なりの表現、個性を大事にし、作品製作を行い自分の物にしてほしい。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2～4 アイデアチェック
- 5～8 製作
- 9 中間チェック
- 10～14 製作
- 15 講評

成績評価基準

課題 60%
授業態度 40%

テキスト

必要に応じ決定

参考書・参考資料等

玉ちゃんのライティング話 [玄光社]

履修希望者への要望・事前準備

新しい分野の写真にチャレンジしてください。疑問に思うことは必ず質問すること。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

天野 誠

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

実際に出版することを仮定し、雑誌や書籍の企画を立て、編集とデザインのすべてを制作する。

達成目標

- ◆実践的な編集とエディトリアルデザインを学べる。
- ◆現場のノウハウを知ることができる。

授業計画

- (01) ガイダンス
- (02) 企画と制作進行表の発表1
- (03) 企画と制作進行表の発表2
- (04) 台割発表
- (05) 取材成果の発表1
- (06) 取材成果の発表2
- (07) サムネイルスケッチの発表
- (08) デザイン発表1
- (09) デザイン発表2
- (10) デザイン発表3
- (11) 印刷について(用紙、製本など)
- (12) 校正
- (13) 修正確認
- (14) 入稿

(15) 講評

成績評価基準

提出課題の作品に対する評価を80%とし、授業態度、主に出欠状況に対する評価を残りの20%とする。

テキスト

必要に応じて指示。

参考書・参考資料等

『編集デザインの教科書』日経BP社
『デザイン解体新書』ワークスコーポレーション
『デザイナーをめざす人の装丁・ブックデザイン』Mdn コーポレーション
『文字の組方ルールブック [タテ組編]』日本エディタースクール
『文字の組方ルールブック [ヨコ組編]』日本エディタースクール
『文字組版入門』日本エディタースクール
『印刷発注のための紙の資料』日本エディタースクール

履修希望者への要望・事前準備

社会に向けて本をデザインすることの意味をよく考えながら、その可能性を探り、実際に社会との関わりを持って研究すること。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

吉川賢一郎

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

「実存する地域の伝統的なお祭り」をテーマにポスター（シリーズ作品）を行い、指導していく。伝統的なお祭りや地域をさまざまな観点から調査・分析し、テーマをどう伝えていくか、どのように表していくかを明確にし、本質を見極めたビジュアルアイデアと高い表現力で「伝統的なお祭り」を表現して欲しい。

達成目標

制作過程において、様々な観点から徹底した調査と分析することで、領域を超えた作品研究と表現研究を行い、作品制作に反映させることができる。また、地域の独自性を祭礼を通して把握し、グラフィックデザインによって表現することができる。

授業計画

- (01) ガイダンス／課題説明
- (02) 調査と分析
- (03) 調査と分析
- (04) アイデアチェック
- (05) アイデアチェック
- (06) 制作
- (07) 制作
- (08) 制作
- (09) 中間講評

- (10) 制作
- (11) 制作
- (12) 制作
- (13) 制作
- (14) 講評
- (15) 最終講評（シリーズ作品）

成績評価基準

提出作品、授業参加姿勢を以下の項目により総合的に判断し評価します。

- ・課題を理解した上で自分の考えを持つことができるか。
- ・自分の考えを軸とし、深く掘り下げて調査・分析できるかどうか。
- ・調査・分析の結果をまとめ、アイデアを考えられているか。
- ・アイデアからヴィジュアル表現への展開が来ているか。
- ・丁寧な仕上げをしているか。

テキスト

必要に応じて指示します。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は、ビジュアルデザインをもっと深く追究したいと考え、また、授業以外でも調査や分析を継続して行える学生の履修を望みます。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

真壁 友

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

デジタルデザインの作品では作品を作るためにはコンピュータは必須である。多くの場合、作品を見せるためにもパソコンが必要になる。作る環境と見せる環境が整った現代ならではのデザイン・アートの形式である。しかし、この形式ではOSやアプリケーションの制限を強く受けてしまう。この演習では自らデバイスを作成しその中で自分の作品を実現する「デバイスアート」に挑戦する。そしてその作品をプレゼンテーションするためのweb作成を行う。

達成目標

デバイスアート制作の技法を習得する
習得した技法を用い作品へと展開する
その作品のプロモーションのためwebを中心とした展開を行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2～4 デバイスに必要な技術（エレクトロニクス）
- 5～9 制作

- 10～11 webについて
- 12～14 制作
- 15 プレゼンテーション

成績評価基準

アイデア：40%
作品の仕上げの品質：30%
webを含むプロモーション：30%

履修希望者への要望・事前準備

多くの学生にとってこの演習は新しい分野へのチャレンジとなります。
積極的に挑戦し、自ら新しい技術を吸収していく事を希望します。
また作品を積極的にコンペに出品することを推奨します。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

池田光宏

通年

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

長岡市内、もしくはその周辺地域からテーマとなる題材を発見し、視覚デザインの視座からプロジェクトの提案、制作をする。

アウトプットの形式（グラフィック、映像、写真、イラストレーション、立体、など）は問わないが、いかなる作品も制作プロセスを重視し、プロポーザルからドキュメンテーションまでを実践的に演習する。

達成目標

プロジェクトのプランニングからプレゼンテーション、制作、設置、アーカイブまでの実践的な一連の表現方法を習得。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 フィールドワーク
- 3 コンセプトメイクとドローイング制作
- 4 プロポーザル制作
- 5 プレゼンテーション、講評
- 6 制作
- 7 制作
- 8 中間チェック
- 9 制作
- 10 制作
- 11 制作

- 12 プレゼンテーション、講評
- 13 ドキュメンテーション制作
- 14 ドキュメンテーション制作
- 15 最終講評

成績評価基準

提出課題 60%
授業参加態度 40%

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

越後妻有トリエンナーレ展覧会カタログ（現代企画室）
スーパーグラフィックス（BNN 新社）
TACTILE（Die Gestalten Verlag, Berlin）など、適宜指示します。

用具

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

自ら行動し、積極的な受講が望ましい。
スケジュールの自己管理が必要不可欠。
作品は応用が可能であればコンペなどに応募する。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

山田博行

通年

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

近年のデジタル化と機材の進歩において制作環境の目覚ましい利便性を得た写真映像分野。実写表現における色彩構成を実践的かつ横断的にアナログからデジタルまでの手法を学びながら研究する。

達成目標

実写撮影における色彩表現を実践的に習得し、写真映像作品の色彩情報が人にもたらす要素と意識を理解し、分析できるようになること。表現者の意思と感覚による表現力を養うことを目的とする。

授業計画

1. ガイダンス
2. フィルムによる撮影
3. 暗室モノクロプリントワーク 1
4. 暗室モノクロプリントワーク 2
5. 暗室モノクロプリントワーク 3
6. 暗室カラープリントワーク 1
7. 暗室カラープリントワーク 2
8. 暗室カラープリントワーク 3
9. 暗室カラープリントワーク 4
10. デジタルプリントワーク、カラーマネージメント 1

11. デジタルプリントワーク、カラーマネージメント 2
12. 映像表現におけるカラーグレーディング 1
13. 映像表現におけるカラーグレーディング 2
14. 映像表現におけるカラーグレーディング 3
15. 制作発表

成績評価基準

授業参加態度 20%、課題制作 80%とします。
成績評価の前提条件として出席率が3/4を下回る場合は単位を与えません。

出席・遅刻の基準

理由なき遅刻は認めません。

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

用具

授業のガイダンスにて便宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

研究者、制作者としての積極性と自主性をもって臨むこと。
対話型の授業を主体とする。

視覚デザイン特別演習Ⅱ

御法川哲郎

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

自らのイラストレーション・グラフィック表現をより良いものとするため、研究・制作を深める。

達成目標

自らのイラストレーション・グラフィック表現のルーツとなる先人の表現・思想、時代背景を理解する。

自らの制作に活かし、より表現の質を高める。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作1
- 03 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作2
- 04 チェック
- 05 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作3
- 06 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作4
- 07 チェック
- 08 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作5
- 09 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作6
- 10 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作7

- 11 チェック
- 12 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作8
- 13 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作9
- 14 イラストレーション・グラフィック表現の研究・制作10
- 15 チェック

成績評価基準

研究・制作の成果物 70%、授業態度 30%

履修希望者への要望・事前準備

自らのイラストレーション・グラフィック表現を追求したい人は履修してください。

美術・工芸特別演習Ⅰ

石原 宏

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

「絵画の見方」は、時代や地域あるいは個人の体験、性格によって異なる。本授業では「絵画の見方」を英語原書購読によって、地域も時代も全く異なる作品を色彩、構図の分析、隠された意味等の解説により、より深く理解することを目指す。各章を2回に分け、講読、解説し、2回目に要約を発表してもらう。この授業は、西洋美術史への理解を深めるとともに、英語の読解力を養う。

達成目標

- ・絵画作品への深い理解力を養う。
- ・英語の読解力をつける。
- ・日本語による論述の力をつける。

授業計画

- 1 Introduction：テキストの紹介、準備
- 2 Ways of looking at pictures (1)
- 3 Ways of looking at pictures (2)
- 4 Landscape and seascape (1)
- 5 Landscape and seascape (2)
- 6 Portraits (1)
- 7 Portraits (2)
- 8 Everyday life and everyday things: Genre and still life(1)
- 9 Everyday life and everyday things: Genre and still life(2)
- 10 History and mythology (1)

- 11 History and mythology (2)
- 12 Religious images (1)
- 13 Religious images (2)
- 14 Pictures as decorations on flat surfaces (1)
- 15 Pictures as decorations on flat surfaces (2)

成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が80%を下回る場合は単位を与えない。要約発表の内容と授業態度により評価する。

テキスト

Looking at Pictures
筆者 Susan Woodford
出版社 1983 Cambridge University Press

参考書・参考資料等

ジェイムズ・ホール著「西洋美術解説辞典」河出書房新社
ジュード・ウェルトン著「絵との対話」同朋社出版
ジョン・バージャー著「イメージ ways of seeing」PARCO
出版局

履修希望者への要望・事前準備

テキストをあらかじめ読み、テキストに掲載されている作品を前もって調べておくことが望ましい。

美術・工芸特別演習 I

菊池加代子

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

人類にとって最高の発明技術である「織物」を中心に、伝統的染織技法や新素材、新技術を幅広く研究し、テキスタイルアートや生産テキスタイルとして社会的意義の基で提案する事を目指します。

達成目標

- ・研究テーマに即したテキスタイルを自分の手を通して創作、または工場等に発注して創作する事が出来る。
- ・コンセプトや制作記録を書類にし、発表する事が出来る。
- ・修了研究発表を見据えて、研究テーマに即した研究計画と実践を行なう事が出来る。

授業計画

各自の研究計画に従って進行するが、中間報告、期末報告は共通とする。また、展覧会見学や講演会聴講等を適時に共通予定として加える。

01 オリエンテーション 研究計画作成

02～07 各自の研究計画を実行する。

08 中間報告会

09～14 各自の研究計画を実行する。

15 期末報告会

成績評価基準

研究及び成果物 50% 研究発表 30% 研究に対する取り組み姿勢 20%

参考書・参考資料等

適時指示及び配付します。

用具

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

衣食住すべてに関わるテキスタイルは、宇宙開発や医療素材など幅広く可能性を広げています。テキスタイルの魅力と可能性を常に意識して、沢山、観て聞いて読んで知って下さい。そして、自分の身体を動かして試作して下さい。行動力が重要です。

美術・工芸特別演習 I

手銭吾郎

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

鍛金技法に於ける鍛造・鋳起・絞り技法及び金属機械工作技法等の技術の習得。それら技法・技術に基づく表現方法を考察する。また過去から現代に至る工芸作品や工業製品等に於ける鍛金技法と技術の必要性及び応用性の調査・研究等をする事で知識と理解を深め、各自の作品制作に於いても創作の意義を探求する事を目的とする。

達成目標

鍛金技法の習得を通して金属造形技術の多様性を理解する。調査・研究による鍛金技法に於ける表現の可能性を探求する。

授業計画

1. 概要講義
2. 研究テーマ、計画内容の発表
3. 研究・計画内容及び各自の課題設定を検討
4. 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
5. 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
6. 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
7. 技法演習（各自研究内容に必要な技法演習と資料・情報の収集）
8. 技法演習（各自研究内容に必要な技法演習と資料・情報の収集）
9. 技法演習・中間報告（研究内容と計画展開について検討）
10. 技法演習（研究内容と計画展開について検討）

11. 技法演習（研究内容と計画展開について検討）
12. 技法演習（研究内容と計画展開について検討）
13. 技法演習（研究内容と計画展開について検討）
14. 成果物の提出、研究発表の準備
15. まとめ・講評 研究内容報告書提出

成績評価基準

研究及び調査等での分析力 30%
技法・技術の習得・理解度 30%
研究及び成果物の発表等の評価 40%

テキスト

適宜配付・指示します。

参考書・参考資料等

用具

適宜指示

履修希望者への要望・事前準備

専門的な作品制作・研究に於いて、各自のテーマをしっかり持って活動して下さい。大学院では、各自の創造活動として、より深遠な思考と理解、実践的な研究、また対外的な活動が必要と考えます。よって随時、研究資料等の収集や展示・展覧会・講義・講演等への積極的な参加・調査活動を望みます。

美術・工芸特別演習 I

鈴木均治

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

後染における生地と模様との融和についてその表現の可能性を、伝統技法の習得、および素材・表現研究などを通して作品に応用していく。

テキスト

適宜配付

参考書・参考資料等

達成目標

- ・生地と染料、生地と手法の関係を理解している。
- ・生地の特性を生かしイメージを構築することが出来る。

履修希望者への要望・事前準備

常に探求心を持ち続け制作をしてください。

授業計画

- 01～03 糊防染模様染（浸染）
- 04～07 捺染（写し糊）
- 08～10 捺染（写し糊）
- 11～13 捺染（シルクスクリーン）
- 14～15 無水染色

成績評価基準

提出作品 70%（デザイン力 40%、作業精度 30%）、制作姿勢 30%

美術・工芸特別演習 I

馬場省吾

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

鍛金・鋸起造形の多様な伝統技法とそれに基づく表現方法を考察する。また各種素材の特性（展延性と絞り加工性、接合性と溶接性）と伝統的～今日的加工技法との関係とその進化と変遷、工芸分野での造形手法のあり方を考える。各自のテーマに基づく前提研究を設定し各論と共に基盤となる実証的制作用を通し、それぞれの創作目的となるかたちの本質的意義を探究する。

- 11:技法演習(必要に応じ資料検索、収集～初動的論理構築)
- 12:技法演習(必要に応じ資料検索、収集～初動的論理構築)
- 13:応用・展開の要素検討
- 14:まとめ・プレゼン・成果物提出
- 15:まとめ(発表方法の検討)

達成目標

- ①工芸領域での鍛金・鋸起による金属造形の意味及び工芸のもつ表現性の意味を理解する。
 - ②制作においての各自の訴求力と技法論理の基本的構築が行える。(確かな表現スキルの理解・獲得)
 - ③制作イメージの顕在力をまとめる。
- 以上を進捗に応じた適切な応答と実践が行える。

成績評価基準

- ・工芸領域での鍛金・鋸起による各自研究テーマの内容精査及び過程での分析力 30%
- ・各自手法の習熟・理解度 30%
- ・発表（作品、及び演習目的のまとめ）成果物・発表手法による評価 40%

テキスト

適宜指示

参考書・参考資料等

各テーマにより工芸に関わらず、資料として関連する図録、文献等を収集参照し理解すること。

用具

適宜指示

履修希望者への要望・事前準備

造形行為～工芸制作を継続するための各自テーマの分析・理解・実践の根幹を培う期間と考えます。学部とは異なる修士課程での思考する制作者としての自らの基盤を探究しようとする強い能動性を必要とします。また並行的に他の表現者と積極的な意見交換をすることで俯瞰的視点から自らの創造性を鑑みる能力を習得することを望みます。

美術・工芸特別演習 I

菅野 靖

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

彫金の探求によって観えてくる金工、ジュエリー、クラフト、アート表現等の方向性を考察すると共に対外的視野を持って制作研究を進める。また、独自の表現スタイルを見出すため、さまざまな試行を繰り返しながら、自身の表現を追求する。

達成目標

目的を明確にし、制作研究を充実することができる。
表現を絞り込み完成度が高い制作を行うことができる。

授業計画

1. 技法と表現の理解
2. 各自の表現および計画をプレゼンテーション
- 3～7. 計画に沿って実制作
8. 研究報告1
- 9～14. 計画に沿って実制作
15. 研究報告2

成績評価基準

デザイン (30%)、制作姿勢 (30%)、完成度 (40%)

テキスト

必要に応じて資料を提供する。

参考書・参考資料等

金工の着色技法 (理工学社)、鍍・宝飾の技法 (美術出版社)、彫金〈手づくりジュエリー〉の技法と知識 (東京堂出版)、その他インターネット上の参考資料

用具

制作目的に沿った道具類の充実。

履修希望者への要望・事前準備

展覧会や公募展等、対外的な目標を立て制作に臨む。また、制作の方向性と進路の関係性についても十分に検討する。

美術・工芸特別演習 I

小林花子

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

自己の表現を実現していくために、作品の制作と表現活動を通して各々のテーマやコンセプトを探求し、確かなものとしていく。また、その表現に適した素材や技法・技術、知識を獲得する。
自分の表現活動が社会と関わりを持つことの意義について考え、主体的に研究をおこなう。

達成目標

表現活動の実際から自己の表現に適した素材の発見と技法・技術の研究をおこない、それらを社会に向けて具体的に発信する手段を提案・実施することができる。
現代社会における「自己」と「表現」の関わりについて主体的に研究を行うことができる。

授業計画

各自のテーマに基づき指導する。

1. 概要講義／テーマ、コンセプト決定／作品プランニング
2. 作品プランニング (デッサン、エスキース作成) / ディスカッション
3. 作品プレゼンテーション / 発表計画 / ディスカッション / 活動計画書提出
4. 作品制作

5. 作品制作
6. 作品制作
7. 作品制作
8. 作品制作 / 中間報告
9. 作品制作
10. 作品制作
11. 作品制作
12. 作品制作
13. 作品制作 仕上げ
14. 作品制作 仕上げ / 発表準備
15. 活動報告 / 講評 / 研究報告書提出

成績評価基準

活動計画・プレゼンテーション 20%
作品と発表活動の内容・取り組み姿勢 80%

テキスト

なし

参考書・参考資料等

履修希望者への要望・事前準備

表現を社会に向けて発信するための行動力と精神力、体力を充実させるよう、十分に努力することを望みます。

美術・工芸特別演習Ⅰ

長谷川克義

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

金属工芸における鋳物について、その表現の基となる素材をより理解するために、講義とともに創作および研究活動を行う。また、各種鋳造型法に関する技術について把握し、鋳金の表現特性でもある表面処理技法や着色方法についても探求し理解する。

達成目標

- ・鋳物に関わる素材（原型・鋳型・合金）および表面処理技法、着色法についてより高度に理解・修得することができる。
- ・各自のテーマ設定による研究成果を発表することができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマ設定 鋳金制作法 工程
- 第3回 原型制作 鋳金制作法 原型1
- 第4回 原型制作 鋳金制作法 原型2
- 第5回 原型制作 鋳金制作法 鋳型1
- 第6回 原型制作 鋳金制作法 鋳型2
- 第7回 鋳型制作 鋳金制作法 合金
- 第8回 鋳込み
- 第9回 仕上加工 鋳金制作法 仕上
- 第10回 仕上加工 鋳金制作法 表面処理

- 第11回 仕上加工 鋳金制作法 着色
- 第12回 表面処理
- 第13回 仕上
- 第14回 着色
- 第15回 作品提出 講評

成績評価基準

受講態度および制作姿勢 40%、成果物の内容 60%。

参考書・参考資料等

適宜指示および参考資料として授業時にプリントを無料で配付する。

参考書：美術鋳物の手法〈鹿取一男〉 アグネ 4,320円
工芸科のための金属ノート〈鹿取一男〉 アグネ技術センター 2,160円

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

修士課程においての自己のテーマ設定から方向性を定め、基礎的なことを再認識し、創作活動および研究に対してより自主性を持って臨むこと。

美術・工芸特別演習Ⅰ

岡谷敦魚

前期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

社会における芸術表現の可能性が問われている現在において、各自が担うべき役割を考察する。その上で、学部からの研究をふまえ、自由な発想で研究テーマ・コンセプトを決定する。そして、これらを制作において深化・発展させ、作品を制作発表していくことを目指す。

達成目標

- ・学部からの研究を軸に、研究テーマを深化・発展させ、制作において表現することが出来る。
- ・コンセプトを明文化し、プレゼンテーションにより他者に伝達出来る。
- ・版画・絵画領域の社会的意義を考察し、各自が担うべき役割を認識することが出来る。

授業計画

研究計画は、各自の研究テーマにより決定する。
研究計画に基づき、作品制作を行う。適宜研究指導を行う。

1. 概要講義 / 研究計画作成
2. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
3. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
4. 作品制作・文献研究 / ディスカッション

5. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
6. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
7. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
8. 作品制作 / 研究発表 / 中間講評会
9. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
10. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
11. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
12. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
13. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
14. 作品制作 / 仕上げ
15. 研究発表 / 講評会

成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢 20% 研究発表の内容 30% 研究作品の内容 50%

テキスト

適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

一人の研究者・制作者としての、自覚と積極性をもって授業に取り組んで欲しい。

美術・工芸特別演習 I

中村和宏

前期

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

学部4年間で修学した基本を軸とし、個々の研究テーマを定め、実社会への提案力や造形性などを研鑽し、作品制作に反映させ深化することが中心となります。

特別演習I(ガラス)では、社会動向の中で、より多様化が求められる商品・製品分野を取り上げながら、社会背景や生産企業の現状(システム・プロジェクト)を理解し、現代に要求される工芸デザインの思想の認識とものづくりの技術を学び実践に沿い制作します。

この演習をとおして、21世紀においてのコミュニケーションとして、個々の新しい価値観を構築し昇華することを目指します。

達成目標

- (1) 伝統からの抽出とバックキャスト(未来からの発想法)による抽出を理解し、現在の価値観を確立することができる
- (2) 素材を人的・経済的・文化的な資源としてとらえた上で社会に対しての新たな工芸デザインの可能性と展開の模索をすることができる

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 ガラス素材における講義及びディスカッション
- 03 企画演習(1) 廃材・エコマテリアルによる課題
- 04 企画演習(1) /
- 05 企画演習(1) /
- 06 企画演習(1) /
- 07 中間発表

- 08 学外研究(2) 工芸デザインによる商品開発課題
- 09 企画演習(2) /
- 10 企画演習(2) /
- 11 企画演習(2) /
- 12 企画演習(2) /
- 13 学外研究(1) 企業/工房見学
- 14 レポート提出
- 15 発表

成績評価基準

課題の習熟・達成度 50%
提示・発表・成果物の評価 50%

テキスト

テキスト・資料、参考書は適宜提示または配付

用具

適宜説明・提示

履修希望者への要望・事前準備

現代から未来へ向けて、個々の価値観を創造し、より豊かな環境を持続することは容易ではありません
この研究をとおしてグローバルな視点と自身による様々な問題の発見と解明・解決手段の重要性と可能性を見だし、それぞれの課題を的確に取り組むことを求めます

美術・工芸特別演習 I

遠藤良太郎

前期

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

それぞれの研究課題と、そこにおける社会との関係の構築を見据え、各自の研究計画を精査し具体的な行程を策定し実行する。

美術/藝術の概念と自作品の関係について理解を深め、それぞれの表現活動の社会性を具体的に捉えることを念頭に研究する。作品制作と平行してその論理的な構築を目指す。

具体的には作品を通してどのように社会と関与することができるかを発表の様々な形態にアプローチしながら問うていく。

いずれの研究活動も制作ノート等を活用しながら、表現のコンセプト、制作の意図等を専門領域の中で構築しつつ、一般的な語彙の中でも、ある程度明快に言明する能力の獲得を目指すことが基底となる。

達成目標

- ・表現創作を通して社会との関係性を捉えることを意識できる。
 - ・それぞれの研究環境を確立し、表現創作やその周縁の研究において目標を実現できる。
 - ・修了研究の内容を確定し大まかな全体を構築する。
- IはII以降の重要な基盤となる期間であり、II以降を見据えた研究が出来たかどうかとも目標達成の評価の目安となる。

授業計画

基本的には各自の研究計画に従って進めるが、共通活動はスケジュールを随時加える。

01. 概説、計画について。
02. ~ 07. 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
08. 中間報告会
09. ~ 14. 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究、
15. 前期末報告会

成績評価基準

研究及び作品の内容 80% 研究及び作品、成果等の発表 20%

参考書・参考資料等

適宜配付します。

用具

それぞれ必要なものを準備。

履修希望者への要望・事前準備

研究者/表現者として行動してください。

美術・工芸特別演習Ⅱ

石原 宏

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

新潟県立近代美術館が所蔵する作品の「作家研究」がこの演習のテーマである。美術作品をより深く理解するためには、作品の鑑賞に始まり、さらに作家の研究が必須である。この授業の目的は、作家の理解のほか、討議・研究レポート作成技術を向上させることである。

達成目標

- ・美術作品への深い理解が得られる。
- ・討議能力の向上。
- ・レポート作成技術の向上。

授業計画

- 1 授業内容説明
- 2 新潟県立近代美術館見学
- 3 作家紹介
- 4 作家紹介
- 5 作家紹介
- 6 作家選定
- 7 研究・討論
- 8 研究・討論
- 9 研究・討論

- 10 研究・討論
- 11 研究・討論
- 12 研究・討論
- 13 研究発表
- 14 研究発表
- 15 研究発表・レポート提出

成績評価基準

研究姿勢、討議の参加度合い、発表により評価する。

出席・遅刻の基準

出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

参考書・参考資料等

「新潟県立近代美術館所蔵品目録」、「県民の美の財産—新潟県立近代美術館コレクション10年の歩み—」その他適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

作品・作家への深い理解を望むとともに、積極的な討議、正確な研究レポートの製作を目指してほしい。

美術・工芸特別演習Ⅱ

菊池加代子

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

人類にとって最高の発明技術である「織物」を中心に、伝統的染織技法や新素材、新技術を幅広く研究し、テキスタイルアートや生産テキスタイルとして社会的意義の基で提案する事を目指します。

美術・工芸特別演習Ⅰを踏まえて、研究を深化させて行きます。

達成目標

- ・研究テーマに即したテキスタイルを自分の手を通して創作、または工場等に発注して創作する事が出来る。
- ・研究報告書を作成し、発表する事が出来る。
- ・修了後を見据えて、社会的意義を考慮した研究計画と実践を行なう事が出来る。

授業計画

各自の研究計画に従って進行するが、中間報告、期末報告は共通とする。また、展覧会見学や講演会聴講等を適時に共通予定として加える。

- 01 オリエンテーション 研究計画作成

- 02～07 各自の研究計画を実行する。
- 08 中間報告会
- 09～14 各自の研究計画を実行する。
- 15 期末報告会 研究報告書提出

成績評価基準

研究及び成果物 50% 研究発表（研究報告書を含む） 30%
研究に対する取り組み姿勢 20%

参考書・参考資料等

適時指示及び配付します。

用具

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

修了研究が今後の研究活動に繋がる様に、長い視野を持って望んで下さい。研究を具現化するには技術的な向上が必要ですが、それは熱心な行動あるのみです。テキスタイルに留まらずに広い視野から研究を行なってください。

美術・工芸特別演習Ⅱ

手銭吾郎

後期

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸特別演習Ⅰを基に、その間の研究活動で得た専門分野（鍛金）の知識・技術・経験から研究テーマを再考察し、鍛金技術及び工芸美術、金属造形の知識と理解の向上と作品制作に於ける創作意識の更なる展開を目的とする。

達成目標

鍛金分野に於ける各自研究活動・テーマ・内容の再考察。
創作活動に於ける思考・表現方法・技術の再確認と獲得。
作品制作に於ける実践的な技術の向上と造形活動への更なる探求。

授業計画

1. 各自の研究テーマ・目的・内容の計画発表及び確認。
2. 各自の計画の確認及び課題設定。
3. 研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討。
4. 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
5. 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
6. 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
7. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
8. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
9. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）

10. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
11. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
12. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
13. 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
14. 各自課題演習制作、成果物の提出、研究発表の準備
15. まとめ・研究発表・講評（研究報告書提出）

成績評価基準

計画内容に応じた達成度 50%

作品発表等による成果 50%

テキスト

適宜指示・配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示・配付します。

履修希望者への要望・事前準備

美術・工芸特別演習Ⅰに於ける研究活動内容を踏まえ、更なる創作活動に於ける思考と理解、その後に繋がる実践的な研究と展開を期待します。

美術・工芸特別演習Ⅱ

鈴木均治

後期

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸特別演習Ⅰを基にし、さらに高い技術の習得を試みる。また複合的見地より技法を捉え、これまでとは別の視点で染めの方向性を提示する。

達成目標

オリジナルな発想と表現をもって作品を制作することが出来る。
自らが作業計画を立て計画的に作品を制作することが出来る。

授業計画

- 01～02 課題テーマ設定
- 03～04 サンプル製作
- 05～08 作品制作（1）
- 09～10 サンプル製作
- 11～14 作品制作（2）
- 15 講評

成績評価基準

提出作品 70%、制作姿勢 30%

テキスト

適宜配付

履修希望者への要望・事前準備

制作によって得られた結果を良く観察・分析し、次の制作に生かすこと。

美術・工芸特別演習Ⅱ

馬場省吾

後期

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

工芸デザイン特別演習Ⅰを基に、各自の造形志向の理路とその実際の成果を求め、金属素材を中心とする素材と造形技法の実践的展開を試行する。また現在の特定空間に対応する造形要素の問題点を考察・分析し、提案を含めた作品制作を行う。これにより手法から成立するかたちへの言及と思考・構築によって独自の工芸造形観の創出を図る。また次年度の特別研究への足掛かりと成りうる演習内容として位置づける。

達成目標

- ①「工芸概念要素の抽出と再考察」
 - ②「創作における客体的視点の獲得」
 - ③「素材に対応出来る的確な造形計画・手法の獲得」
- 以上を進捗に応じた適切な応答と実践による制作ができる。

授業計画

- 主な演習期間は後期授業期間とする。
各自研究テーマの進捗に対応して相談のうえ計画を策定主に制作を中心としたスケジュールを組み立てる。
- 01：研究テーマ、目的及び成果の確認
 - 02：素材・かたち・志向／ディスカッション
 - 03：創作要素の抽出・計画・課題抽出／ディスカッション
 - 04：プランニングプレゼンテーション／再調整
 - 05：テーマに基づく制作手法の再構築・計画策定
 - 06：各自課題演習制作
 - 07：各自課題演習制作／手法・計画確認
 - 08：各自課題演習制作

- 09：各自課題演習制作
- 10：各自課題演習制作／手法・計画確認
- 11：進捗により創作要素、成果目的再確認
- 12：各自課題演習制作／ブラッシュアップ
- 13：各自課題演習制作／プレゼンテーション試行
- 14：最終プレゼンテーション／ディスカッション
- 15：作品・発表方法についての考察・分析

成績評価基準

計画内容に応じた達成度 50%
作品発表等による成果（展示活動の有無） 50%

テキスト

適宜配付

参考書・参考資料等

工芸に偏らず様々な表現活動の資料・関連する図録、文献を参照し独自のものとする。
アヴァンギャルド以後の工芸／美学出版 北澤憲昭 著、造形的自己変革 素材・身体・造形思考／美学出版 橋本真之 著

履修希望者への要望・事前準備

大学院では各自が2年間のなかでの研究成果を策定し、年次毎に成果目標を設定します。各人が現在認識している専門領域と考えるものが、単に深く狭いものではなく、実践と研究を通しそこに自らが「つくる」行為を確信できる根拠を見出せることを期待します。

美術・工芸特別演習Ⅱ

菅野 靖

後期

演習

4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸特別演習Ⅰと関連し、彫金技法とその芸術性における独自の表現を見出すべく試行を重ねる。また、現代であればこそ得られる表現素材や先進的技術等にも目を向けると共に異なるジャンルやアートの動向を俯瞰し、対外的視野を持って研究を発展させる。

達成目標

高度な技法や発展的なアイデアによって多彩な表現を展開することができる。
自己の表現に方向性を見出し、今後の活動に繋げることができる。
対外性が高い造形や芸術を思考することができる。

授業計画

- 1～3. 技法および表現の研究
4. 研究報告1
- 5～14. 各自が立てた計画に沿って実制作
15. 研究報告2

成績評価基準

デザイン（30%）、制作姿勢（30%）、完成度（40%）

テキスト

必要に応じて資料を提供する。

参考書・参考資料等

金工の着色技法（理工学社）、鋳・宝飾の技法（美術出版社）、彫金〈手づくりジュエリー〉の技法と知識（東京堂出版）、その他インターネット上の参考資料

用具

制作目的に沿った道具の充実。

履修希望者への要望・事前準備

社会的意識を高め、自身の方向性を見出す。

美術・工芸特別演習Ⅱ

小林花子

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

自己の表現を実現していくために、作品の制作と表現活動を通して各々のテーマやコンセプトを探求し、確かなものとしていく。また、その表現に適した素材や技法・技術、知識を獲得する。

自分の表現活動が社会と関わりを持つことの意義について考え、主体的に研究をおこなう。

作品発表、表現活動を計画し、実現させる。

達成目標

表現活動の実際から自己の表現に適した素材の発見と技法・技術の研究をおこない、それらを社会に向けて具体的に発信する手段を提案・実施することができる。

現代社会における「自己」と「表現」の関わりについて主体的に研究を行う。

授業計画

各自のテーマに基づき指導する。

1. 概要講義／テーマ、コンセプト決定／作品プランニング
2. 作品プランニング（デッサン、エスキース作成）／ディスカッション
3. 作品プレゼンテーション／発表計画／ディスカッション／活動計画書提出

4. 作品制作
5. 作品制作
6. 作品制作
7. 作品制作
8. 作品制作／中間報告
9. 作品制作
10. 作品制作
11. 作品制作
12. 作品制作
13. 作品制作 仕上げ
14. 作品制作 仕上げ／発表準備
15. 活動報告／講評／研究報告書提出

成績評価基準

活動計画・プレゼンテーション 20%
作品と発表活動の内容・取り組み姿勢 80%

テキスト

なし

履修希望者への要望・事前準備

2年間の研究成果が、表現活動を続ける「核」となるように主体性を持って行動して欲しい。

美術・工芸特別演習Ⅱ

長谷川克義

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸特別演習Ⅰを踏まえて、鑄金の特性やその加工法をより理解するために、各自のテーマを創作および研究活動を通して具現化する。

達成目標

- ・鑄物の特性および加工技術について、高度な理解を修得することができる。
- ・自己のテーマを確認し、より完成度のある研究成果を発表することができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマ確認
- 第3回 制作・研究
- 第4回 制作・研究
- 第5回 制作・研究
- 第6回 制作・研究
- 第7回 制作・研究
- 第8回 中間チェック
- 第9回 制作・研究

- 第10回 制作・研究
- 第11回 制作・研究
- 第12回 制作・研究
- 第13回 制作・研究
- 第14回 制作・研究
- 第15回 作品および研究成果提出 講評

成績評価基準

受講態度および制作姿勢 40%、成果物の内容 60%。

参考書・参考資料等

適宜指示および参考資料として授業時にプリントを無料で配付する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

特別研究を踏まえて自己のテーマを再確認し、他分野に関しても意識を損なわず研究活動に邁進すること。また、公募展出品や産学連携プロジェクト等へ積極的に参画すること。

美術・工芸特別演習Ⅱ

岡谷敦魚

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸特別演習Ⅰでの研究をふまえ、表現と社会との関わりについて探求し、作品制作と言葉により表現する。各自のテーマ・コンセプトを、作品制作において深化・発展させる。

達成目標

- ・前期からの研究を軸に、研究テーマを深化・発展させ、制作において表現することが出来る。
- ・コンセプトを明文化し、プレゼンテーション及び文章により他者に伝達出来る。
- ・絵画領域の社会的意義を認識し、自分が担うべき役割を実践することが出来る。

授業計画

授業計画は、各自の研究テーマにより決定する。
授業計画に基づき、作品制作を行う。適宜研究指導を行う。

1. 概要講義 / 研究計画作成
2. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
3. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
4. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
5. 作品制作・文献研究 / ディスカッション

6. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
7. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
8. 作品制作 / 研究発表 / 中間講評会
9. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
10. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
11. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
12. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
13. 作品制作・文献研究 / ディスカッション
14. 作品制作 / 仕上げ
15. 研究発表 / 講評会

成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢 20% 研究発表の内容 30% 研究作品の内容 50%

テキスト

適宜配付

履修希望者への要望・事前準備

独創性は、他者（社会）との関わりの中で創造される。美術領域に限らず、さまざまな表現領域にも眼をむけ、客観的な見地で表現活動を行って欲しい。

美術・工芸特別演習Ⅱ

中村和宏

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

5千年の昔エジプトより派生したと言われるガラスは、人間によって作り出された最も古い素材のひとつです。連綿と続くその歴史の中に人々は技術を駆使し、創造性を高め、工芸品として工業製品として浸透させてきました。現代に於いてその道行きはさらに多様化を極めつつあり、さらには環境に配慮した取り組みも含めグローバルな視点も要求される事でしょう。こうした流れの中で、個からの発信・提案が時に大きな流れを生み出す事になりうるのです。

こうした伝統からうけるインスピレーションの抽出作業を行いそこから未来へと焦点を定め、個々のテーマを再度検証し重厚なものへと構築していきます。

達成目標

- (1) 演習Ⅰで培った自身の問題発見と解明・解決力を基盤とし、個々の審美眼の確認と創造性の検証を俯瞰的に行なうことができる
- (2) 更なる技術力の研鑽と高度な完成力の向上ができる（成果物・プレゼンテーション）

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 テーマ（ストーリーボード）の構築
- 03 〃
- 04 内容の修正、再構築
- 05 プレゼンテーション
- 06 内容の修正、再構築

- 07 テーマを構築するための演繹、実験
- 08 〃
- 09 〃
- 10 テーマに於いての顕在化
- 11 〃
- 12 〃
- 13 成果の提示
- 14 最終成果の提示
- 15 発表（学内・学外）

成績評価基準

課題の習熟・達成度 50%
提示・発表・成果物の評価 50%

テキスト

テキスト・資料、参考書は適宜提示または配付

用具

適宜説明・提示

履修希望者への要望・事前準備

現代に於いてガラス素材の可能性は多様化を極めたが、ここで改めてこの素材の社会的背景も含め各自のテーマを検証してもらいたい。

人間の手によって生み出されたガラスという素材の美しさ・美しくあるべき姿を再度確認し、あくまでここに基盤を持ち個々の創造性の更なる問題定義と発展に取り組んでもらいたい。

美術・工芸特別演習Ⅱ

遠藤良太郎

後期
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸特別演習Ⅰを継承しつつ、研究計画を更に発展、深化させる。

美術・工芸特別演習Ⅰの問題点を検証し、改善、工夫をする。表現者としての自己の表現創作をどのように社会化するかについて具体的な展開を見出す。すなわち自己と作品を社会においてデザイン（投企）するということである。

前期を踏まえ、より具体的な活動にアプローチする。

具体的な創作活動においては、作品の発表の方法、いわゆる見せ方全般をより意識し研究を進める。

作品制作、フィールドワーク、社会との関与等の諸項目の詳細を丁寧に分析、記録しつつ進める。

達成目標

- ・創作／研究を通して社会との関係性を捉え具体的な活動が出来る。
- ・それぞれの研究環境のなかで、作品表現やその周縁の研究において目標を実現できる。

授業計画

基本的には各自の研究計画に従って進めるが、共通活動はスケジュールを随時加える。

01. 計画確認、学外実習等
02. ～ 07. 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
08. 中間報告会
09. ～ 14. 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
15. 後期末報告会

成績評価基準

研究及び作品の内容 80%

研究及び作品、成果等の発表 20%

参考書・参考資料等

随時配付します。

用具

それぞれ必要なものを準備。

履修希望者への要望・事前準備

表現者／研究者として行動すること。

プロダクトデザイン特別演習Ⅰ

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、境野広志、土田知也、増田 譲

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

優れたプロダクトデザインが産み出された背景や狙い・コンセプト・材質・製法・技術・価格・造形手法などを分析・検証し、新たな商品デザイン提案に結びつけることで、プロジェクトマネジメントを実践、理解につなげる。

- ・複数の商品を選定し、分析内容をレポートとしてまとめる。
- ・選定した商品をテーマに、その未来像を構想し、新たなデザイン提案を行う。
- ・テーマは指導教員のもと、履修生個々に設定する。

達成目標

- ・商品デザインを様々な視点から分析し、レポート・論文形式でまとめることができる。
- ・文章、スケッチ・モデリングなどの高度な表現スキルの獲得。

授業計画

指導教員とのゼミナール形式で行なう。

但し必要に応じ指導教員外の教員も参加する。

01～10 製品分析：授業時分析・次週レポート提出

- ・商品企画の背景想定
- ・デザイナーの意図想定（造形特性含む）

- ・特徴的な構成要素の抽出

11～30 デザインワーク：授業時、以下課題内容講評

- ・企画・構想立案
- ・アイデア展開
- ・3Dモデリング
- ・プレゼンテーション

成績評価基準

全商品分析レポート（40%）デザイン成果物（60%）を達成目標に照らし合わせ評価し、履修姿勢などを加味し決定する。

テキスト

適時紹介する。

用具

必要な画材・材料は各自用意すること

履修希望者への要望・事前準備

商品に対し、単に造形だけでなく、そのモノが産まれた背景や社会的意味などを考えること。

常にモノに興味を持ち、観察することで、自身のなかにデザインの引き出しを増やすよう務めること。

プロダクトデザイン特別演習Ⅱ

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、境野広志、土田知也、増田 謙

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

プロダクトデザイン特別演習Ⅰで培ったプロダクトデザイナーの視点をベースに、将来新たに発生するであろう「行為」「シーン」「問題」を想定し、その実現のために必要とされるモノ・コトを企画書の形にまとめ提案する。

- ・テーマは履修生個々に設定する。
- ・企画書作成は、複数のテーマについて行う。

達成目標

- ・モノ、コトに関する企画書を纏めることができる。
- ・文章、スケッチなどに関する高度な表現スキルの獲得。
- ・これまでにない新しいモノ・コトの発想・提案ができる。

授業計画

指導教員とのゼミナール形式で行なう。

但し、必要に応じ指導教員外の教員も参加する。

01～15 前期：「モノ」の企画書作成：以下課題講評

- ・仮テーマ抽出
- ・リサーチ・分析レポート作成
- ・テーマ確定に基づくファイナルイメージ確立
- ・企画書ラフ構想作成

- ・ファイナル企画書作成

16～30 後期：「コト」の企画書作成：以下課題講評

- ・仮テーマ抽出
- ・リサーチ・分析レポート作成
- ・テーマ確定に基づくファイナルイメージ確立
- ・企画書ラフ構想作成
- ・ファイナル企画書作成

成績評価基準

全企画（前期 50%：後期 50%）を達成目標に照らし合わせ評価し、受講姿勢などを加味し決定する。

テキスト

適時紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

プロダクトデザインはモノのだけではなく、コトをデザインすることが求められる。

使う人の生活を常に考え、幸せをもたらすことのできるプロダクトはどんなものなのか、ライフスタイルにまで踏み込んで提案をして欲しい。

特別プロジェクト演習

◎渡辺誠介、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、池永 隆、石原 宏、板垣順平、市川治郎、江尻憲泰、遠藤良太郎、岡谷敦魚、小川総一郎、金澤孝和、金山正貴、川口とし子、菅野 靖、菊池加代子、吉川賢一郎、金 峯洙、小林花子、小松佳代子、齋藤和彦、境野広志、白鳥洋子、菅原 浩、鈴木均治、竹田進吾、土田知也、津村泰範、手銭吾郎、徳久達彦、中村和宏、長瀬公彦、長谷川克義、長谷川博紀、馬場省吾、ヨールグ ビューラ、平山育男、福本 墨、真壁 友、増田 譲、松本明彦、御法川哲郎、森 望、山下秀之、山田博行、山本 敦

通年
演習
2単位

授業の概要及びテーマ

特別プロジェクト演習は、広く実社会の仕事に参画して社会の実際を知り、そこから個人の研究に新たな光を見出すことを目指しています。この研究は、分野の異なる複数教員による指導または複数領域の学生により、横断的におこなうことを原則とします。この研究の一環として公開コンペなどに参加することも可能で、学生が自ら実力を試す機会を得ることもできます。

達成目標

- プロジェクト企画書 / 構想書の素案作成ができるようになる。
- プロジェクト予算・執行計画案作成にあたって、意見を述べ、素案を作成することができるようになる。
- 複数造形領域の教員及び学生の考え方 / 意見を徴収・整理できるようになる。
- 必要な調査手法・手順を体得する。
- プロジェクト報告の手法・手順を体得する。
- プロジェクト報告を公開の場でできる。

授業計画

担当教員と学生との相談により、授業内容を決定します。コンペの場合は始めから提出まで集中した作業となります。また、地域計画への実践的参加では、調査やシンポジウムの開催などが考えられます。さらに、まちづくりの活動では、インスタレーションなどを企画してにぎわいの演出を行うことも考えられます。授業の終了時には、担当教員を通して横断的な研究の成果をまとめた報告書を研究科長に提出することを義務付けます。報告書は学内に公表します。

成績評価基準

- 受講者のプロジェクト執行姿勢及びプロセスの段どり・実施状況の的確性を重視します…これに6割程度。
- プロジェクト発想の新鮮度及び成果の完成度…これに4割程度。

以上を総合判断します。

出席・遅刻の基準

- 予定より20分遅れまでが遅刻であり、その時刻以降は欠席扱いです。
- 遅刻は止むを得ない発病・事故等、受講者の責めに帰することができない以外、原則認めません、欠席として扱います。…このプロジェクトは他者との優良な関係を維持することがとても重要です。
- 遅刻・欠席はプロジェクト実施姿勢の評価に反映させます。
- 遅刻による欠席は、遅刻後の受講者の行動姿勢により再評価します。

テキスト

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

実社会において人と接し、議論をし、仕事を学ぶことに喜びを感じるようになって欲しいと思います。自分が共同作業のなかでしっかりと貢献できることを意識し、行動してください。また地域のフィールドに出た場合は、住人との接点が数多く持たれます。人々との交流を楽しみと感じられる時間として過ごせるような、精神を培う機会となることを願っています。

特別研究

◎渡辺誠介、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、石原 宏、板垣順平、江尻憲泰、遠藤良太郎、岡谷敦魚、金澤孝和、川口とし子、菅野 靖、菊池加代子、吉川賢一郎、金 峯洙、小林花子、小松佳代子、齋藤和彦、境野広志、白鳥洋子、菅原 浩、鈴木均治、土田知也、津村泰範、手銭吾郎、中村和宏、長瀬公彦、長谷川克義、長谷川博紀、馬場省吾、ヨールグ ビューラ、平山育男、福本 壘、真壁 友、増田 讓、松本明彦、御法川哲郎、森 望、山下秀之、山田博行、山本 敦

通年
演習
12単位

授業の概要及びテーマ

個人で、特定の計画・目的に基づいた研究もしくは制作を行います。特別研究を通じて、課題の設定、分析と考察、論考の展開、発表の方法などの高度化を図り、「造形理論」の構築あるいは「デザイン学」の確立に向けた研究を行うことがこの授業の目的です。

達成目標

- 自己の研究課題を常に発見しようとする意識・外部観察の眼を持つ。
- 自身の課題の設定や調査・分析・考察につき、適宜第三者の立場に立ち、検証する姿勢を持つ。
- 「造形理論」や「デザイン学」の確立に向けた研究の糸口を常に考える意識を醸成する。

授業計画

入学から修了までの2年間をかけて、自己が設定するテーマについて研究を行います。修士1年の6月と修士2年の4月に行なう中間発表を経て、最終的な特別研究発表に臨みます。修了にはこれらの発表が不可欠となっています。修士論文または修士制作の審査は、

主査1人・副査2人の構成により、本学の「大学院学位規程」に即して実施します。

成績評価基準

- 受講者の研究姿勢及び研究実施プロセスの段どり・実施状況の的確性を重視します…6割程度
- 研究テーマの新鮮度及び成果の完成度…4割程度

以上を総合判断します。

出席・遅刻の基準

- 予定より20分遅れまでが遅刻であり、その時刻以降は欠席扱いです。
- 遅刻・欠席は研究姿勢の評価に反映させます。

テキスト

指導教員からの指示によります。

履修希望者への要望・事前準備

この研究は、修士課程の研究生活の基軸となるものです。この研究を自己の確立につなげられるよう努力してください。

インターンシップ I

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

授業概要

実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。

テーマ

建築設計に関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

- 1回～3回：リサーチおよび企画立案
- 3回～5回：プランニングおよび構造チェック
- 6回：中間発表
- 7回目～10回：法令チェックやコスト計算
- 11回～14回：プレゼンテーション資料および模型制作
- 15回：発表

成績評価基準

指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。

インターンシップⅡ

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

授業概要

実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。

テーマ

建築設計に関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。公共施設や集合住宅など、規模の大きいプロジェクトを対象とし、プロジェクトの進行を体験する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

1回～3回：リサーチおよび企画立案
3回～5回：プランニングおよび構造チェック
6回：中間発表
7回目～10回：法令チェックやコスト計算
11回～14回：プレゼンテーション資料および模型制作
15回：発表

成績評価基準

指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。

インターンシップⅢ

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

授業内容

実務経験豊富な本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。

テーマ

地域計画などに関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。公園や都市開発および文化財の保存・活用に関するテーマで、地域計画・緑地計画などのプロジェクトや文化財系の物件を対象とし、プロジェクトの進行を体験する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、担当教員の確認を受ける。インターンシッ

プ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。
1回～3回：リサーチおよび企画立案
3回～5回：プランニングおよび構造チェック
6回：中間発表
7回目～10回：法令チェックやコスト計算
11回～14回：プレゼンテーション資料および模型制作
15回：発表

成績評価基準

指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。

インターンシップⅣ

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 塁、森 望、山下秀之、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

授業内容

一級建築士事務所等に出向き、設計図書の作成など建築設計の補助業務を行う。本学指導教員と指導担当建築士とで協議し、受講者に適した業務内容を設定する。

テーマ

受け入れ先の業務を優先する。様々なプロジェクトの中から、受講者の希望を尊重しながらテーマを決定する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

1. 事前準備・受け入れ設計事務所の調査
2. 建築実務概要および業務マネジメントとは
3. 専門分野の実務（1）委託業務内容・コミュニケーション能力・企画能力
4. 専門分野の実務（2）プロジェクト運営業務
5. 専門分野の実務（3）様々な法令との関係・計画全体の

進め方と設計実務

6. 専門分野の実務（4）基本設計・実施設計・監理
7. 実務経験（1）意匠・構造・環境設備・造園
8. 実務経験（2）積算・工事契約・工事監理
9. 実務経験（3）建設現場
10. その他の特約業務
11. 労働安全と衛生
12. 総括

成績評価基準

受け入れ先事業所の指導担当建築士による実務訓練に対する評価と、学生が提出した実習報告書をもとに評価を行う。実習は複数の受け入れ先にわたっても構わない。単位認定には連続または分割して合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修希望先を探して受け入れの交渉を行い、了解を受けることとする。実務訓練の場であるため、原則として業務報酬、交通費等の支給はない。受講にあたっては、事前に研修先について調べ、研修の目的を絞り込んでおくこと。

インターンシップⅤ

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 塁、森 望、山下秀之、渡辺誠介

通年
実習
6単位

授業の概要及びテーマ

授業内容

インターンシップⅤは、インターンシップⅣを履修した後に、すでに実務経験を積んだ後に履修するので、より高度な実務実習として位置づける。一級建築士事務所等で、設計図書の作成など建築設計の補助業務を行う。本学指導教員と指導担当建築士とで協議し、受講者に適した業務内容を設定する。

テーマ

受け入れ先の業務を優先する。様々なプロジェクトの中から、受講者の希望を尊重しながらテーマを決定する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

1. 事前準備・受け入れ設計事務所の調査
2. 建築実務概要および業務マネジメントとは
3. 専門分野の実務（1）委託業務内容・コミュニケーション能力・企画能力

4. 専門分野の実務（2）プロジェクト運営業務
5. 専門分野の実務（3）様々な法令との関係・計画全体の進め方と設計実務
6. 専門分野の実務（4）基本設計・実施設計・監理
7. 実務経験（1）意匠・構造・環境設備・造園
8. 実務経験（2）積算・工事契約・工事監理
9. 実務経験（3）建設現場
10. その他の特約業務
11. 労働安全と衛生
12. 総括

成績評価基準

受け入れ先事業所の指導担当建築士による実務訓練に対する評価と、学生が提出した実習報告書をもとに評価を行う。実習は複数の受け入れ先にわたっても構わない。単位認定には連続または分割して合計240時間（概ね6週間）程度の実習を要する。

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修希望先を探して受け入れの交渉を行い、了解を受けることとする。実務訓練の場であるため、原則として業務報酬、交通費等の支給はない。受講にあたっては、事前に研修先について調べ、研修の目的を絞り込んでおくこと。

造形理論

◎渡辺誠介、天野 誠、板垣順平、遠藤良太郎、小松佳代子、鈴木均治、長瀬公彦、長谷川克義、長谷川博紀、馬場省吾、平山育男、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎

通年
実習
8単位

授業の概要及びテーマ

博士(後期)課程は「造形理論」がテーマです。この「造形理論」は、「デザイン学」の確立をめざした基礎研究とも言えます。デザイン学は、計画学、設計学、あるいは計画哲学、設計哲学、創作方法理論学を包含し、より包括的、抽象的な体系を構成しています。

その体系付けは、自然や生態系などを含む生活環境を総合的に捉える世界観や歴史観、社会と深く関わることによる時代や地域における美意識や価値観に対する理解を基礎とし、個人の思索と研究領域としてのフィールドに密着することにより達成されるものです。

達成目標

- 従来にない研究テーマの探索法を体得する
- 長期かつ膨大な研究活動の工程の構想力、段取りや管理能力を会得する。
- 事実関係や研究資料の正当性を常に検証する態度を獲得する。
- 論文作成等における他者による引用・参考文献の峻別や明示を的確に行う姿勢を習性化する。

- イノベーションに資する知見を会得する

授業計画

入学から修了までの所定の年限（3年間以上を基本とする）をかけ、研究成果を博士論文としてまとめるための研究を行いません（博士論文は、別途「造形理論研究指導」を受けてまとめます）。

成績評価基準

- 受講者の研究姿勢及び研究プロセスの段取りと実務の的確性を4割程度
- 研究成果の完成度を6割程度以上を総合評価します。

履修希望者への要望・事前準備

前準備 周辺領域の知見を深めつつ、自分の進む領域に幅と深さを獲得し、博士論文の完成をめざしてください。

－修士課程－

(1)基礎科目群

デザイン特論

イノベーションデザイン特論

美学

デザインと法務

形と素材

構想発想手法論

サステイナブル環境論

インターフェイス論

デジタルテクノロジー

文化財建造物とデザイン

(2)専門科目群

社会とアート

地域と工芸デザイン

建築物と空間の安全

文化財建造物活用論

ランドスケープ・アーキテクチャ論

建築設計論

クリエイティブディレクション

プロトタイプング演習

フィールド分析演習

プロジェクト・マネジメントワークショップ

(3)プロジェクト科目群

地域特別プロジェクト演習Ⅰ

地域特別プロジェクト演習Ⅱ

(4)ソーシャルスキル科目群

実務実習

起業演習

建築士インターンシップA

建築士インターンシップB

(5)領域科目群

プロダクトデザイン研究

視覚デザイン研究

美術・工芸研究

建築・環境デザイン研究

イノベーションデザイン研究

(6)特別研究

(7)インターンシップ科目

建築士インターンシップC

建築士インターンシップD

建築士インターンシップE

－博士（後期）課程－

特別プロジェクト研究演習

造形理論

造形理論研究指導

デザイン特論

◎渡辺誠介、板垣順平、小松佳代子、齋藤和彦、長谷川克義、長谷川博紀、山下秀之、松本 有

前期（第1クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

本授業は修士課程での造形研究領域・ものづくり実践領域・サービスデザイン領域等に取り組む出発点または経過点として、横断的な視点や論点からそれぞれが目的とする造形活動をデザイン領域全体から展望し、どの様な共有性と志向性により領域間で有効な働きかけが可能か、また社会にどの様な提案が可能かを考察・理解する機会と考えます。授業では本大学院での5つの研究領域（イノベーションデザイン、建築・環境デザイン、視覚デザイン、美術・工芸、プロダクトデザイン）から各教員が授業を行い、上記テーマに基づいた主題によって受講者間及び教員と共に理論と実践内容の関係を議論します。また研究リテラシーとして、論文作成の基本も同時に学びます。

達成目標

- 質疑や議論に際して適切な姿勢と語彙を用いることができる。
- 発表時には内容を的確に把握し、受講者に向け明瞭に発表する姿勢を獲得する。
- レポートを作成する際に、読む側の容易性に留意した文章作成を心がける意識の獲得
- 不明な用語は、密接に関係する用語内容を含め必ず調査し、自らの言語として発表する姿勢を獲得する。なお調査して不明なものは不明として開示する姿勢も同様。
- 事実関係やレポート内容の正当性を常に検証する態度の獲得。

● 資料やレポート作成における引用・参考文献の開示を適正に行う。

※ 各授業時に担当教員から授業の達成目標を別途設定する場合があります。

授業計画

※ 1回目はガイダンスも含めた講義となります。

- 第1回 研究リテラシー・論文研究の進め方
- 第2回 イノベーションデザイン
- 第3回 美術・工芸
- 第4回 プロダクトデザイン
- 第5回 視覚デザイン
- 第6回 建築・環境デザイン
- 第7回 デザインの社会での展開
- 第8回 まとめ

※ 各授業に際しては事前調査、準備等の指示がある場合があります。

詳細はパレット等にて連絡。

成績評価基準

- ・ 質疑応答の姿勢、発表等での準備及び内容 50%
- ・ 小論文 50%

テキスト

- ・ 各授業にて適宜指示もしくは配付する場合あり

イノベーションデザイン特論

板垣順平

前期（第2クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

デザイン思考やラテラル思考、ロジカル思考といったイノベーションの創出や課題解決に必要な基礎的な理論や思考原理を学ぶとともに、参与観察やアクションリサーチといったフィールドワークやワークショップなどの具体的なイノベーションの手法についての知見を深めます。

達成目標

- ・ イノベーションの創出に必要な理論や原理を理解するとともに他者に説明できるようになる。
- ・ 授業内でのワークを通じて具体的に活用できるようになる。
- ・ イノベーションに関する専門用語を共通言語として使えるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(イノベーションデザインとは)
- 第2回 イノベーションの原理Ⅰ(課題発見と解決の手法)
- 第3回 イノベーションの原理Ⅱ(エスノグラフィーとデザイン思考)
- 第4回 イノベーションの原理Ⅲ(ラテラル思考とロジカル思考)
- 第5回 イノベーションの手法Ⅰ(参与観察、アクションリサーチ)
- 第6回 イノベーションの手法Ⅱ(ワークショップ)
- 第7回 イノベーションの実践Ⅰ(課題の設定、原理・手法の実践)

- 第8回 イノベーションの実践Ⅱ(まとめ、プレゼンテーション)

成績評価基準

平常点(授業への取り組み姿勢や自主的な参画姿勢) 20点
授業毎の小レポート(5点満点×6回分) 30点
最終授業でのプレゼンテーション 50点

テキスト

必要に応じて、適宜授業毎に配付します。

参考書・参考資料等

『イノベーションの達人！－発想する会社をつくる10の人材』(2006 トム・ケリー他 早川書房)
『考えなしの行動？』(2009 ジェーン・フルトン・スーリ 太田出版)

履修希望者への要望・事前準備

イノベーションデザインには自主的な参画や発言が求められます。この授業では、自発的な意見やアイデアの提案を心がけるようにしてください。また、この授業は段階的に知見を深めていく、実践するスケジュールとなっているため、万が一欠席した場合は必ず、次の授業までに担当教員まで欠席分の授業内容について確認してください。

美学

小松佳代子

前期（第1クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

美術制作のただ中で制作者が思考・探究していることを「研究」と捉える Art-based Research を実践すべく、その手がかりとなるような芸術に関する哲学を紹介し、受講者の制作実感と関連づけて議論する。造形実践者が理論研究をする意義と可能性を考える。

第10回 未定

第11回 未定

第12回 未定

第13回 未定

第14回 未定

第15回 未定

達成目標

自らの制作・実践に関して理論的に語れるようになること。

成績評価基準

授業内における思考と発言、学期末レポートにおける深い思考

授業計画

第1回 ガイダンス：Arts-Based Research とは何か

第2回 芸術の要件

第3回 制作における身体の問題

第4回 知覚と記号論

第5回 ミメシス、イメージによる学び

第6回 中動態から制作を考える

第7回 作者—作品—鑑賞者

第8回 まとめにかえて：制作を哲学する

第9回 未定

テキスト

小松佳代子編著『美術教育の可能性—作品制作と芸術的省察』（勁草書房 2018）3700円＋税

参考書・参考資料等

ティム・インゴルド『メイキング—人類学・考古学・芸術・建築』（左右社 2017）3100円＋税、森田亜紀『芸術の中動態—受容／制作の基層』（萌書房 2013）2800円＋税

デザインと法務

◎渡辺誠介、本多誠一

前期（第1クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

知的財産権についてさらに理解を深め、契約行為の意義やノウハウについて学ぶ。（学部共通「知的財産権論」の履修を踏まえた内容）

達成目標

- ・創作する者として自分が創作したデザインに関して、法律上発生する権利、取得し得る権利、及び、行使し得る権利を常に意識し、これらの説明ができる。
- ・自分が創作したデザインに関する権利を意識するのと同様に、他人の創作を尊重し、その権利を侵害しないようにする意識を持ち、これらの意義を説明できる。
- ・知的財産権制度の体系を知得し、これらの概要を説明できる。
- ・デザインを創作しようとする場合、参考にした他人の著作物の関係性を意識すること、また、引用した他人の著作物を適切に明示することを常態として保有し、これを課題作成などにおいて実行できる。
- ・デザイナー・作家として知財の保護、契約および活用の基本を理解する。

授業計画

1回 デザインと意匠権事例研究：渡辺

2回 デザインと商標権事例研究：渡辺

3回 デザインと著作権事例研究：渡辺

4回 デザインと模倣対策・契約の事例研究：渡辺

5回 長岡造形大学のデザイン知的財産利活用と契約の事例：本多

6回 東京オリンピックエンブレムデザイン問題の構造：本多

7回 アート作品の知財化、ビジネス化事例：本多

8回 各人の知財案件の知財化計画と契約案の発表と講評：渡辺＋本多

成績評価基準

報告書・課題等の提出自体及び内容評価70%、授業姿勢30%とし、総合評価する。

参考書・参考資料等

「知的財産権とデザインの教科書」渡辺知子、龍村全、日経BP社、2009年
その他

形と素材

◎久保光徳、寺内文雄

授業の概要及びテーマ

授業の前半においては、生活の中で自然発生的に生み出されてきたと思われる人工物の形態に対する考察の紹介を起点として、身の回りの形を有するモノへの考察を試みたいと思います。形の単純化を行い、簡単な力学的解釈を通してその形の意味を探ります。後半においては、簡単な実験を通してヒトの触知覚や力覚、嗅覚といった感覚特性の特徴を体感してもらいます。ついでこれらの感覚に基づいて、工業材料の特性を改めて捉え直すこととします。そして素材や工業製品、あるいはその画像データを収集し、感覚的な側面から材料を捉え直すこととします。

達成目標

工業材料に対する基本的な知識を身につけるとともに、人の感覚と素材やそれによって構成される形態の物理的・化学的特性との間にある意外な関係を体験的に理解していきましょう。そして人間の感覚特性の視点から、新たな材料の活用可能性や製品提案をしていけるような素養を身につけてもらうことを最終目標としています。

授業計画

- 第1回 身近なかたち（1） - ヒモ
- 第2回 身近なかたち（2） - テンセグリティ
- 第3回 地域に残されたかたち（1） - 社寺彫刻

前期（第2クォーター）

講義

1単位

- 第4回 地域に残されたかたち（2） - 民具
 - 第5回 ヒトの感覚特性（1）：触知覚と力覚
 - 第6回 ヒトの感覚特性（2）：嗅覚の活用可能性
 - 第7回 ヒトからみた材料の活用可能性：材料と形状の関係
 - 第8回 ヒトからみた材料の活用可能性：時間軸でみるデザイン
- 各週課される小課題の提出状況と内容（40%）、プレゼンテーションにおける発表姿勢と内容（50%）、および授業への意欲、積極性（10%）を総合評価に加える。

成績評価基準

授業中に配付する

テキスト

授業時に指示する

履修希望者への要望・事前準備

材料なくして、モノを作ることはできません。工業材料に基本的知識を獲得すると同時に、体験することを通して、人と材料、そしてその材料によって構成される形態との関係を考え直して下さい。

構想発想手法論

板垣順平

授業の概要及びテーマ

アイデアの創出やそれを視覚化するには様々な手法があります。この授業では、ブレインストーミングやKJ法、三角測量法など、授業毎に様々なワークのプロセスや手法を学び、実際に実践できる、もしくは基本的なファシリテートに必要な知識や技術の習得を目指します。

達成目標

- ・アイデア創出のワークを実施することができる。
- ・様々なワークショップや分析手法をファシリテートすることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（アイデア創出の心構え、道具の使い方）
- 第2回 発想の原理Ⅰ（アイデアの視覚・言語化、ストーリーテリング）
- 第3回 発想の原理Ⅱ（PDCAサイクル、オズボーンのチェックリスト法）
- 第4回 発想の手法Ⅰ（ブレインストーミング）
- 第5回 発想の手法Ⅱ（KJ法）
- 第6回 発想の手法Ⅲ（三角測量）
- 第7回 発想の展開Ⅰ（課題の発見と解決方法の模索、マッピング）

前期（第2クォーター）

講義

1単位

- 第8回 発想の展開Ⅱ（解決方法の視覚化）

成績評価基準

平常点（授業への取り組み姿勢や自主的な参画姿勢）20点
最終授業でのプレゼンテーション 30点
授業成果物 50点

テキスト

必要に応じて、適宜授業毎に配付します。

参考書・参考資料等

『発想法 改訂版 - 創造性開発のために』（2017 川喜田二郎 中公新書）

用具

ハサミ、水性マジック、デジタルカメラ（スマホのカメラ機能）

履修希望者への要望・事前準備

この授業では自主的な参画や発言が求められます。自発的な意見やアイデアの提案を心がけるようにしてください。また、この授業は段階的に知見を深めていく、実践するスケジュールとなっているため、万が一欠席した場合は必ず、次の授業までに担当教員まで欠席分の授業内容について確認してください。

サステイナブル環境論

◎渡辺誠介、飯野由香利

前期（第1クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

概要

サステイナブル（持続可能）な建築と環境を構築するために、設計・施工・運用の各段階を通じて、地域レベルでの生態系の収容力を維持しうる範囲内で、以下の三つの視点を学ぶ。

- (1) 建築のライフサイクルを通じての省エネルギー・省資源・リサイクル・有害物質排出抑制
- (2) 地域の気候、伝統、文化および周辺環境と調和を図る
- (3) 将来にわたって人間の生活の質(QOL)を適度に維持あるいは向上させていくことができる建築物と空間を考える

テーマ

日本・および世界のサステイナブル環境の事例を（1）建築の省エネルギー・省資源の観点、（2）気候、伝統、文化、周辺環境との調和の観点、（3）建築・環境と QOL 維持の観点から学ぶ

達成目標

- ・サステナブルな建築と環境の定義、事例、課題を理解する。
- ・CASBEE 制度の理解を深める。

授業計画

ヴァナキュラー(土着的)建築や環境のサステイナビリティと、近年の技術を用いた建築や環境のサステイナビリティ

について、CASBEE 制度を参考にしつつ、理解を深める

- 第1回 サステイナブル環境論概論
- 第2回 建築の省エネルギー・省資源
- 第3回 CASBEE 制度について
- 第4回 気候、伝統、文化、周辺環境との調和
- 第5回 建築・環境と QOL 維持
- 第6回 ケーススタディー：国内
- 第7回 ケーススタディー：海外
- 第8回 まとめ

成績評価基準

レポートにて評価

テキスト

ヴァナキュラー建築の居住環境性能—CASBEE 評価によりサステイナブル建築の原点を探る 村上 周三 著 慶應義塾大学出版会

参考書・参考資料等

事例に学ぶ CASBEE 村上 周三 著 日経 BP 社

履修希望者への要望・事前準備

QOL を維持しながら低炭素社会を実現するための方策に関して興味・関心を持っていること

インターフェイス論

◎金山正貴、徳久達彦

前期（第2クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

製品にはユーザーがそれを使用する際に人間の特性に応じた入出力をつかさどるインターフェースが存在します。日常的に接する製品や専門性の高い機器には使いやすい操作性が不可欠となっており、昨今ではタッチパネルやセンサー技術などを取り入れた製品が普及しその重要性は増しています。

授業では実際の製品のハードウェアデザインや GUI デザインにおけるインターフェースデザインについての概要から、携帯端末やパソコン、公共機器、画面デザインなど具体的な例を用いながら講義をおこないます。さらに理解を深めるためにプロトタイピングツールなどを利用し、講義内容の実践を行う形式で進めます。

達成目標

製品のハードウェアデザインや GUI デザインにおけるインターフェースデザインの基本的な考え方と、実製品での適用例やデザインする際に必要となるスキルについて理解できること。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 - 04 プロダクトデザインにおけるインターフェースデザイン
- 05 - 07 WEB・画面 UI におけるインターフェースデザイン
- 08 まとめ

成績評価基準

提出するレポートに内容及び、受講姿勢を勘案して評価する。各レポートの得点の平均点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。

デジタルテクノロジー

◎増田 譲、土田知也、徳久達彦、真壁 友、堺 大輔

前期（第1クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

21世紀、所謂IT革命によって世界の姿は大きく変貌しつつある。デジタルテクノロジーはあらゆる分野に劇的な変革をもたらし、我々が属するデザイン、建築環境、アート、クラフト領域においても好むと好まざるに関わらずその影響を免れ得ない。このデジタルテクノロジーがあまねく行き渡った世界において、我々が日々の創作に向き合う為にはそのデジタルテクノロジーについての本質的、多面的な理解が不可欠である事は言うまでもない。本科目では5人の教員からそれぞれの分野におけるデジタルテクノロジーの意義、最新事例、活用手法について学んでいく。

達成目標

- ・毎回の講義で講師から各分野におけるデジタルテクノロジーの意義、最新事例を学び理解する。
- ・自身の研究領域とデジタルテクノロジーとの関わり／活用方法を理解し、より広い視野から研究活動に活かせるようになること。

授業計画

- 第1回 増田
- 第2回 増田
- 第3回 真壁
- 第4回 真壁
- 第5回 土田

第6回 土田

第7回 徳久

第8回 堺

成績評価基準

各回ごとにレポートを提出し、各担当教員が採点を行い、その総合点を基準とする。

単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

各授業にて適宜指示もしくは配付する場合あり

参考書・参考資料等

各授業にて適宜指示もしくは配付する場合あり

用具

各授業にて適宜指示

履修希望者への要望・事前準備

本科目を通してデジタルテクノロジーの時代の表現活動について再考し、自らの研究の立脚点を再認識し、新しい表現形態、表現手法を獲得してほしい。

文化財建造物とデザイン

◎平山育男、津村泰範

前期（第1クォーター）

講義

1単位

授業の概要及びテーマ

環境文化財学の領域における専門的で必要となる知識・情報の修得に努める。

建造物の保存修復計画（津村）

建造物、集落町並みの保存修復（平山）

達成目標

建造物、記念物、集落、町並みなど環境文化財（不動産文化財）の価値評価に関する基礎理論、方法論及びその国際関係を学びます。併せて「もの」を観る確かな目を養うことを目標とする。

授業計画

それぞれの課題について、以下のような方法で授業を進める。

〔（1）建造物の保存修復の計画〕

事業として行われる建造物保存修復の流れと構成を理解し、保存の歴史にそった修復事例から人や組織の役割とその意義を学び、今日の保存修復のあり方を考える。

〔（2）建造物、集落町並みの保存修復〕

履修者の修士課程研究に関する物件についての修理工事報告書、町並み調査の報告書、関係資料などの読解を通じ、調査に関する基礎的な方法、理論を修得するとともに現状における問題点を明らかにしていく。

第1回（1）-1 復原事業の取り組み

第2回（1）-2 修復における調査

第3回（1）-3 設計と監理

第4回（1）-4 まとめ

第5回（2）-1 歴史的建造物関連資料の収集・説明

第6回（2）-2 歴史的建造物関連資料の読解

第7回（2）-3 歴史的建造物関連資料の図化・翻刻化

第8回（2）-4 まとめ

成績評価基準

受講態度20%、課題提出80%

テキスト

各回の授業で配付。後半の授業では『匠明』社記集、殿屋集などを用いる。

参考書・参考資料等

文化財保護法（六法全書）

履修希望者への要望・事前準備

本授業は修士課程研究を進める上で、基礎的な素養と方法を修得するものである。履修者の主体的な取り組みを望む。

社会とアート

◎小松佳代子、宮田徹也

前期
講義
1 単位

授業の概要及びテーマ

アートによる地域活性化など、社会におけるアートの位置づけとその可能性を考える。現代社会の諸問題や文化的多様性について学修することで、アーティストとして社会につながっていくための基礎的な知見を得る。

達成目標

現代社会の諸問題を自分なりの視点で考え、社会におけるアートの位置づけを実践者・享受者両方の視点から考察できるようにすること。

授業計画

- 第1回 アーティストになる！アートの世界における機能と役割
- 第2回 アートの種類
- 第3回 アートの場所
- 第4回 今日におけるアートの活動
- 第5回 本や作品を読み、考える力をつけよう※
- 第6回 今日の生活を考えよう
- 第7回 子育て

- 第8回 老後
 - 第9回 近代とは何か※
 - 第10回 近代の黎明期の学問
 - 第11回 法学
 - 第12回 医学
 - 第13回 宗教
 - 第14回 哲学※
 - 第15回 芸術のはじまり
- ※の回には小松による質問と議論を予定

成績評価基準

受講姿勢 30% 学期末レポート 70%

履修希望者への要望・事前準備

ただ授業を受けるだけでなく、積極的に質問をしてほしい。

地域と工芸デザイン

◎小松佳代子、木田拓也、鞍田 崇、吉田守孝

前期
講義
2 単位

授業の概要及びテーマ

工芸デザインの歴史や内外の動向、ものづくりの現場の実際と地域社会との結びつきなどから工芸の本質と地域における実践的課題を俯瞰的視野で捉える。学んだ内容を自らの制作・研究に生かしていくために、講義の内容を整理し課題を抽出して議論する。

達成目標

地域と工芸デザインを考えるための自分なりの視点を獲得することができる。
講義内容を論理的にまとめ、各自の研究と絡めた発表（提出）ができる。

授業計画

- 第1回 デザインと哲学:いまなぜ地域と工芸デザインか? (鞍田)
- 第2回 デザイン・サーベイ:地域にあるホンモノを見つけるまなざし(鞍田)
- 第3回 工芸性へのまなざし:民藝をノイズ化する(鞍田)
- 第4回 インティマシーをデザインする(鞍田)
- 第5回 履修生によるまとめと発表・議論(小松)
- 第6回 プロダクトデザインの仕事:系譜と事例(吉田)
- 第7回 モノ作りのこと:2つの素材、2つの現場(吉田)
- 第8回 産地のこと:作り手の想いとデザイナーの考え(吉田)
- 第9回 デザインと流通:取組みの事例と現場の様子(吉田)

- 第10回 履修生によるまとめと発表・議論(小松)
 - 第11回 工芸指導所と国井喜太郎:タウトとペリアン(木田)
 - 第12回 地場産業とデザイン:イサムノグチのあかりとクラフト運動(木田)
 - 第13回 地場産業と工芸の保護策:伝統工芸と伝統的工芸品(木田)
 - 第14回 2000年代以後:工芸デザインと手仕事の行方(木田)
 - 第15回 履修生によるまとめと発表・議論(小松)
- 授業の進行上、時間割および計画通りの進行になるとは限らない

成績評価基準

受講姿勢 30%、複数回行われる発表や議論・提出物の内容 70%

参考書・参考資料等

参考資料を適宜配付または提示する。

用具

必要なものを事前に周知する。

履修希望者への要望・事前準備

現代生活の中で「工芸」というものを、理論と歴史、地域という視点から客観的に把握・理解して欲しい。そのためにも事前に非常勤講師の業績を確認し、各自の研究へ繋がる箇所を見出すこと。

建築物と空間の安全

津村泰範

前期

講義

2単位

授業の概要及びテーマ

都市や建築における防災や適正な土地利用などの「安全」について学ぶ。

達成目標

都市や建築に関する設計実務において必要な安全についての理論を修得すること。

授業計画

人間が構造物(建築)を作り、都市に集住するようになると、それまでは意識されなかった空間という概念が発生した。建築の内部空間と都市空間である。

構造物は倒壊のおそれと戦い、ついで外部からの様々な力に対する安全性を確保し、最後に空間の快適性の追求という時間的経緯を経て来た。一方都市は極めて政治的な空間として発達する。古代ギリシアの都市の規模、帝国の首都としてのローマ、中世の軍事拠点化した西欧の都市、近世以降の国家の首都としての諸都市、アジアやイスラム圏の諸都市など様々である。17世紀に起きたロンドン大火は都市の姿に大きく影響したが、その後の産業革命を経て諸問題が噴出した。都市は交易地としての基本的性格に加えて防衛拠点としての性格、時の権力者の権威の表現手段としての性格を経て、産業革命の波は都市を膨張させ、若者の育成と都市の衛生問題が関連づけられて問題視されたのである。大量破壊兵器等の開発や、地震を始めとした自然災害も巨大化した都市にとっては無視できない問題となった。我が国では都市や建築の安全性に関しては都市計画法や建築基準法、または消防法の形として規定することとなったのである。

日本における建築物の安全性に関しての方向を決定した近代的建築法制は1919年制定の市街地建築物法である。これは明治維新後の明治政府が50年をかけて準備し、まとめた都市と建築に対する安全の考え方の集大成とも言えるのである。

第1回 銀座大火から学ぶ

現代の都市計画法の防火地区等の概念への流れを外観する。

第2回 東京の都市問題の顕在化—東京市区改正条例の動き(1)

新潟県令、ついで東京府知事に就任した楠本正隆(明治10年—1877)、芳川顕正、から渋沢栄一など都市改造案に関わった人物とその思想について概観する。

第3回 東京の都市問題の顕在化—東京市区改正条例の動き(2)

新しい交通システムと江戸の都市構造からの脱却

第4回 近代的構造方法の導入から濃尾地震、関東大震災までの考え方

構造強度上の安全に関する概念の始まりと日本への導入について。

第5回 地震に対する構造安全性に対する概念の興隆

木構造の耐震性能の向上を目指した、佐野利器の「家屋耐震構造論」への理論展開。

第6回 佐野利器の考え方

サンフランシスコ地震(1906)の教訓から学ぶ。佐野の思想を法律にしたのが東京市建築条例であり、その系譜は現在の東京都安全条例に繋がってくる経緯を述べる。

第7回 大都市を対象とした都市計画法、市街地建築物法への展開過程

人口が集中しだした大都市における、東京で行われていた市区改正を参考とした都市計画法を制定しようとする機運の高まり。

第8回 市街地建築物法(1919)における安全の概念、主旨

用途地域制度、建築線、建築物の高さ制限、空地割合、一般建築物

と特殊建築物の規定、防火地区の規定、美観地区の規定、有害な建築物の除去、法の適用区域などの内容の解説と現行の建築基準法への移行する主旨を火災、震災、風災の観点から解説する。

第9回 日本における耐震構造の進展と関東大震災の経験

内藤多仲による耐震の考え方を概説し、関東大震災前後の日本の構造設計における安全に対する考え方を概説する。

第10回 水平震度0.1、高さ制限100尺の解説

佐野利器によって提唱された水平震度は、関東大震災の下町では0.3とされたが、構造強度規定では0.1とされた。その理由を概説する。一方高さ制限は居住地域では65尺、それ以外では100尺、さらに周囲が公園のような広い場所では100尺を超えられる規定となった理由について論ずる。

第11回 柔剛論争とは

市街地建築物法の震度法に基づく耐震計算の原則は建築物の剛性・強度を強くして、外力に対して変形しにくい堅い構造にさせようとした。これは剛構造志向する佐野利器の姿勢でもあった。一方昭和初期の段階で真島健三郎の唱える振動理論を裏付けとした柔構造を推奨した。つまり建築物は剛性を下げ、柔らかく作ったほうが地震との共振がさけられるという主張である。この柔剛論争について解説する。

第12回 建築基準法の安全に対する理念

昭和25年に新生建築基準法が制定された。その成立の過程と理念を概説する。

第13回 構造規定のその後を解説する

基準法の改正による考え方を解説し、構造規定の変遷を明らかにする。その改正を裏付ける安全性に対する考え方を明らかにする。

第14回 消防法にみる安全に関する理念について

新たな建築を作ろうとする場合、建築基準法の確認申請と平行して消防法に規定された内容もクリアする必要がある。その消防法の理念を解説する。

第15回 防災と人間—まともにかえて

以上14講では概ね都市空間や建築空間としての物理的空間に対する考え方と構造技術的、構造学問的な進化を法律という形で社会に浸透させようとした行為であった。しかしながら、建築や都市は単に物理的な空間だけを扱うものではなく、そこに住まう人の問題が重要である。近年起きている震災や水害、大火などからの復興には「自助、共助、公助」が必要であることが顕在化した。つまり人間による空間づくりが必要となるのである。

成績評価基準

受講態度20%、課題提出80%

テキスト

適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

『日本建築構造基準変遷史』大橋雄二、財団法人日本建築センター、1993年

用具

特に必要ありません。

履修希望者への要望・事前準備

設計において安全性は極めて重要であり、設計実務においてこの点を常に重視する実務者になってもらいたい。

文化財建造物活用論

◎平山育男、津村泰範、金出ミチル

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

環境文化財（不動産文化財）の調査、修復、修景、設計のプロセスについて実践的に経験する。以下の各テーマにより、文化財保存の実際を演習として体感する。併せて、インターンシップに向けた準備を行う。

- ・歴史的な建物の保存修復と活用（津村）
- ・集落町並み保存、調査、保存計画策定（平山）

達成目標

文化財保存を実践的に学び、その過程を修得する。

授業計画

歴史的な建物の保存修復と活用は、建物の価値を再評価して高め、保存状態をより良く整える機会となる。事例の研究や現場の見学・体験を通し、調査、設計、監理、記録作成、活用計画など、事業として成り立っている保存修復の方法や過程を理解するとともに、専門家の備えるべき理論と技術の基礎を身につける。

- 第1回 全体説明、計画の設定
- 第2回 計画の進め方を検討
- 第3回 現地準備
- 第4回 現地状況の分析、計画の策定
- 第5回 現地調査
- 第6回 現地調査
- 第7回 成果の整理と分析
- 第8回 中間発表

- 第9回 現地調査
- 第10回 事例研究、成果の整理と分析
- 第11回 事例研究、成果の整理と分析
- 第12回 成果の整理と分析
- 第13回 成果のまとめ
- 第14回 現地報告
- 第15回 最終発表・講評

成績評価基準

受講態度 50% 課題の提出と発表 50%

テキスト

授業内容に応じて適宜作成して配付

参考書・参考資料等

文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料
<http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html>
橋本市 橋本市の町と町家 平成14(2002). 3

履修希望者への要望・事前準備

本授業は、各人の修士研究の橋渡しをすると同時に、文化財保存により社会に参加することの足掛りを作るための授業である。机上の空論に終わらず、社会の現実を体感してもらいたい。

ランドスケープ・アーキテクチャ論

小川総一郎

前期
講義
2単位

授業の概要及びテーマ

ランドスケープ・アーキテクトは、健全な地域環境をデザインする責務があります。流域単位で環境を総合的にとらえれば、デザイン対象は建築単体や公園緑地にとどまらず、道路、河川、海岸、農地、山林とあらゆる外部空間が対象となります。開発の機会を活用して現在の環境よりも優れた環境を創出して地域に還元することも不可能ではありません。地域環境と生物多様性を踏まえた設計ができる建築家を目指します。生態系とエンジニアリングとデザインの三要素をフルに活用して空間を計画設計する手法を学びます。

達成目標

- ・地域の自然環境のあるべき姿を読みとることができる。
- ・流域単位で建築とランドスケープを位置づけることができる。
- ・地域環境と景観に配慮した計画設計ができる。
- ・地域の生態系を理解して生物多様性に貢献する計画ができる。
- ・環境配慮を前提とした等高線の操作と雨水排水活用ができる。
- ・将来像を正確に伝えることができる。

授業計画

インターンシップを補う実践的な技術習得のため、エコロジカル・ランドスケープの観点から、講義とディスカッションを通して各受講者が取り組んでいる課題を展開する

成績評価基準

授業受講態度を考慮して課題作品を評価します。

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書
4,200円

参考書・参考資料等

各受講者が取り組んでいるテーマにふさわしい参考書を適宜お勧めします。

履修希望者への要望・事前準備

スケッチをたくさん描いて自然環境と景観を総合的に理解しましょう。

授業の概要及びテーマ

実学である建築の革新性、多様性、および地域性を踏まえた、意匠設計・構造設計・環境工学について学ぶ。

【A 意匠設計】

時代を切り拓く建築ができる上で、必ず革新的な発想が欠かせない。本講義では「発想のメカニズム」をテーマに、下記の2つの事例をとりあげる。人が革新的物事を生み出す際の思考プロセス、および発想から設計・建設にいたるまでの知識と技術を、綿密に実務的に修得する。

【B 構造設計】

構造設計は数式の羅列との印象が強いが、計算だけでは成立しない。構造システムとして成立して初めて構造計算に至る。構造システムを考えるには、経験と感性が必要となる。本講義では、ラーメン構造や壁式構造等の従来のシステムではなく、特殊な構造を考えることから始まり、架構模型を造ることにより力の流れや外力に対する方法を修得する。

【C 環境工学】

身近な熱・光・空気・音環境に興味を持ち、これらの現象（メカニズム）を理解し、総合的に捉える素養を養成する。さらに、環境問題や将来の環境の動向に関する知識と技術を修得する。

達成目標

建築設計の実務の場において、革新的な発想を実現する力を身につけること。計算では無く、構造システムを創造できるようになること。身近な温熱環境の現象について分析でき、環境問題や将来の環境動向に積極的に取り組めるようになること。

授業計画

- 第1回 東京国際フォーラムのガラスキャノピーを題材に、全ガラス構造体の「デザイン」について
- 第2回 同、「技術」について
- 第3回 同、「建設」について
- 第4回 横浜客船ターミナルを題材に、先駆的現代建築の「デザイン」について
- 第5回 同、「技術」について
- 第6回 同、「建設」について
- 第7回 材料力学の歴史
- 第8回 橋の歴史
- 第9回 テンセグリティ構造
- 第10回 特殊な構造
- 第11回 構造模型の講評会
- 第12回 温熱環境のメカニズム

- 第13回 光・空気・音環境のメカニズム
- 第14回 建築内外の複合環境と設備による制御
- 第15回 環境問題や今後の環境動向

成績評価基準

A/ 意匠設計：「自身の建築作品のオリジナリティについて」小論文（100%）

B/ 構造設計：課題の構造模型をつくりお互いに講評する。学生による講評点（30%）、教師による講評点（30%）、課題条件への適合点（40%）

C/ 環境設計：環境に関するレポート（70%）や環境調査結果（30%）に関するレポートの評価と発表の講評。

以上の総合評価点を、成績とする。

テキスト

構造・環境：適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

A/GA JAPAN 誌掲載の論考「発想のメカニズム」、山下秀之著

B/ 材料力学史 S. P. ティモシェンコ著 鹿島出版会、構造と感性 川口衛 法政大学建築学科同窓会

C/ 図説テキスト 建築環境工学、加藤信介・土田義郎・大岡龍三著、彰国社

履修希望者への要望・事前準備

A/ パリにポンピドーセンターが出現した時、賞賛したのはNYタイムズだけ。その他すべてのメディアがこきおろした。もちろん大多数のパリジャンも嫌悪した。しかし今ではパリに欠かせぬ建築である。時代を切り開いた偉人達の軌跡をよく知ることは、君たちの創作に深く影響を与える。オリジナリティに対する憧憬と高揚を持って挑んでほしい。

B/ 自分に構造の才能があるとかないとかは、決めつけないこと。まず、骨組みを考えることから始め、思考錯誤を繰り返すことにより構造に対するセンスを養って欲しい。

C/ 身近な環境や環境問題に目を向け、熱・光・空気・音環境に関する現象のメカニズムを探求する習慣を養成して欲しい。さらに、居住者や利用者の健康と快適性に配慮しながら、設計や実生活を送ることのできる素養を身につけて欲しい。

クリエイティブディレクション

◎山本 敦、嶋田 清、角田 誠

前期

講義

2単位

授業の概要及びテーマ

クリエイティブディレクションとは、グラフィックやTVCMからWebやSNSまで、広告表現全体を設計することです。それは、核となるメッセージを、言葉とビジュアルで組み立てることから始まります。

マスメディア中心から細分化されたデジタルメディアへと、広告コミュニケーションは激変をつづけています。そんな今だからこそ、あらゆるメディアを貫くシンプルなメッセージを組み立てる力＝クリエイティブディレクションの重要性がいっそう高まっているのです。

本講義では、言葉（コピーライティング）とビジュアル（アートディレクション）の技術を中心に、その具体を学びます。

達成目標

- ・ブランドの課題と解決策を発見できるようになる。
- ・コピーライティングとアートディレクションの技術を身に着ける。
- ・広告の全体設計＝クリエイティブディレクションができるようになる。

授業計画

- 01 広告の作り方
- 02 コピーライティング1
- 03 コピーライティング2
- 04 コピーライティング3

- 05 コピーライティング4
- 06 アートディレクション1
- 07 アートディレクション2
- 08 アートディレクション3
- 09 アートディレクション4
- 10 TVCMプランニング1
- 11 TVCMプランニング2
- 12 WEB広告のプランニング
- 13 クリエーティブディレクション1
- 14 クリエーティブディレクション2
- 15 クリエーティブディレクション3

成績評価基準

提出課題70%、授業参加態度30%

参考書・参考資料等

- 『言葉の技術』磯島拓矢 朝日新聞出版社 1,620円
『名作コピーの教え』鈴木康之 日本経済新聞出版社 3,024円
『幸福を見つめるコピー』岩崎俊一 東急エージェンシー 1,400円
『大貫卓也全仕事2 Advertising is』グラフィック社 10,000円

履修希望者への要望・事前準備

- ・新しい情報や話題に積極的に接する姿勢。
- ・人間や社会を日常的に観察する姿勢。

プロトタイピング演習

◎増田 譲、真壁 友、金山正貴

前期
演習
2単位

授業の概要及びテーマ

ニール・ガーシェンフェルドが著書 fab で宣言した、パーソナルファブリケーション／第3次産業革命が急速に進行しつつある。Arduino 等のオープンソースのプロトタイピング環境の登場や、RepRap.org による 3D プリンターの普及化運動等によって、従来電機メーカーによる大量生産しか在り得なかった家電製品製造に一個人での参入が可能となり、手作り／少量生産のプロトタイプ製品が市場に出る時代が到来した。本演習では、こうしたパーソナルファブリケーションのコンテクストに則り、学生が自分自身のためのユニークな一品生産の家電製品のプロトタイプを製作する。3DCAD による設計、3D プリンター、CNC による筐体制作、Arduino / Processing による実装によって学生個々人がプロダクト製品のデザイン、設計、製造のプロセスを学び、パーソナルファブリケーション時代のリテラシーを修得する。

達成目標

自分自身のためにカスタマイズされた家電製品のプロトタイプを製作する。

授業計画

01. ガイダンス
02. 構想／エスキース作成
03. 3D 設計
04. 3D 設計
05. 3D 設計
06. 3D 出力
07. 3D 出力
08. HW / SW 実装
09. HW / SW 実装
10. 組み立て／検証
11. 組み立て／検証
12. フィードバック
13. フィードバック
14. 作品完成
15. デモ／プレゼンテーション

成績評価基準

コンセプト、3D 設計、3D 出力、HW / SW 実装、組み立て／検証、フィードバック、作品プレゼンテーション各ステージにおける理解度、達成度、作品の完成度を基準とした総合点とする。

単位取得には 2/3 以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

必要に応じて配付します。

用具

コピックマーカー、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、等、スケッチのための用具

マイコンボード Arduino (持参)

<https://www.amazon.co.jp/Arduino-Rev3-ATmega328-マイコンボード-A000066/dp/B008GRTSV6>

Rhinoceros、Photoshop、Illustrator、Arduino、Processing がインストールされたノート PC。

履修希望者への要望・事前準備

1) 以下ソフトウェアがインストールされたノートPCを用意してください。

*Rhino (有料) 参考価格: Windows版38,880円 Mac版 19,440円

http://www.cad100.jp/rhinoceros/rhinoceros_academic.php

*Fusion360 (無料) (Rhinoのかわりとして)

<https://www.autodesk.co.jp/education/free-software/fusion-360>

*Photoshop、Illustrator、

*Arduino IDE (無料)

<https://www.arduino.cc/en/Main/Software>

*Processing (無料)

<https://processing.org/download/>

Arduino を購入してください。

*マイコンボード Arduino

<https://www.amazon.co.jp/Arduino-Rev3-ATmega328-マイコンボード-A000066/dp/B008GRTSV6>

その他、作品によって何点か電子部品が必要となります。それらは別途購入が必要です。

フィールド分析演習

前期
実習
2単位

◎金山正貴、板垣順平、中島亮太郎

授業の概要及びテーマ

デザイン思考において、ユーザー中心のアプローチでサービスや製品の対象となりうるユーザーやそれを取り巻く環境を深く知ることが不可欠であり、イノベーションを生むための第一段階となる。本授業ではプロジェクトの初期段階に行う問題発見と問題提起のプロセスについて、定性、定量調査の手法及び調査の分析方法を学んだ上で、実際の自治体における問題をテーマに、現地でのフィールドワークを通じて具体的課題に取り組む。

達成目標

デザイン、ビジネスにおけるイノベーション創出のためのユーザー理解とそれに基づく問題理解を、デザインメソッドを身につけることで具体的課題に取り組める力を身につける

授業計画

01. ガイダンス
02. 現状把握
03. 調査計画
04. エスノグラフィ

- 05 - 07. フィールドワーク①
08. 調査結果の分析
09. インタビュー調査
10. アンケート調査
- 11 - 13. フィールドワーク②
14. 調査結果の分析
15. プレゼンテーション

成績評価基準

提出する課題の内容及び、受講姿勢を勘案して評価する。各課題の得点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。

プロジェクト・マネジメントワークショップ

通年
演習
2単位

◎板垣順平、齋藤和彦、渡辺誠介

授業の概要及びテーマ

この演習では、学内外の話題提供をもとにブレインストーミングやKJ法、三角測量などのワークショップを実践形式で行いながら、ファシリテートやマネジメントの技術を習得する。また、実際に、有識者を招聘したデザイン思考に関連するイベントやワークショップ、イノベーションの創出に向けた場づくりなどを自ら企画立案し、実施します。

達成目標

- ・ワークショップやアイデア出しのプロセスを習得し、自らが企画立案できるようになる。
- ・実際に有識者や外部人材を招いたワークショップやイベント等を企画し、実施する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(授業説明と具体的な実施計画の策定)
- 第2 - 4回 学内外からの話題提供をもとにブレインストーミングやKJ法の実施。
- 第5 - 7回 学内外からの話題提供をもとに三角測量の実施。
- 第8 - 10回 有識者を招聘したデザイン思考やイノベーションに関するワークショップの企画立案と実施(その1)

- 第11 - 13回 有識者を招聘したデザイン思考やイノベーションに関するワークショップの企画立案と実施(その2)
- 第14 - 15回 有識者を招聘したデザイン思考やイノベーションに関するワークショップの企画立案と実施(その3)

成績評価基準

平常点(授業への取り組み姿勢や自主的な参画姿勢) 50点
授業成果物 50点

テキスト

必要に応じて、適宜授業毎に配付します。

参考書・参考資料等

『発想法 改訂版 - 創造性開発のために』(2017 川喜田二郎 中公新書)

履修希望者への要望・事前準備

この授業では自主的な参画や発言が求められます。自発的な意見やアイデアの提案を心がけるようにしてください。

地域特別プロジェクト演習 I

専任教員

通年
演習
4 単位

授業の概要及びテーマ

実プロジェクトを基にその組み立て、フィールド調査、解決にいたるプロセスを学び、成果を提示する。(領域複合が望ましい)

達成目標

自主的・積極的にプログラムに参加し、トライ&エラーから実プロジェクトにつなげるコツをつかむ事。

授業計画

複数のプログラム案を提示する。学生はそのプログラム案を自主的に選択し、関連教員とともに、プロジェクトを進行させる。

成績評価基準

Problem Based Learning (問題発見解決型)

- ・自発的に問題構造を把握し、問題解決に向けて行動したか
- ・問題の特性に応じたフィールドワークの計画・実施により、適切なデザインが構築されているか
- ・他分野や社会等とのコラボレーションを試みているか

・試行（プロトタイピング）を試み、デザインプロセスのサイクルに挑戦したか

・実践的であるか

・新たな価値の創造の挑戦しているか

Project Based Learning (事業ベース)

・プロジェクトの目標設定を明確にし、プロジェクト遂行を能動的に行ったか

・他分野や社会等とのコラボレーションを試みているか

* デザイナー・アーティストの表現スキルや思考方法の活用

・試行（プロトタイピング）を試み、デザインプロセスのサイクルに挑戦したか

・実践的であるか

・新たな価値の創造に挑戦しているか

地域特別プロジェクト演習 II

専任教員

通年
演習
4 単位

授業の概要及びテーマ

地域特別プロジェクト演習 I で得た知見をベースに、さらに具体的なプロジェクトへと進化させる

成績評価基準

Problem Based Learning (問題発見解決型)

- ・自発的に問題構造を把握し、問題解決に向けて行動したか
- ・問題の特性に応じたフィールドワークの計画・実施により、適切なデザインが構築されているか
- ・他分野や社会等とのコラボレーションを試みているか
- ・試行（プロトタイピング）を試み、デザインプロセスのサイクルに挑戦したか
- ・実践的であるか
- ・新たな価値の創造の挑戦しているか

Project Based Learning (事業ベース)

・プロジェクトの目標設定を明確にし、プロジェクト遂行を能動的に行ったか

・他分野や社会等とのコラボレーションを試みているか

* デザイナー・アーティストの表現スキルや思考方法の活用

・試行（プロトタイピング）を試み、デザインプロセスのサイクルに挑戦したか

・実践的であるか

・新たな価値の創造に挑戦しているか

実務実習

専任教員

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

企業、団体等にて実業務を担当し、社会性を養うとともに修了研究の高度化につなげる。

作家志向の学生の場合は、自分が目標とする作家や工房に弟子入り等をして、その背中を見つめ、作家としての社会人の在り方を学び、自身の修了研究の高度化につなげる。

達成目標

大学院修了時の自身のキャリアパスがリアルに描けるようになること。

組織であれば、自身の組織内の立ち位置を把握し積極的に関係者と関われる能力を実務を通して身に付ける。

作家であれば、プロとしての営業、制作等の進め方を身に付ける。

授業計画

指導教員と相談し、自身のキャリアパスを考慮しながら実務実習の計画を立てる。

その後、実習を行う。

最終的に報告書の提出および実務実習報告（プレゼンテーション）を行う。

成績評価基準

- ・受入先が将来仲間として迎えたいと思えるパフォーマンスの程度
 - ・この実務実習の体験が自身のキャリアパス決定に影響を与えた程度
- の2点をベースに総合的に判断する

起業演習

渡辺誠介、栗井英大

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

社会保険・税務、起業に係る知識や技能を演習により学び、修了後のキャリアパスにおける自立性を身につける。

作家志向の者は、作家として生活できるプランの作成事務所
設立志向の者は、事務所設立プランと運営プランの作成
起業志向の者は、起業プランの作成を実施し、実際にスタートアップを
図れる段階までプランを準備する。

これを実社会で発表し、支援者、融資希望者等を募る体験を経験する。

達成目標

修了後の独立（する場合の）プランを作り、どこにプレゼンすれば可能性があるか実社会を理解する能力の獲得

授業計画

- 1) ライフプラン
- 2) 各分野の教員からの起業体験談
- 3) 業界での仕事の種類と仕事の流れの研究
- 4) 仕事を得るための営業方法の研究
- 5) プロとしての「お金」と「財産」の研究

- 6) 会計の基礎研究
- 7) 起業に関する研究
- 8) 起業計画策定
- 9) 中間発表
- 10) 起業計画のシェイプアップ
- 11) 最終発表（学内）
- 12) 最終発表（学外）スタートアップ前提
- 13) ディスカッション

建築士インターンシップA

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

前期
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

一級建築士事務所等に出向き、設計図書の作成など建築設計の補助業務を行う。本学指導教員と指導担当建築士とで協議し、受講者に適した業務内容を設定する。

テーマ

受け入れ先の業務を優先する。様々なプロジェクトの中から、受講者の希望を尊重しながらテーマを決定する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

- 第1回 事前準備・受け入れ設計事務所の調査
- 第2回 建築実務概要および業務マネジメントとは
- 第3回 専門分野の実務(1)委託業務内容・コミュニケーション能力・企画能力
- 第4回 専門分野の実務(2)プロジェクト運営業務
- 第5回 専門分野の実務(3)様々な法令との関係・計画全体の進め方と設計実務
- 第6回 専門分野の実務(4)基本設計・実施設計・監理
- 第7回 実務経験 (1)意匠・構造・環境設備・造園

- 第8回 実務経験 (2)積算・工事契約・工事監理
- 第9回 実務経験 (3)建設現場
- 第10回 その他の特約業務
- 第11回 労働安全と衛生
- 第12回 総括

成績評価基準

受け入れ先事業所の指導担当建築士による実務訓練に対する評価と、学生が提出した実習報告書をもとに評価を行う。実習は複数の受け入れ先にわたっても構わない。単位認定には連続または分割して合計160時間(概ね4週間)程度の実習を要する。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修希望先を探して受け入れの交渉を行い、了解を受けることとする。実務訓練の場であるため、原則として業務報酬、交通費等の支給はない。受講にあたっては、事前に研修先について調べ、研修の目的を絞り込んでおくこと。

建築士インターンシップB

小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

通年
実習
6単位

授業の概要及びテーマ

建築インターンシップBは、建築インターンシップAを履修した後に行う。すでに実務経験を積んだ後に履修するので、より高度な実務実習として位置づける。一級建築士事務所等で、設計図書の作成など建築設計の補助業務を行う。本学指導教員と指導担当建築士とで協議し、受講者に適した業務内容を設定する。

テーマ

受け入れ先の業務を優先する。様々なプロジェクトの中から、受講者の希望を尊重しながらテーマを決定する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

- 第1回 事前準備・受け入れ設計事務所の調査
- 第2回 建築実務概要および業務マネジメントとは
- 第3回 専門分野の実務(1)委託業務内容・コミュニケーション能力・企画能力
- 第4回 専門分野の実務(2)プロジェクト運営業務
- 第5回 専門分野の実務(3)様々な法令との関係・計画全体の進め方と設計実務

- 第6回 専門分野の実務(4)基本設計・実施設計・監理
- 第7回 実務経験 (1)意匠・構造・環境設備・造園
- 第8回 実務経験 (2)積算・工事契約・工事監理
- 第9回 実務経験 (3)建設現場
- 第10回 その他の特約業務
- 第11回 労働安全と衛生
- 第12回 総括

成績評価基準

受け入れ先事業所の指導担当建築士による実務訓練に対する評価と、学生が提出した実習報告書をもとに評価を行う。実習は複数の受け入れ先にわたっても構わない。単位認定には連続または分割して合計240時間(概ね6週間)程度の実習を要する。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修希望先を探して受け入れの交渉を行い、了解を受けることとする。実務訓練の場であるため、原則として業務報酬、交通費等の支給はない。受講にあたっては、事前に研修先について調べ、研修の目的を絞り込んでおくこと。

プロダクトデザイン研究

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、境野広志、土田知也、増田 譲、鈴木均治、菊池加代子

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

特別研究の助走期間として、専門領域に必要な知識やスキルを身につけるため、文献研究や調査・分析・制作などの基礎研究を実施し、特別研究の理論的な組み立てが実現できるような内容を個別に設定する。

達成目標

- ・修士で研究していくテーマを明確にし、概要をまとめること。
- ・文献研究および調査・分析したものを文章・レポートにまとめること。

授業計画

指導教員とのゼミナール形式で行なう。

但し、必要に応じ指導教員外の教員も参加する。

第1～10回 文献研究

第11～20回 調査・分析

第21～29回 考察・まとめ

第30回 発表

上記をガイドラインとし指導教員と計画を立てて進めること。

成績評価基準

文献や調査・分析に基づいたレポート（60%）
研究テーマを明確にし、修士研究の概要をまとめること。（40%）
これらの内容を総合的に判断し評価する。

テキスト

学生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する

参考書・参考資料等

学生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

モノのデザインだけでなく、コト・体験といったモノを取り巻く様々な要素を取り入れ新しい発想につなげるよう、常にアンテナを張って、社会の動向を観察すること

視覚デザイン研究

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、金 峰洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、山田博行

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

企業や行政も含め、ブランディングの重要性が拡大している。他社との違いは何か、強みは何かを抽出し、ブランド構築の計画を学んでいく。特に地域資源の活用といったものを調査研究することを目的とする。

達成目標

ブランディングに対する知識を理解するとともに、それぞれの業界や企業・地域の課題を洗い出し解決する方法を調査・研究する力を身につける

授業計画

1～5 調査

6～10 課題

11～15 解決方法の立案

成績評価基準

課題 60%
積極性など授業態度 40%

美術・工芸研究

◎長谷川克義、石原 宏、市川治郎、遠藤良太郎、岡谷敦夫、菅野 靖、菊池加代子、小林花子、小松佳代子、鈴木均治、竹田進吾、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

通年

演習〈集中〉

4単位

授業の概要及びテーマ

美術・工芸領域における専門分野の指導担当教員との連携を図り、研究活動を行う。

修士課程の基礎的研究として各自の計画に基づき、専門に関する理論について調査や整理、それに伴う制作および研究によって各自のテーマやコンセプトを確かなものとする。また、各自の表現活動と社会との繋がりを探求する。

達成目標

- ・ 既往研究を整理し、自身の研究課題を構築することができる。
- ・ 自己の課題について、客観性を持ちながら調査や分析を行い、検証・考察することができる。
- ・ 自己の研究課題設定による研究成果を発表することができる。

授業計画

授業内容・進捗の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各指導担当教員の指示に従うこと。なお、1～15を前期、16～30を後期に行う予定である。

〈石原 宏〉

- 1 Introduction: テキストの紹介、準備
- 2～3 Ways of looking at pictures
- 4～5 Landscape and seascape
- 6～7 Portraits
- 8～9 Everyday life and everyday things: Genre and still life
- 10～11 History and mythology
- 12～13 Religious images
- 14～15 Pictures as decorations on at surfaces
- 16 授業内容説明
- 17 新潟県立近代美術館見学
- 18～20 作家紹介
- 21 作家選定
- 22～27 研究・討論
- 28～29 研究発表
- 30 研究発表・レポート提出

〈遠藤良太郎〉

- 1 概説、計画について
- 2～7 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
- 8 中間報告会
- 9～14 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
- 15 前期末報告会
- 16 計画確認、学外実習等
- 17～22 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
- 23 中間報告会
- 24～29 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究
- 30 後期末報告会

〈岡谷敦夫〉

- 1 概要講義 / 研究計画作成
- 2～7 作品制作・文献研究 / ディスカッション
- 8 作品制作 / 研究発表 / 中間講評会
- 9～13 作品制作・文献研究 / ディスカッション
- 14 作品制作/仕上げ
- 15 研究発表/講評会
- 16 概要講義 / 研究計画作成
- 17～22 作品制作・文献研究 / ディスカッション
- 23 作品制作 / 研究発表 / 中間講評会
- 24～28 作品制作・文献研究 / ディスカッション
- 29 作品制作/仕上げ
- 30 研究発表/講評会

〈菅野 靖〉

- 1 技法と表現の理解
- 2 各自の表現および計画をプレゼンテーション
- 3～7 計画に沿って実制作
- 8 研究報告1
- 9～14 計画に沿って実制作
- 15 研究報告2
- 16～18 技法および表現の研究
- 19 研究報告3
- 20～29 計画に沿って実制作
- 30 研究報告4

〈小林花子〉

- 1 概要講義/テーマ、コンセプト決定/作品プランニング
- 2 作品プランニング (デッサン、エスキース作成) / ディスカッション
- 3 作品プレゼンテーション/発表計画/ディスカッション / 活動計画書提出
- 4～7 作品制作
- 8 作品制作/中間報告
- 9～12 作品制作
- 13 作品制作 仕上げ
- 14 作品制作 仕上げ/発表準備
- 15 活動報告/講評/研究報告書提出
- 16 概要講義/テーマ、コンセプト決定/作品プランニング
- 17 作品プランニング (デッサン、エスキース作成) / ディスカッション
- 18 作品プレゼンテーション/発表計画/ディスカッション / 活動計画書提出
- 19～22 作品制作
- 23 作品制作/中間報告
- 24～27 作品制作
- 28 作品制作 仕上げ
- 29 作品制作 仕上げ/発表準備
- 30 活動報告/講評/研究報告書提出

〈手銭吾郎〉

- 1 概要講義
- 2 研究テーマ、計画内容の発表
- 3 研究・計画内容及び各自の課題設定を検討
- 4～6 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
- 7～8 技法演習（各自研究内容に必要な技法演習と資料・情報の収集）
- 9 技法演習・中間報告（研究内容と計画展開について検討）
- 10～13 技法演習（研究内容と計画展開について検討）
- 14 成果物の提出、研究発表の準備
- 15 まとめ・講評 研究内容報告書提出
- 16 各自の研究テーマ・目的・内容の計画発表及び確認
- 17 各自の計画の確認及び課題設定
- 18 研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討
- 19～21 課題設定・制作計画検討（スケッチ、図面、原型制作）
- 22～28 各自課題演習制作（研究内容と作品制作に於ける計画展開について検討）
- 29 各自課題演習制作、成果物の提出、研究発表の準備
- 30 まとめ・研究発表・講評（研究報告書提出）

〈中村和宏〉

- 1 これまでの研究確認・問題抽出 ディスカッション
- 2 ガラス素材研究における講義 研究テーマ1の構築（調査・調整）
- 3 研究テーマ1（ストーリーボード）発表
- 4～13 実制作（中間報告・学外研究含む）
- 14 研究制作仕上げ
- 15 研究制作発表 / 講評 / 研究報告書提出
- 16 バックキャストイングからの問題及び課題の整理
- 17 ディスカッション / 研究テーマ2の構築・確認・修正
- 18 研究テーマ2（ストーリーボード）発表
- 19～27 実制作（中間報告・学外研究も含む）
- 28 ディスカッション / 研究制作仕上げ
- 29 研究制作発表準備
- 30 研究制作プレゼンテーション / 研究報告書提出

〈長谷川克義〉

- 1 ガイダンス テーマ設定
- 2 鋳金制作法（工程）
- 3～8 鋳金制作法（原型／鋳型／合金）
- 9～14 鋳金制作法（仕上／表面処理／着色）
- 15 作品提出 中間講評 ディスカッション
- 16 テーマ確認
- 17～21 制作・研究
- 22 中間講評 ディスカッション
- 23～29 制作・研究
- 30 作品および研究成果提出 講評

〈馬場省吾〉

- 1 各自の造形志向の確認・前提資料の収集と自己の造形志向分析
- 2 研究テーマ、目的、実践内容、計画から問題抽出
- 3 再計画の思索から課題抽出
- 4～5 課題設定・制作計画検討
- 6～7 具体的形態の思索（図面作成、モデル、原型制作等）
- 8～12 技法演習（必要に応じ資料検索、収集・初動的論理構築）
- 13 応用・展開の要素検討
- 14 まとめ・プレゼン・成果物提出
- 15 まとめ（発表方法の検討）
- 16 研究テーマ、目的及び成果の確認
- 17 素材・かたち・志向／ディスカッション
- 18 創作要素の抽出・計画・課題抽出／ディスカッション
- 19 プランニングプレゼンテーション／再調整
- 20 テーマに基づく制作手法の再構築・計画策定
- 21 各自課題演習制作
- 22 各自課題演習制作／手法・計画確認
- 23～24 各自課題演習制作
- 25 各自課題演習制作／手法・計画確認
- 26 進捗により創作要素、成果目的再確認
- 27 各自課題演習制作／ブラッシュアップ
- 28 各自課題演習制作／プレゼンテーション試行
- 29 最終プレゼンテーション／ディスカッション
- 30 作品・発表方法についての考察・分析

成績評価基準

研究姿勢40％・成果の内容60％。これらを総合的に判断し評価する。

テキスト

指導教員が適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示および参考資料として授業時にプリントを無料で配付することがある。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

修士課程においての自己のテーマ設定から方向性を定め、基礎的なことを再認識し、創作活動および研究に対してより自主性を持って臨むこと。また、特別研究を踏まえて自己のテーマを再確認し、他分野に関しても意識を損なわず研究活動に邁進すること。そして、公募展出品や産学連携プロジェクト等へ積極的に参画すること。

建築・環境デザイン研究

◎山下秀之、小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、渡辺誠介

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

基礎科目群、専門科目群で修得する理論、技術に基づき、建築・環境デザイン領域に係る各人の計画・目的に基づいた研究・制作を行う。

本研究は、修士課程研究の基礎研究の位置づけを持ち、課題の設定、分析と考察、論考の展開、発表の方法などの高度化を図る。

本大学院では全領域にてデザインプロセスを理論的に体系化したデザイン思考を修得することから、当該理論を基礎理論と捉え、建築・環境デザイン領域の専門性と掛け合わせ新たな価値の創造を念頭に置いた研究の礎とする。

達成目標

- ・既往研究を整理し、自己の挑戦するテーマの位置づけを明らかにする。
- ・自己の研究課題を常に発見しようとする意識・外部観察の眼を持つ。
- ・自己の課題の設定や調査・分析・考察につき、適宜第三者の立場に立ち、検証する姿勢を持つ。

授業計画

修士課程2年間をかけて自己が設定するテーマについて行う研究の、前半1年分である。これまでの単独によるデザイン・設計の概念を乗り越え、建築家として実業務に直結する個性・専門性を持った個人の集合体としてデザイン・設計にあたるアプローチを図るため、常に客観化、構造化、共有化、認識化を念頭に研究に取り組む。修士課程1年次の2月に成果発

表を行う。

- 第1～5回 既往研究リサーチおよびテーマ設定
- 第6～10回 対象を観察し共感する「客観化」
- 第11～15回 問題の本質に焦点を当てて見極める「構造化」
- 第16～20回 ワークショップやプレストによって解決策を考える「共有化」、
- 第21～29回 具体的に表現する「認識化」
- 第30回 成果発表

成績評価基準

- ・履修者の研究姿勢及び研究実施プロセスの段どり・実施状況の的確性を重視する（60%）
 - ・研究テーマの新規性及び成果の完成度（40%）
- 以上を総合的に判断し評価する。

テキスト

受講生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する

参考書・参考資料等

受講生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する

履修希望者への要望・事前準備

従来の建築・環境デザイン領域のもっていた方法論、単独でのデザイン・設計を乗り越え、建築家に必要な集合体としての概念を取り入れようとする柔軟性を持つこと。

イノベーションデザイン研究

◎板垣順平、齋藤和彦、土田知也、渡辺誠介、池田光宏、池永 隆、岡谷敦魚、金山正貴、吉川賢一郎、津村泰範、中村和宏

通年
演習
4単位

授業の概要及びテーマ

自身に関わる、もしくは担当教員が関わっている国内外のプロジェクトや取り組みに参画し、実践的な参与観察やアクションリサーチの手法を身につけるとともに、デザイン思考やイノベーションのプロセスを実践しながら、外部組織との連携方法やプロジェクトの組み立て、マネジメント等のノウハウを学び、実践的な研究へと繋がります。

達成目標

- ・プロジェクトの組み立てや進め方を学び、マネジメント能力を身につける。
- ・参与観察やアクションリサーチの手法を習得し、研究課題を設定する。

授業計画

- 第1～3回 受け入れ先の選定と具体的な研究、活動計画
- 第4～8回 プロジェクトに参画、ノウハウの習得
- 第9～14回 プロジェクトにおいてアクションリサーチの実施

- 第15～19回 プロジェクトにおいてデザインプロセスの策定
- 第20～24回 プロジェクトにおいてデザインプロセスの実施
- 第25～30回 実施したプロセスの評価、まとめ

成績評価基準

- 演習毎に実施する活動日報 50点
- 成果報告物 50点

履修希望者への要望・事前準備

実施計画は受け入れ先と協議した後決定します。また、演習期間は各プロジェクトによって異なり、海外の受け入れ先の場合は、数週間程度に及ぶ場合があります。基礎科目群の構想発想手法論を履修していることが好ましい。

特別研究

◎渡辺誠介、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、石原 宏、江尻憲泰、遠藤良太郎、岡谷敦魚、金澤孝和、川口とし子、菅野 靖、菊池加代子、吉川賢一郎、金 峯洙、小林花子、齋藤和彦、境野広志、白鳥洋子、菅原 浩、鈴木均治、土田知也、津村泰範、手銭吾郎、中村和宏、長瀬公彦、長谷川克義、長谷川博紀、馬場省吾、ヨールグ ビューラ、平山育男、真壁 友、増田 譲、松本明彦、森 望、山下秀之、山田博行、山本 敦

通年
演習
10単位

授業の概要及びテーマ

個人で、特定の計画・目的に基づいた研究もしくは制作を行います。特別研究を通じて、課題の設定、分析と考察、論考の展開、発表の方法、社会への成果の還元などの高度化を図り、「造形理論」の構築あるいは「デザイン学」の確立に向けた研究、イノベーション創生を行うことがこの授業の目的です。

達成目標

- 自己の研究課題を常に発見しようとする意識・外部観察の眼を持つ。
- 自身の課題の設定や調査・分析・考察につき、適宜第三者の立場に立ち、検証する姿勢を持つ。
- 「造形理論」や「デザイン学」の確立や、「イノベーション創出」に向けた研究の糸口を常に考える意識を醸成する。

授業計画

修士1年間をかけて、自己が設定するテーマをベースに修士

2年時の1年間の研究を行います。年度末に最終的な特別研究発表に臨みます。修了にはこの発表が不可欠となっています。制作系でも論文作成は必須となりますので、論文指導担当教員とも密な指導を受けることとなります。修士論文または修士制作の審査は、主査1人・副査2人の構成により、本学の「大学院学位規程」に即して実施します。

成績評価基準

- 受講者の研究姿勢及び研究実施プロセスの段どり・実施状況の的確性を重視します…6割程度
- 研究テーマの新鮮度及び成果の完成度…4割程度
- 研究には論文提出が必須

以上を総合判断します。

履修希望者への要望・事前準備

この研究は、修士課程の研究生活の基軸となるものです。この研究を自己の確立につなげられるよう努力してください。

建築士インターンシップC

◎山下秀之、小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。

テーマ

建築設計に関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。主に住宅など、規模の小さいプロジェクトを対象とし、プロジェクトの進行を体験する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

- 第1回 リサーチおよび企画立案
- 第2回 リサーチおよび企画立案
- 第3回 リサーチおよび企画立案
- 第4回 プランニングおよび構造チェック
- 第5回 プランニングおよび構造チェック
- 第6回 中間発表
- 第7回 法令チェックやコスト計算

- 第8回 法令チェックやコスト計算
- 第9回 法令チェックやコスト計算
- 第10回 法令チェックやコスト計算
- 第11回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第12回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第13回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第14回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第15回 発表

成績評価基準

指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。

建築士インターンシップD

◎山下秀之、小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。

テーマ

建築設計に関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。公共施設や集合住宅など、規模の大きいプロジェクトを対象とし、プロジェクトの進行を体験する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

- 第1回 リサーチおよび企画立案
- 第2回 リサーチおよび企画立案
- 第3回 リサーチおよび企画立案
- 第4回 プランニングおよび構造チェック
- 第5回 プランニングおよび構造チェック
- 第6回 中間発表
- 第7回 法令チェックやコスト計算

- 第8回 法令チェックやコスト計算
- 第9回 法令チェックやコスト計算
- 第10回 法令チェックやコスト計算
- 第11回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第12回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第13回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第14回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第15回 発表

成績評価基準

指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。

建築士インターンシップE

◎山下秀之、小川総一郎、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、渡辺誠介

通年
実習
4単位

授業の概要及びテーマ

実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。

テーマ

地域計画などに関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。公園や都市開発および文化財の保存・活用に関するテーマで、地域計画・緑地計画などのプロジェクトや文化財系の物件を対象とし、プロジェクトの進行を体験する。

達成目標

実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。

授業計画

インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。

- 第1回 リサーチおよび企画立案
- 第2回 リサーチおよび企画立案
- 第3回 リサーチおよび企画立案
- 第4回 プランニングおよび構造チェック
- 第5回 プランニングおよび構造チェック
- 第6回 中間発表

- 第7回 法令チェックやコスト計算
- 第8回 法令チェックやコスト計算
- 第9回 法令チェックやコスト計算
- 第10回 法令チェックやコスト計算
- 第11回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第12回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第13回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第14回 プレゼンテーション資料および模型制作
- 第15回 発表

成績評価基準

指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特になし

履修希望者への要望・事前準備

原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。

特別プロジェクト研究演習

◎渡辺誠介、天野 誠、板垣順平、遠藤良太郎、小松佳代子、鈴木均治、長瀬公彦、長谷川克義、長谷川博紀、馬場省吾、平山育男、真壁 友、増田 譲、松本明彦、御法川哲郎、山下秀之

通年
演習
2単位

授業の概要及びテーマ

特別プロジェクト演習は、広く実社会の仕事に参画して社会の実際を知り、そこから個人の研究に新たな光を見出すことを目指しています。この研究は、分野の異なる複数教員による指導または複数領域の学生により、横断的におこなうことを原則とします。この演習の一環として社会が求めるイノベーションの種を見つけるトライ&エラーを実践する姿勢を身に付けます

達成目標

- プロジェクト企画書/構想書の素案作成ができるようになる。
- プロジェクト予算・執行計画案作成にあたって、意見を述べ、素案を作成することができるようになる。
- 複数造形領域の教員及び学生の考え方/意見を徴収・整理できるようになる。
- 必要な調査手法・手順を体得する。
- プロジェクト報告の手法・手順を体得する。
- プロジェクト報告を公開の場でできる。

授業計画

担当教員と学生との相談、および外部からの依頼等により、授業内容を決定します。

Problem Based LearningまたはProject Based Learningのスタイルで作業を進めます。

授業の終了時には、担当教員を通してイノベティブな研究の成果をまとめた報告書を研究科長に提出することを義務付けます。報告書は学内に公表します。

履修希望者への要望・事前準備

実社会において人と接し、議論をし、仕事を学ぶことに喜びを感じるようになって欲しいと思います。自分が共同作業のなかでしっかりと貢献できることを意識し、行動してください。また地域のフィールドに出た場合は、住人との接点が多く持たれます。人々との交流を楽しみと感じられる時間として過ごせるような、精神を培う機会となることを願っています。

造形理論

◎渡辺誠介、天野 誠、板垣順平、遠藤良太郎、小松佳代子、鈴木均治、長瀬公彦、長谷川克義、長谷川博紀、馬場省吾、平山育男、真壁 友、増田 譲、松本明彦、御法川哲郎、山下秀之

通年
実習
8単位

授業の概要及びテーマ

博士(後期)課程は「造形理論」がテーマです。この「造形理論」は、「デザイン学」の確立をめざした基礎研究とも言えます。デザイン学は、計画学、設計学、あるいは計画哲学、設計哲学、創作方法理論学を包含し、より包括的、抽象的な体系を構成しています。

その体系付けは、自然や生態系などを含む生活環境を総合的に捉える世界観や歴史観、社会と深く関わることによる時代や地域における美意識や価値観に対する理解を基礎とし、個人の思索と研究領域としてのフィールドに密着することにより達成されるものです。

達成目標

- 従来にない研究テーマの探索法を体得する
- 長期かつ膨大な研究活動の工程の構想力、段取りや管理力を会得する。
- 事実関係や研究資料の正当性を常に検証する態度を獲得する。
- 論文作成等における他者による引用・参考文献の峻別や明

示を的確に行う姿勢を習性化する。

- イノベーションに資する知見を会得する

授業計画

入学から修了までの所定の年限(3年間以上を基本とする)をかけ、研究成果を博士論文としてまとめるための研究を行ないます(博士論文は、別途「造形理論研究指導」を受けてまとめます)。

成績評価基準

- 受講者の研究姿勢及び研究プロセスの段取りと実務の的確性を4割程度
- 研究成果の完成度を6割程度以上を総合評価します。

履修希望者への要望・事前準備

前準備 周辺領域の知見を深めつつ、自分の進む領域に幅と深さを獲得し、博士論文の完成をめざしてください。

本学は韓国東西大学と2000年に、漢陽大学と2002年に、交流協定を締結しました。現在、その協定に沿って「交換留学プログラム」を実施しています。この交換留学プログラムに参加する大学院生を次のとおり募集します。

1. 応募資格

東西大学：本学大学院修士課程に在学する者

漢陽大学：本学大学院修士課程または博士（後期）課程に在学する者

2. 留学の時期、期間

前期：4月～7月の5ヶ月 大学により期間は変更する場合があります。

後期：9月～2月の5ヶ月 大学により期間は変更する場合があります。

3. 募集人員

若干名

4. 留学に係る経費

①授業料等の学費

不要（教材費等が発生する場合は自己負担）

②往復の旅費

自己負担

③住居費

留学期間中の住居は、東西大学、漢陽大学で用意する寄宿舍を利用し家賃、光熱費は不要。

④食費等生活費

自己負担

5. 留学中の学生身分

留学期間の学籍は本学大学院在籍のまま、留学期間は在学年数に算入できます。

6. 研究活動について

留学期間は留学生自ら設定した研究テーマに対し、その研究領域に関連した東西大学または漢陽大学教員の指導の基に研究活動を行います。

この研究活動に対しては、成果報告書を本学担当教員に提出することにより、研究内容に係る演習科目の単位として認定することができます。（認定は報告書の内容によります）

※研究テーマにより東西大学または漢陽大学にて受け入れられない場合もあります。

7. 講義の受講について

基本的に全ての科目が韓国語で行われています。ただし授業によっては日本語や英語での対応が可能な授業もあります。

大学院授業を受講し、単位取得証明を受けた場合その内容により本学大学院の単位として認定する場合があります。

なお、留学期間に本学で開講する科目の単位取得はできないことにより、留学を希望する学生は修了要件を満たすよう受講計画を立てる必要があります。

8. 申し込みについて

留学を希望する学生は、担当教員と相談し、承諾を得た上、留学開始希望日の4カ月前までに学務課に申し出て下さい。

韓国東西大学と本学は2003年に複数学位協定を締結しました。

この協定は、本学に1年以上、韓国東西大学に1年以上合計2年以上修学し、それぞれの大学院に修士論文を提出し審査を受け、それぞれの大学の修了要件を満たした場合、両大学の修士学位を同時に取得できるプログラムです。

このプログラムに参加する韓国への留学生を下記要項にて募集します。

1. 応募資格

本学大学院修士課程に1年以上在学する者

2. 留学の時期

3月または4月

3. 募集人数

若干名

4. 選考方法

東西大学による面接試験があります。

5. 留学に係る経費

① 学費

両大学に既定の授業料を支払うこととなります。

(詳細については学務課に確認してください)

② 往復の旅費

自己負担

③ 住居費

留学期間中の住居は、東西大学で用意する寄宿舎を利用し、家賃、光熱費は不要。

④ 食費等生活費

自己負担

6. 留学中の学生身分

留学期間の学籍は本学及び東西大学の両学籍を有します。(本学の在学年数に算入されます)

7. 研究活動

留学期間は留学生自らが設定した研究テーマに対し、その研究領域に関連した東西大学教員の指導の基に研究活動を進め、修士論文の作成を行います。

この研究活動に対し、定期的に成果報告を本学教員に提出し、本学教員の指導を受けることにより、本学における研究活動としてもみなすことができます。

(本学指導教員への報告方法、頻度、指導の受け方については、本学指導教員と相談の上決めてください)

8. 単位の修得について

本学で修得した単位で、東西大学で修得した単位と認定されるものがあります。同様に東西大学で修得した単位で、本学で修得したものと認定される単位もあります。(認定はそれぞれの大学の審査によります)なお、留学期間中に本学で開講する科目の単位は取得できませんので、留学を希望する学生は修了要件を満たすよう受講計画を立てる必要があります。

9. 学位取得について

東西大学の学位取得には、上記認定単位を含め、東西大学の修了要件を満たす単位を取得し、東西大学での論文審査を受け、最終試験に合格することが必要です。

本学の学位を同時に取得するには、同様に必要単位の取得、論文審査、最終試験合格の本学修了要件を満たすことが必要です。(論文の提出にあたっては、7項で記載した研究活動を経て、審査を受けることとなります)

10. 講義の受講等に使用する言語

東西大学では、基本的に全ての講義が韓国語で行われています。韓国語の語学力が必要です。

(研究指導は一部、日本語、英語の使用もあります)

11. 申し込みについて

留学を希望する学生は、担当教員と相談し、承諾を得た上、留学開始希望日の4カ月前までに学務課に申し出て下さい。

(目的)

第1条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条及び長岡造形大学大学院学則（以下、「大学院学則」という。）第31条第3項の規定に基づき、長岡造形大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学が授与する学位は、修士（造形）及び博士（造形）とする。

(学位授与の要件)

第3条 修士（造形）の学位は、本学大学院の修士課程の修了を要件とする。

2 博士（造形）の学位は、本学大学院の博士（後期）課程の修了を要件とする。

3 前項に定める者のほか、博士（造形）の学位は、大学院学則第43条第2項に定めるところにより、博士（後期）課程を修了しない者であっても、本学大学院が行う博士學位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認（以下「学力の確認」という。）をされた者に授与することができる。

(修士論文、特定の課題についての研究の成果及び博士論文の提出)

第4条 修士の学位の審査を受けようとする者の修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）の提出については、次の(1)から(3)のとおりとする。

(1) 修士論文等は、長岡造形大学大学院学則第21条に規定する研究指導を行う教員（以下「指導教員」という。）の指導のもとに作成し、その承認を得て提出する。

(2) 修士論文を提出しようとする者は、学位授与申請書に修士論文及び修士論文要旨を付して学長に提出する。

(3) 特定の課題についての研究の成果を提出しようとする者は、学位授与申請書に作品一式、研究副論文、研究副論文要旨及び保存用写真資料を付して学長に提出する。

2 博士の学位の審査を受けようとする者の博士論文の提出については、次の(1)及び(2)のとおりとする。

(1) 博士論文は、指導教員の指導のもとに作成し、その承認を得て提出する。

(2) 博士論文を提出しようとする者は、学位授与申請書に博士論文、博士論文要旨、論文目録、履歴書及び、長岡造形大学大学院博士の学位に関する取扱細則（以下「博士の学位に関する取扱細則」という。）により別に定める書類を付して学長に提出する。

3 第3条第3項により博士の学位の審査を受けようとする者は、前項(2)に定める書類及び博士論文審査手数料を付して学長に提出する。

(修士論文等及び博士論文の提出の時期)

第5条 修士論文等及び博士論文（以下「学位論文等」という。）の提出の時期については、長岡造形大学大学院修士の学位に関する取扱細則（以下「修士の学位に関する取扱細則」という。）及び博士の学位に関する取扱細則により別に定める。

(審査委員会)

第6条 学位論文等の審査は、研究科委員会の設置する審査委員会によって行う。

2 修士論文等の審査委員会は、指導教員または研究科委員会が指定する本学研究科に属する教員1人を主査とし、当該修士論文等に関連する領域の本学研究科に属する教員2人を副査とする審査委員をもって組織する。ただし、研究科委員会において必要と認めるときは、副査2人のうち1人は、本学研究科に属する教員以外の教員又は他の大学院の教員等を審査委員に含めることができる。

3 博士論文の審査委員会は、指導教員または研究科委員会が指定する本学研究科に属する教員1人を主査とし、当該博士論文の主題等に応じて本学研究科に属する教員2人以上を副査とする主査を含む5人以内の審査委員をもって組織する。ただし、研究科委員会において必要と認めるときは、本学以外の教員等を副査に含めることができ、その場合本学研究科に属する教員3人を含め5人以内の構成とする。

4 前項に規定する審査委員会の委員は、原則として博士の学位を有し、論文作成指導能力を有しなければならない。

(学位論文等の審査及び最終試験及び学力の確認)

第7条 審査委員会は、学位論文等の審査のほか、最終試験及び学力の確認もあわせて行う。

2 審査委員会は、審査のため必要と認めるときは、修士論文等又は博士論文の訳文、模型若しくは造形作品等の資料又は参考論文を提出させることができる。

3 最終試験及び学力の確認は、口述又は筆記試験によりこれを行う。ただし、本大学院博士（後期）課程において所定の修業年限以上在学し、所定の単位数以上を修得して退学した者が退学後、5年以内に博士論文を提出した場合には、学力の確認を免除することができる。

(審査期間)

第8条 学位論文等の審査及び最終試験は、原則として在学期間中に行わなければならない。

2 第3条第3項により提出された博士論文の審査及び最終試験及び学力の確認は、博士の学位申請を受理した日から1年以内に終了しなければならない。

(審査結果の報告)

第9条 審査委員会は、学位論文等の審査結果、最終試験の結果及び学力の確認の結果に意見を添えて、研究科委員会に報告する。

2 審査委員会は、学位論文等の審査の結果、その内容が著しく不良であると認めるときは、最終試験及び学力の確認を行わないことができる。この場合において、審査委員会は、最終試験及び学力の確認を行わない旨を研究科委員会に報告する。

(学位授与の議決)

第10条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、学位授与の可否について議決し、その結果を学長に報告する。

(学位の授与)

第11条 学長は、前条により課程の修了又は学位の授与が議決された者に学位記を授与する。又、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位の名称の使用)

第12条 本学大学院の学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、本学大学名を付記する。

(文部科学大臣への報告)

第13条 学長は、博士の学位を授与したときは、博士の学位を授与した日から3月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に報告する。

(博士論文の要旨等の公表)

第14条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨を公表する。

(博士論文の公表)

第15条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内にその論文を印刷公表する。

ただし、学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

(学位の取消し)

第16条 学長は、学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実があると認められたときは、研究科委員会の議決を経て、学位の授与を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表する。

2 学位を授与された者にその名誉を汚す行為があったときは、前項に従う。

(学位記の様式)

第17条 学位記の様式は、別紙様式第1号、第2号及び第3号とする。

(事務)

第18条 学位に関する事務は、学務課において処理する。

(補則)

第19条 この規程に定めるもののほか、修士（造形）、博士（造形）の学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

(修士論文、特定の課題についての研究の成果及び博士論文の提出)

2 平成29年度以前の入学者には、第4条第1項第3号に規定する「研究副論文、研究副論文要旨」の提出については適用しない。

学 位 記

氏 名

年 月 日生

大 学
の 印

本学大学院造形研究科造形専攻の修士課程において
 所定の単位を修得し学位論文等の審査及び最終試験に
 合格したので修士(造形)の学位を授与する

年 月 日

長 岡 造 形 大 学 長
 氏 名

印

甲第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

大 学
の 印

本学大学院造形研究科造形専攻の博士(後期)課程に
 おいて所定の単位を修得し学位論文等の審査及び最終
 試験に合格したので博士(造形)の学位を授与する

年 月 日

長 岡 造 形 大 学 長
 氏 名

印

乙第 号

学 位 記

大 学
の 印

氏 名

年 月 日生

本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格
したので博士(造形)の学位を授与する

年 月 日

長岡造形大学長
氏 名

印

(趣 旨)

第1条 この細則は、長岡造形大学大学院学位規程（以下「学位規程」という。）第19条の規定に基づき、長岡造形大学（以下「本学」という。）が授与する修士の学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(定 義)

第2条 この細則において学位申請者とは、学位規程第3条第1項の規定に基づき、修士の学位授与の申請をしようとする者をいう。

(修士論文等の提出資格)

第3条 学位規程第4条第1項に定められた修士論文または特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）の審査を受けることができる者は、本学大学院修士課程に2年以上在学し、大学院学則第22条に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

(修士論文等の提出)

第4条 前条に規定する要件を満たしている学位申請者は、大学院学則第20条に規定する研究指導を行う教員（以下「指導教員」という。）のもとで研究指導を受けて修士論文等を作成し、修士論文の場合は正本1部副本2部を、特定の課題についての研究の成果の場合は作品一式を指導教員の承認を得て学長に提出する。

2 修士論文を提出しようとする者は、前項に規定する修士論文のほか、次に掲げる書類を提出しなければならない。

- | | |
|--|----|
| (1) 学位授与申請書（論文） | 1部 |
| (2) 論文要旨（A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文） | 3部 |

3 特定の課題についての研究の成果を提出しようとする者は、第1項に規定する作品一式のほか、次に掲げる書類等を提出しなければならない。

- | | |
|---|---------|
| (1) 学位授与申請書（特定の課題についての研究） | 1部 |
| (2) 研究副論文（A4版20,000字程度、和文） | 正1部 副2部 |
| (3) 研究副論文要旨（A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文） | 3部 |
| (4) 保存用写真資料（A4版） | 3部 |

4 学位申請者は修士論文等の提出に先立ち、研究科委員会が定める中間発表を行わなければならない。

(学位授与の申請時期)

第5条 前条の修士論文等の申請は、在学中に行うものとし、修士論文等の提出時期は研究科委員会が別に定める。

(副査候補者の選出)

第6条 学位規程第6条第2項に定める審査委員会の主査（以下「主査」という。）は、提出された修士論文等の主題に応じて副査候補者を選出し、研究科委員会に推薦する。

(修士論文等発表会)

第7条 修士論文等の審査の一環として、修士論文等発表会を公開で開催する。なお、発表会の日程等は、研究科委員会が別に定める。

(修士論文等の審査及び最終試験の評価)

第8条 審査委員会は、修士論文等の審査の評価は素点で、最終試験の評価は「合格」又は「不合格」で表す。

(修士論文等の審査及び最終試験の結果報告)

第9条 主査は、修士論文等の審査及び最終試験が終了したときは、修士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を研究科委員会に提出する。

(学位授与の審議及び議決)

第10条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて、修士課程修了の可否について審議する。

2 研究科委員会は、前項の結果を学長に報告する。

(学位授与の時期)

第11条 学位記の授与は、3月及び9月に行う。

(修士論文及び論文要旨等の保管)

第12条 第10条により学位を授与されることが決定した者の修士論文、論文要旨、作品説明小論文及び保存用写真資料は、審査終了後、主査が本学附属図書館に各1部を提出し、本学附属図書館が保管及び公開するものとする。

(委 任)

第13条 この細則に定めるもののほか、修士の学位に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
(修士論文等の提出)
- 2 平成29年度以前の入学者には、第4条第2項第2号に規定する「A 4版1,000語程度の英文」及び第4条第2項第3号に規定する「研究副論文、研究副論文要旨」の提出については適用しない。

平成 年 月 日

学位授与予備申請書

長岡造形大学

学長 ○○ ○○ 様

このたび、長岡造形大学の修士学位を申請したく、所定の期限までに関係書類を提出します。

指導教員名（主査） _____ 印

以下1. 2いずれかに○をする。1を選択した場合「論文題目」、2の場合「作品名」を点線部分に記載のこと。

1. 修士論文 [外国語の場合は、その和訳を併記すること]

2. 特定の課題についての研究

.....

.....

.....

.....

申請者

(ふりがな)

氏 名： _____ 印

所 属：長岡造形大学大学院 ○○○○○○ _____

平成 年 月 日

学位授与申請書

長岡造形大学

学 長 ○○ ○○ 様

申請者

学籍番号

大学院造形研究科造形専攻

修士課程

ふり がな
氏 名

下記のとおり、修士論文を提出しますので、審査をお願いします。

記

修 士 論 文 (和文又は英文)

正本 1 部 副本 2 部

修士論文要旨 (A 4 版 2,000字程度の和文及び A 4 版1,000語程度の英文) 3 部

論 文 題 目	
---------	--

※ 「修士論文」の提出にあたっては製本を原則とし、それぞれに「論文要旨」を添付すること。

指 導 教 員 承 認 印
氏 名
印

平成 年 月 日

学位授与申請書

長岡造形大学

学 長 ○○ ○○ 様

申請者

学籍番号

大学院造形研究科造形専攻

修士課程

ふり がな
氏 名

下記のとおり、特定の課題についての研究成果を提出しますので、審査をお願いします。

記

作 品 一 式

研究副論文（A 4版20,000字程度、和文）

正本 1部 副本 2部

研究副論文要旨（A 4版2,000字程度の和文及びA 4版1,000語程度の英文）

3部

保存用写真資料（A 4版）

3部

作 品 名	
-------	--

※ 「作品の説明小論文」の提出にあたっては製本を原則とし、それぞれに「保存用写真資料」を添付すること。

指 導 教 員 承 認 印
氏 名
印

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この細則は、長岡造形大学大学院学位規程（以下「学位規程」という。）第19条の規定に基づき、長岡造形大学（以下「本学」という。）が授与する博士の学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この細則において課程申請者とは、学位規程第3条第2項の規定に基づき、博士の学位授与の申請をしようとする者をいう。

2 この細則において論文申請者とは、学位規程第3条第3項の規定に基づき、博士の学位授与の申請をしようとする者をいう。

第2章 課程修了による学位授与

(課程申請者の資格)

第3条 学位規程第4条第2項に定める博士論文の提出により博士の学位を申請できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 本大学院の博士（後期）課程（以下「博士課程」という。）に所定の年限以上在学し、所定の単位を取得し、かつ、必要な研究指導を受けた者。

(2) 同課程に所定の年限以上在学し、所定の単位を取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上退学（以下「単位取得満期退学」という。）した者のうち、最初の退学後2年以内に再入学した者。

2 前項に規定する在学の期間は、特に優れた研究業績を上げた者についてはこの限りでない。

(博士論文等の提出)

第4条 前条により博士論文の審査を受けようとする者は、次に掲げる書類（以下「博士論文等」という。）を長岡造形大学大学院学則第20条に規定する研究指導を行う教員（以下「指導教員」という。）の承認を経て学長に提出する。

- | | |
|--|-----------|
| (1) 学位授与申請書（課程博士） | 1部 |
| (2) 博士論文（A4版、和文又は英文） | 正本1部、副本4部 |
| (3) 博士論文要旨（A4版2,000字程度の和文及びA4版3枚程度の英文） | 各5部 |
| (4) 論文目録及び別刷 | 各5部 |
| (5) 履歴書 | 5部 |

2 課程申請者は前項に規定する博士論文等として、必要に応じて研究作品一式を提出することができる。

3 課程申請者は博士論文等の提出に先立ち、審査付投稿論文を2編以上学会等に発表（以下、「学会発表等」という。）し、研究科委員会が定める中間発表を行わなければならない。

4 前項に規定する学会発表等は、第2項及び次の各号のすべてに該当する場合には、これに代えることができる。

(1) 審査付投稿論文を1編以上学会等に発表していること

(2) 全国的あるいは国際的規模の展覧会、コンクール等に作品を出展し、2回以上の受賞歴を有し、またはそれに準ずる成果を挙げていること

(学位授与の申請時期)

第5条 前条第1項に定める書類等を提出する時期は、研究科委員会が別に定める。

(副査候補者の選出)

第6条 学位規程第6条第3項に定める審査委員会の主査（以下「主査」という。）は提出された論文の主題等に応じて副査候補者を選出し、研究科委員会に推薦する。

(論文発表会)

第7条 博士論文の審査の一環として、論文発表会を公開で実施する。

2 課程申請者は、論文発表会で、博士論文の発表を行う。

3 主査は、論文発表日の日程等を定め、課程申請者に通知するとともに、これを実施日の1週間前までに公示する。

(博士論文の審査及び最終試験の結果報告)

第8条 博士論文の審査及び最終試験（以下「論文審査等」という。）の成績は、審査委員会が博士論文の審査と最終試験を別々に判定し、評価は合格又は不合格で表す。

2 審査委員会は、学位授与の可否に関する意見をまとめ、論文審査等を終了する。

3 審査委員会は、論文審査等が終了したときは、博士論文の要旨、審査結果の要旨並びに博士論文審査結果及び最終試験結

果報告書を研究科委員会に提出する。

(学位授与の審議及び議決)

第9条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて、課程申請者に学位を授与すべきか否かを審議する。

2 研究科委員会は、前項の結果を学長に報告する。

(博士論文の保管)

第10条 前条により学位を授与されることが決定した者の博士論文は、審査終了後、主査が本学附属図書館に1部を提出し、本学附属図書館が保管及び公開するものとする。

(学位授与の時期)

第11条 学位記の授与は、3月及び9月に行う。

第3章 論文提出による学位授与

(論文申請者の資格)

第12条 学位規程第4条第3項に定める博士論文の提出により博士の学位を申請できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 単位取得満期退学した者のうち、第3条第1項第2号に該当しない者。
- (2) 大学卒業後原則5年以上又は大学院博士課程の前期課程又は修士課程修了後3年以上の研究歴を有する者。
- (3) 前号に規定する者と同等以上の研究歴を有する者。

2 前項第2号及び第3号の研究歴とは、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) 大学又は大学院の専任教員として研究に従事した期間
- (2) 大学又は大学院の研究生として研究に従事した期間
- (3) 大学院の学生として在学し研究に従事した期間
- (4) 官公庁、会社等において研究に従事した期間
- (5) その他研究科委員会が認めた研究に従事した期間

(博士論文等の提出)

第13条 前条により博士論文の審査を受けようとする者は、次の各号に掲げる別に定める書類に博士論文審査手数料を添えて、研究科委員会が指定する教員及び研究科長の確認を経て学長に提出する。

- | | |
|--|-----------|
| (1) 学位授与申請書(論文博士) | 1部 |
| (2) 博士論文(A4版、和文又は英文) | 正本1部、副本4部 |
| (3) 博士論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版3枚程度の英文) | 各5部 |
| (4) 論文目録及び別刷 | 各5部 |
| (5) 履歴書 | 5部 |
| (6) 研究従事内容証明書 | 1部 |
| (7) 最終学歴の証明書 | 1部 |

2 論文申請者は、前項に定める書類の提出に先立ち、審査付投稿論文を4編以上学会等に発表しなければならない。

3 学長に受理された第1項に規定する書類及び博士論文審査手数料は、原則として返還しない。

(学位授与の申請時期)

第14条 論文申請者が前条に定める書類等を提出する時期は、研究科委員会が別に定める。

(副査候補者の選出)

第15条 学位規程第6条第3項に定める審査委員会の主査は提出された博士論文の主題等に応じて副査候補者を選出し、研究科委員会に推薦する。

(論文発表会)

第16条 博士論文の審査の一環として、論文発表会を公開で実施する。

2 論文申請者は、論文発表会で、博士論文の発表を行う。

3 主査は、論文発表日の日程等を定め、論文申請者に通知するとともに、これを実施日の1週間前までに公示する。

(論文審査等及び学力の確認の結果報告)

第17条 論文審査等及び学力の確認の結果は、審査委員会が博士論文の審査、最終試験及び学力の確認をそれぞれ別々に判定し、評価は合格又は不合格で表す。

2 審査委員会は、学位授与の可否に関する意見をまとめ、論文審査等及び学力の確認を終了する。

3 主査は、論文審査等及び学力の確認が終了したときは、博士論文の要旨、審査結果の要旨及び博士論文審査結果、最終試験結果及び学力の確認結果報告書を研究科委員会に提出するものとする。

4 審査委員会は、前項の報告を審査の申請が受理された日から1年以内に行わなければならない。
(学位授与の審議及び議決)

第18条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて、論文申請者に学位を授与すべきか否かを審議する。

2 研究科委員会は、前項の結果を学長に報告する。
(博士論文の保管)

第19条 前条により学位を授与されることが決定した者の博士論文は、審査終了後、主査が本学附属図書館に1部を提出し、本学附属図書館が保管及び公開するものとする。

(学位授与の時期)

第20条 学位記の授与は、3月及び9月に行う。

(委 任)

第21条 この細則に定めるもののほか、博士の学位に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。

(博士論文等の提出)

2 平成29年度以前の入学者には、第4条第2項及び第4項の規定は適用しない。

平成 年 月 日

学位授与申請書

長岡造形大学
学 長 ○○ ○○ 様

申請者

学籍番号

大学院造形研究科博士（後期）課程

造形専攻

ふりがな
氏 名

印

下記のとおり、所定の期日までに博士論文を提出しますので、審査をお願いします。

記

博 士 論 文（A 4 版、和文又は英文） 正本 1 部 副本 4 部
博士論文要旨（A 4 版 2,000 字程度の和文及びA 4 版 3 枚程度の英文）各 5 部
論文目録及び別刷 各 5 部
履 歴 書 5 部

論文題目 (外国語の場合 は、その和訳を併 記すること。)	
--	--

指 導 教 員 確 認 印

氏 名

印

(記 入 例)

論 文 目 録

(/) 頁

甲・乙 第 号	氏 名	印
<p>学位論文</p> <p>(1) 題 目 (外国語の場合は、その和訳を付記すること。)</p> <p>(2) 印刷公表の方法及び時期</p> <p>審査付発表論文 (別刷又は写を添付すること。)</p> <p>(レフェリー制のある学術雑誌)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 著者名 (全員) ○○○○○○○○○ (題目) ○○学雑誌第○巻○頁～○頁 (○○○○年○月発行に掲載)・ 著者名 (全員) ○○○○○○○○○ (題目) ○○学雑誌第○巻 (○○○○年○月発行に掲載予定)		

(記入例)

甲・乙 第 号

履 歴 書

ふりがな 氏 名	00 00 00 00 ○ ○ ○ ○	性別	男・女
生年月日	平成 ○○ 年 ○○ 月 ○○ 日生 (満 歳)		
本籍又は国籍	○ ○ 県		
現住所	○○県○○市○○町○番地○号		
学 歴			
平成○○年○○月○○日 ○○○○ 高等学校卒業			
平成○○年○○月○○日 長岡造形大学 造形学部入学			
平成○○年○○月○○日 同 上 卒 業			
平成○○年○○月○○日 長岡造形大学大学院 造形研究科造形専攻修士課程入学			
平成○○年○○月○○日 同 上 修 了			
平成○○年○○月○○日 長岡造形大学大学院 造形研究科造形専攻博士 (後期) 課程入学			
平成○○年○○月○○日 同 上 修了見込 (または単位取得満期退学)			
職 歴			
な し			
賞 罰			
な し			
上記のとおり相違ありません。 平成○○年○○月○○日 ○ ○ ○ ○ 印			

平成 年 月 日

博士論文審査結果及び最終試験結果報告書

長岡造形大学大学院造形研究科委員会

審査委員会主査氏名

印

博士論文審査結果及び最終試験結果を次のとおり報告します。

甲・乙 第 号	課程申請者・ 論文申請者氏名	
論文題目 (外国語の場合は、 その和訳も付記)		
博士論文審査	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	合格 ・ 不合格
最終試験	平成 年 月 日	合格 ・ 不合格
審査委員会	主査氏名	
	副査氏名	
意見		

平成 年 月 日

学位授与申請書

長岡造形大学

学 長 ○○ ○○ 様

本 籍 (都道府県)

現住所

氏 名

印

下記のとおり博士論文を提出し、審査手数料 円を納めますので、審査をお願いします。

記

博 士 論 文 (A 4 版、和文又は英文)	正本 1 部 副本 4 部
博士論文要旨 (A 4 版 2,000 字程度の和文及びA 4 版 3 枚程度の英文)	各 5 部
論文目録及び別刷	各 5 部
履 歴 書	5 部
研究従事内容証明書	1 部
最終学歴の証明書	1 部

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)	
--------------------------------	--

担当教員確認	氏名	印
造形研究科長確認	氏名	印

研究従事内容証明書

氏 名	
研究に従事していた 機関、所属部局、 職名等	
研究従事期間	昭和 平成 年 月 日 から 昭和 平成 年 月 日
研究従事時間	1週平均 時間, 1日平均 時間
(研究題目・研究内容)	
(研究業績・その他参考事例)	

長岡造形大学大学院造形研究科長 ○○ ○○ 様

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成 年 月 日

指導者の所属部局, 職, 氏名

印

機関の長又は代表者

印

平成 年 月 日

博士論文審査結果、最終試験結果及び学力の確認結果報告書

長岡造形大学大学院研究科委員会

審査委員会主査氏名

印

博士論文審査結果、最終試験結果及び学力の確認の結果を次のとおり報告します。

甲・乙 第 号	課程申請者・ 論文申請者氏名	
論文題目 (外国語の場合は、 その和訳も付記)		
博士論文審査	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	合格 ・ 不合格
最終試験	平成 年 月 日	合格 ・ 不合格
学力の確認	平成 年 月 日	合格 ・ 不合格
審査委員会	主査氏名	
	副査氏名	
意見		



公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

学務課
940-2088 新潟県長岡市千秋4丁目197番地
tel 0258-21-3351 fax 0258-21-3343
e-mail gakumu@nagaoka-id.ac.jp
<http://www.nagaoka-id.ac.jp/>

